苫小牧市こども計画策定に向けた
アンケート調査結果報告書

令和 8 年 11 月

苫小牧市

目　次

Ⅰ 調査の概要 1

1 調査の目的 1
2 調査概要 1
3 回答状況 1
4 調査結果の見方・留意点 2

Ⅱ 基本属性 4

1 性別 4
2 回答者の年齢 4
3 家族構成 5
4 国籍 7
5 居住地区 8
6 職業等 9

Ⅲ 家庭・ふだんの生活のこと 13

1 家庭で使用する言語 13
2 ヤングケアラー 14
3 こどもの家族ケアが学業に与える影響 23
4 こどもに対する特別な配慮の必要性 25
5 学校からの情報の理解度 25
6 学校外での学習状況 26
7 家庭の経済状況 27

Ⅳ 心身の健康のこと 31

1 幸福度 31
2 自己肯定感 32
3 健康状態 33
4 家庭での食事 34
5 睡眠時間 38
6 こども・若者の困りごとや悩み 39
7 保護者の困りごとや悩み 43
8 孤独感 48

Ⅴ 学校の生活のこと 50

1 学校生活の楽しさ 50
2 学校の授業や勉強 50
3 学校生活における懸念 52

4 学校の体制 53
Ⅵ 居場所のこと 55
1 習い事・クラブ活動・部活動 55
2 こども・若者が過ごしている場所 57
3 望まれている居場所 63
Ⅶ SNS のこと 65
1 平日のスマートフォン・タブレット・ゲームの使用時間 65
Ⅷ 将来のこと 66
1 将来が楽しみか 66
2 進路・進学 67
3 就労・職業観 69
4 結婚に対する考え方 74
5 子育てに対する考え方 78
Ⅸ こどもの権利のこと 80
1 こどもの権利の実感 80
2 保護者が意識しているこどもの権利 81
3 家庭内でのこどもの意見尊重 82
4 苫小牧市に意見を伝えやすい方法 83
Ⅹ 苫小牧市のこと 84
1 市への思い 84
2 苫小牧市での子育て 89
3 苫小牧市への意見 94
Ⅺ 集計・分析結果からわかること 107
1 こども・若者の幸福感は高い一方、自己肯定感の向上が課題 107
2 長時間にわたる家族の世話が学校生活へ与える影響 107
3 食生活は概ね安定しているが、生活リズムへの対応が必要 108
4 相談先は家族・友人が中心であり、相談につながらない層への接点が必要 108
5 放課後や地域における、多様で安心できる居場所の充実 108
6 子育て世帯の経済的負担と、学齢期まで切れ目のない支援 109
7 まちへの愛着を、定住・就労意向につなげる取組 109
8 こどもの権利 110
9 外国籍住民との共生 110

Ⅰ 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「苫小牧市こども計画」（令和 9 年度から令和 11 年度まで）の策定に当たり、こども・若者及び子育て世代の意識と生活実態を把握し、施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

市内のこども・若者及び保護者を対象として、家庭生活、心身の健康、学校生活、居場所、情報環境、将来、苫小牧市への意識、こどもの権利等について幅広く意見を聴取しました。

調査結果は、こども・若者自身及び保護者が感じている現状や課題、将来への思いを整理し、苫小牧市こども計画における施策の検討及び今後の取組の基礎資料として活用します。

2 調査概要

実施期間	令和 8 年 6 月 16 日（火）から令和 8 年 7 月 15 日（水）まで（30 日間）
調査対象	苫小牧市内の小学校に通学している小学 5 年生 調査対象となる小学 5 年生の保護者 苫小牧市内の中学校に通学している中学 2 年生 調査対象となる中学 2 年生の保護者 苫小牧市内に居住する 16 歳から 39 歳のうち、無作為に抽出した 3,000 人
依頼方法	小学 5 年生・中学 2 年生及びそれぞれの保護者は学校を通じて依頼 16 歳から 39 歳の市民は郵送により依頼
回答方法	WEB 回答 紙媒体での回答を希望する方には、調査票を郵送

3 回答状況

調査対象	調査数	回答数	回答率	設問数
小学 5 年生	1,357 件	1,205 件	88.8%	40 問
小学 5 年生保護者	1,345 件	585 件	43.5%	40 問
中学 2 年生	1,396 件	1,172 件	84.0%	46 問
中学 2 年生保護者	1,384 件	496 件	35.8%	39 問
16 歳から 39 歳	3,000 件	489 件	16.3%	47 問

4 調査結果の見方・留意点

1 図表中に記載している「n」は、各設問の集計対象者数を示し、回答割合を算出する際の基数となるものです。

2 回答割合は百分率で示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位まで表示しています。このため、単数回答であっても、回答割合の合計が 100.0%にならない場合があります。

3 回答は原則として任意であるため、設問によっては調査対象者数と回答数が一致しない場合があります。無回答は、原則として図表に含めて表示します。

4 「単数回答」は選択肢の中から 1 つを選ぶ設問、「複数回答」は当てはまる選択肢を複数選ぶことができる設問です。複数回答の割合は、各選択肢の回答者数を集計対象者数で除して算出するため、合計が 100.0%を超える場合があります。

5 分岐設問では、前の設問で特定の回答を選んだ人を集計対象とし、分岐後の対象者数を n として表示します。

6 同じ趣旨の設問が複数の調査対象に設定しているものは、設問文、選択肢及び集計条件の対応を確認した上で、対象者間を比較します。比較条件が異なる場合は、その旨を注記します。

7 クロス集計表では、原則として「その他」「無回答」「非該当」を順位判定から除外し、1 番目に割合の多い回答を太字及び濃い網掛け、2 番目に割合の多い回答を薄い網掛けで示します。同率の場合は、該当する複数の項目に同じ網掛けを行います。

8 一部のクロス集計表は割合の高低をヒートマップで色の違いや濃淡で示しています。濃い青が最も多い割合を示しており、割合が低くなるとともに色を薄くして表現しています。

9 一部のクロス集計では、サンプルサイズが小さいため、統計的な有意性を示すものではなく、あくまで傾向把握のための参考値として掲載します。

10 自由記述は、回答の趣旨を損なわないよう内容を分類し、該当する各カテゴリ内に掲載します。個人、学校その他の対象が特定される可能性がある表現は、趣旨を変えない範囲で一般化します。

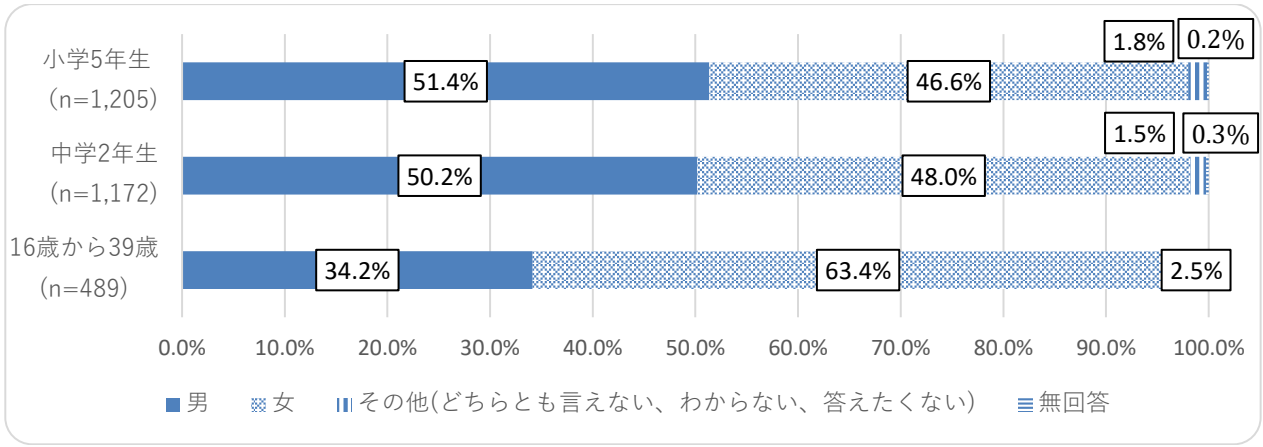
11 各調査の最後の設問（自由記述）については、テキストマイニング分析を行っています。テキストマイニングでは、記述中に出現する語句の頻度や語句同士の関連を可視化し、自由記述に含まれる意見の傾向を構造的に整理します。円の色が同種の意見で出てくる語句の集まり、大きさがその語句を含んだ意見の件数の多さ、線

で結んでいるものが同じ意見の中でよく使われている語句の組み合わせ（実線ほど頻度が多い）ことを示しています。

Ⅱ 基本属性

1 性別

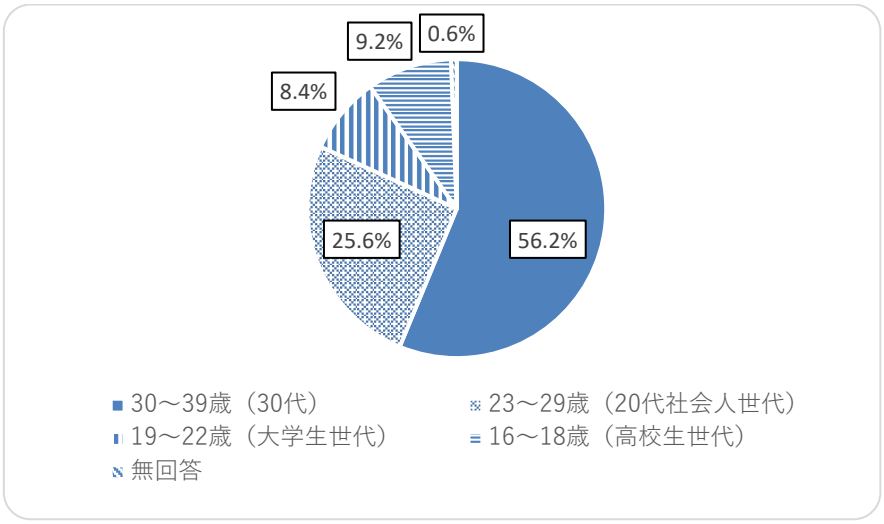
【小学 5 年生／問 2 単数回答、中学 2 年生／問 2 単数回答、16 歳から 39 歳／問 2 単数回答】



図Ⅱ-1　性別

2 回答者の年齢

【16 歳から 39 歳／問 3 単数回答】



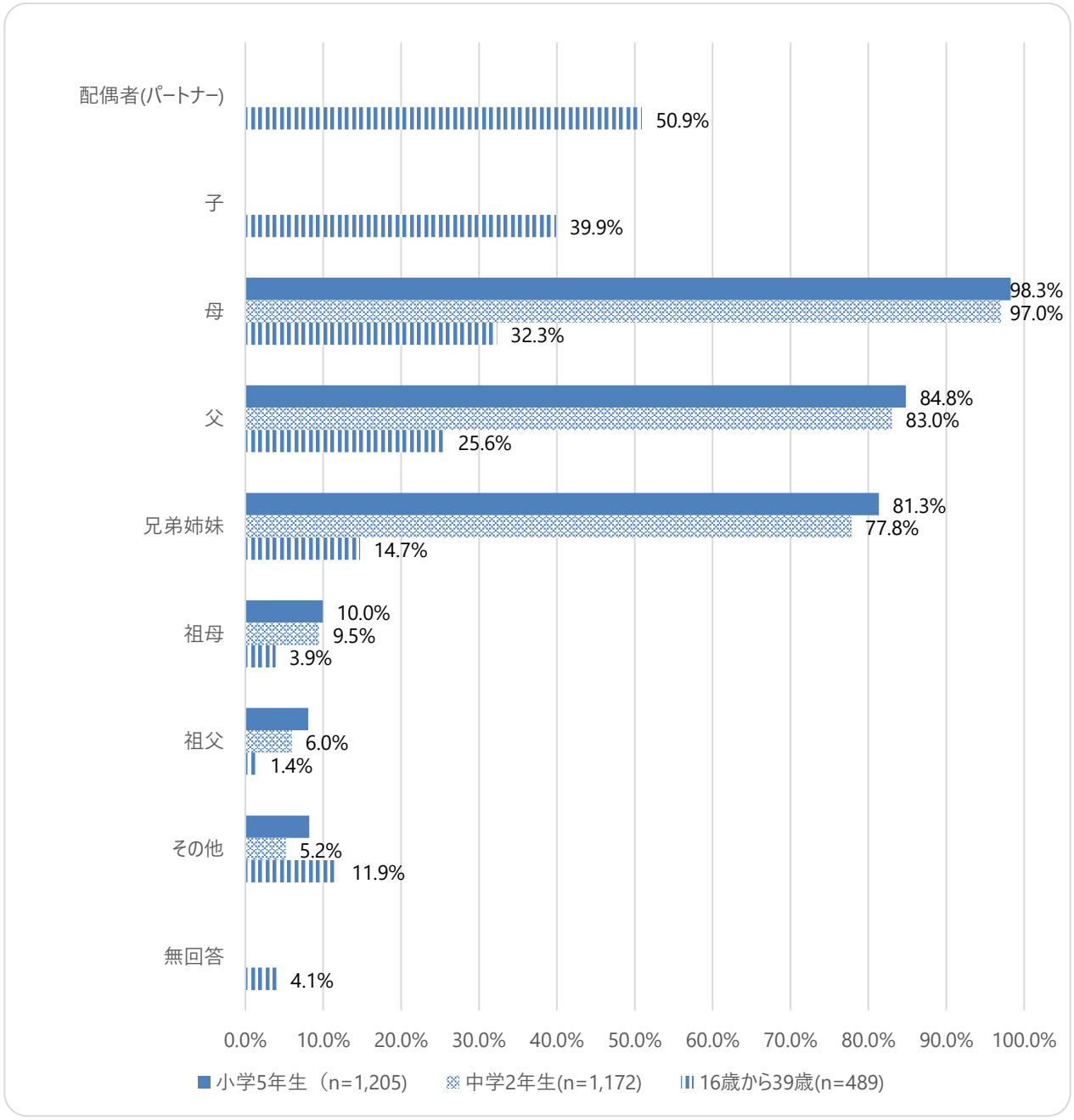
16 歳から 39 歳（n=489）

図Ⅱ-2　年齢階級

3 家族構成

≪同居家族≫

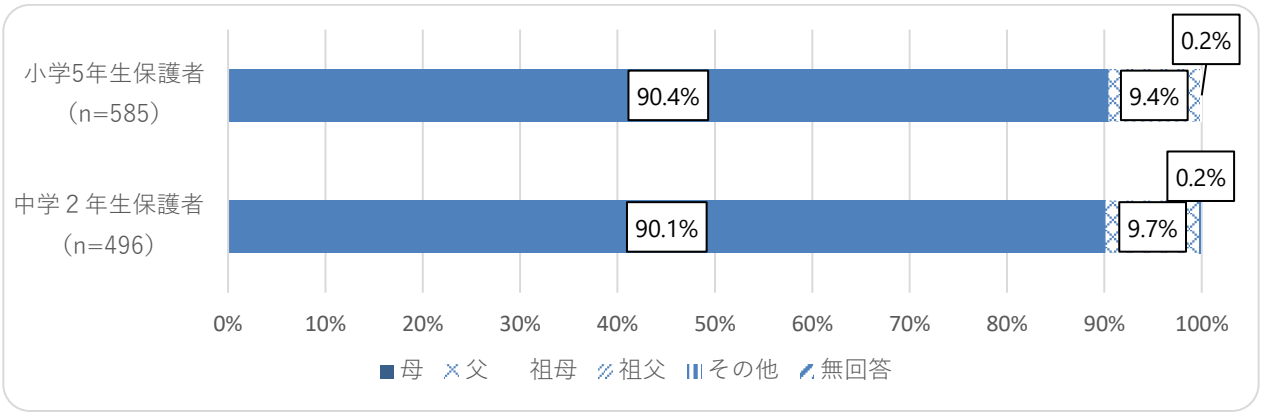
【小学 5 年生／問 3 複数回答、中学 2 年生／問 3 複数回答、16 歳から 39 歳／問 7 複数回答】



図Ⅱ-3　同居家族

≪保護者向けアンケートの回答者とこどもの関係≫

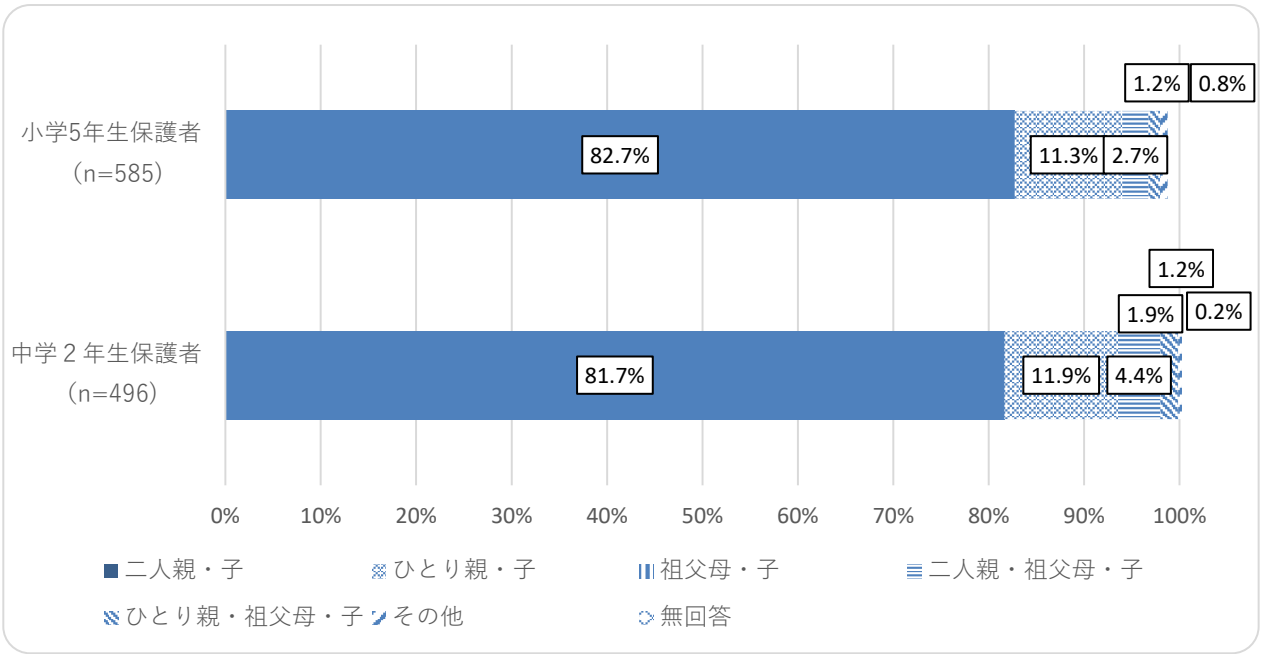
【小学 5 年生保護者／問 2 単数回答、中学 2 年生保護者／問 2 単数回答】



図Ⅱ-3-2　保護者向けアンケートの回答者とこどもの関係

≪家庭の構成≫

【小学 5 年生保護者／問 7 単数回答、中学 2 年生保護者／問 7 単数回答】



図Ⅱ-3-3　家庭の構成

4 国籍

・こども・若者の国籍【小学 5 年生保護者／問 5 単数回答、中学 2 年生保護者／問 5 単数回答、16 歳から 39 歳／問 4 単数回答】
（小学 5 年生、中学 2 年生とも、保護者アンケートの回答結果から集計した内容である）
・保護者の国籍【小学 5 年生保護者／問 3 単数回答、中学 2 年生保護者／問 3 単数回答】

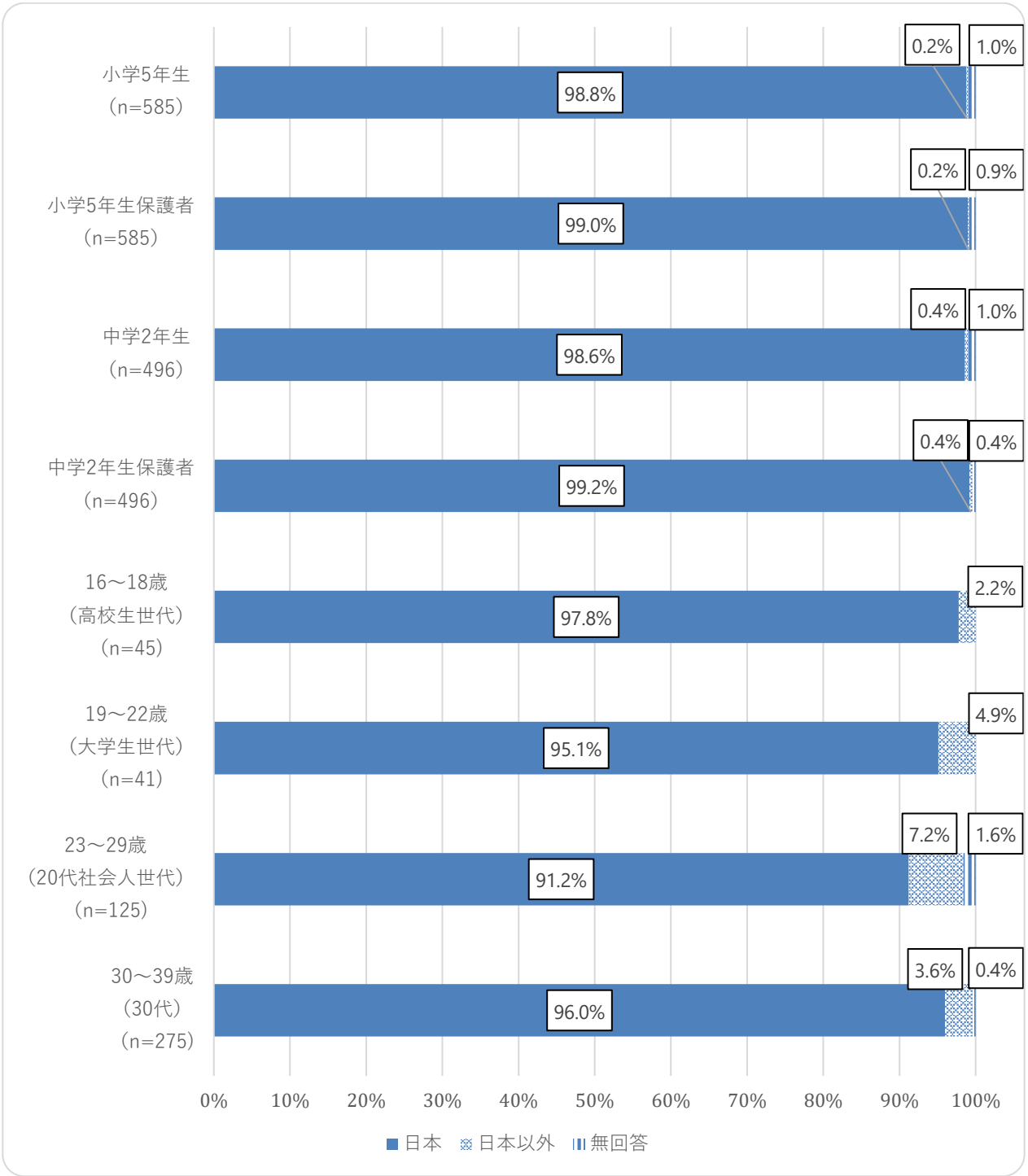
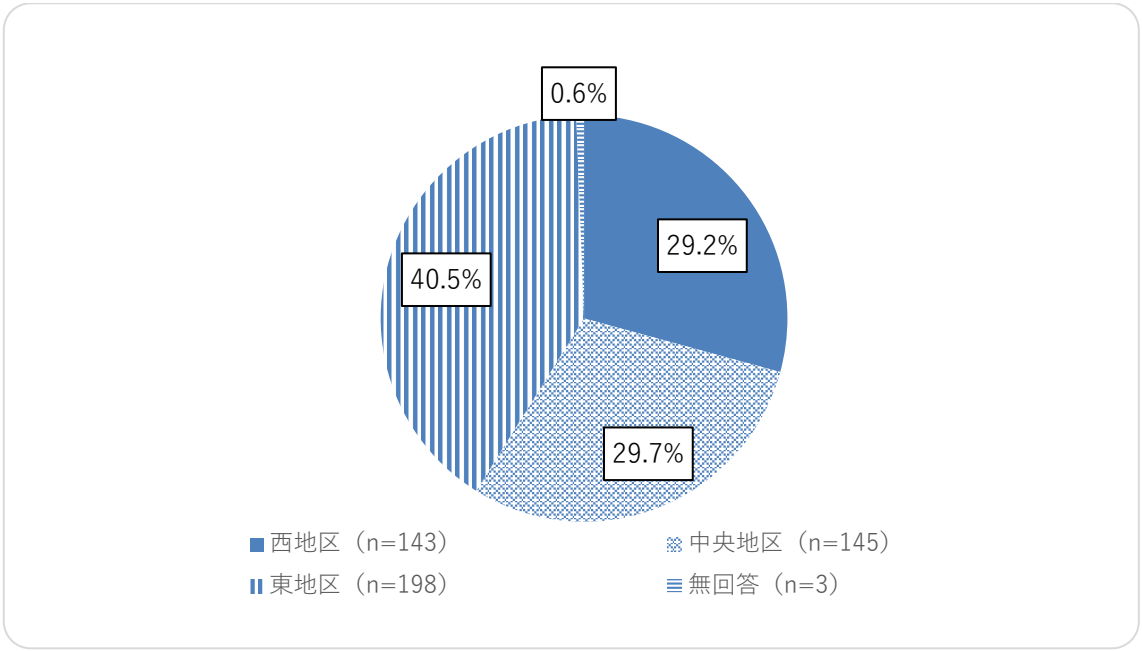


図 II -4　国籍

5 居住地区

【16 歳から 39 歳／問 6 単数回答】



16 歳から 39 歳（n=489）

図Ⅱ-5　居住地区

苫小牧地区

【西地区】

有明町、有珠の沢町、永福町、柏木町、川沿町、錦西町、小糸井町、光洋町、桜木町、桜坂町、しらかば町、澄川町、青雲町、ときわ町、豊川町、日新町、のぞみ町、はまなす町、日吉町、北星町、美原町、宮の森町、宮前町、明徳町、もえぎ町、糸井、樽前、錦岡

【中央地区】

青葉町、旭町、泉町、王子町、大町、音羽町、表町、春日町、木場町、啓北町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、白金町、新富町、新中野町、末広町、住吉町、大成町、高砂町、錦町、花園町、浜町、双葉町、北光町、本町、本幸町、松風町、緑町、港町、見山町、元町、元中野町、矢代町、山手町、弥生町、若草町、高丘

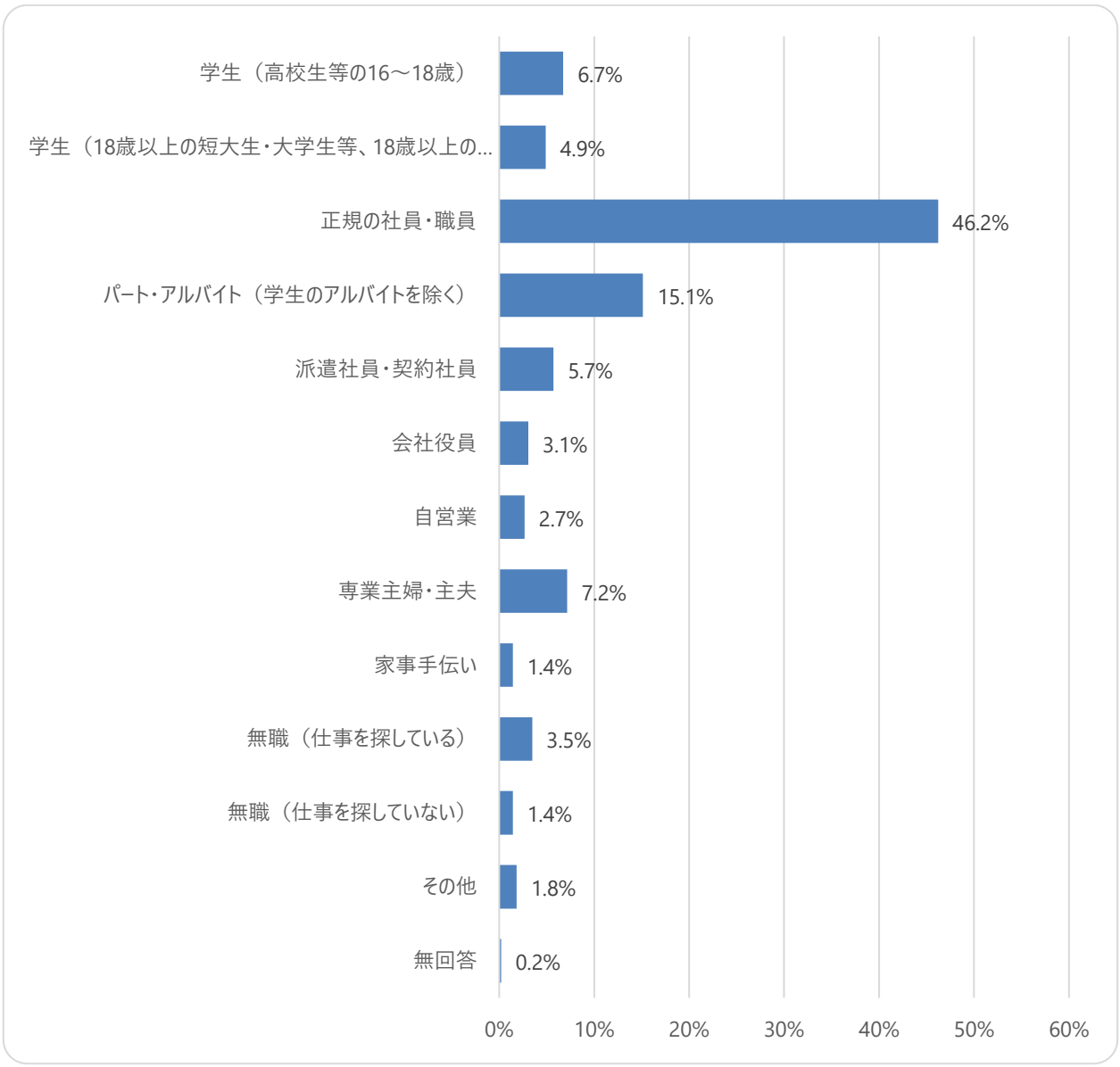
【東地区】

明野新町、明野元町、あけぼの町、一本松町、入船町、ウトナイ北、ウトナイ南、三光町、新開町、新明町、拓勇西町、拓勇東町、東開町、沼ノ端中央、晴海町、日の出町、船見町、北栄町、美園町、柳町、植苗、柏原、沼ノ端、美沢、勇払

6 職業等

≪16 歳から 39 歳の職業等≫

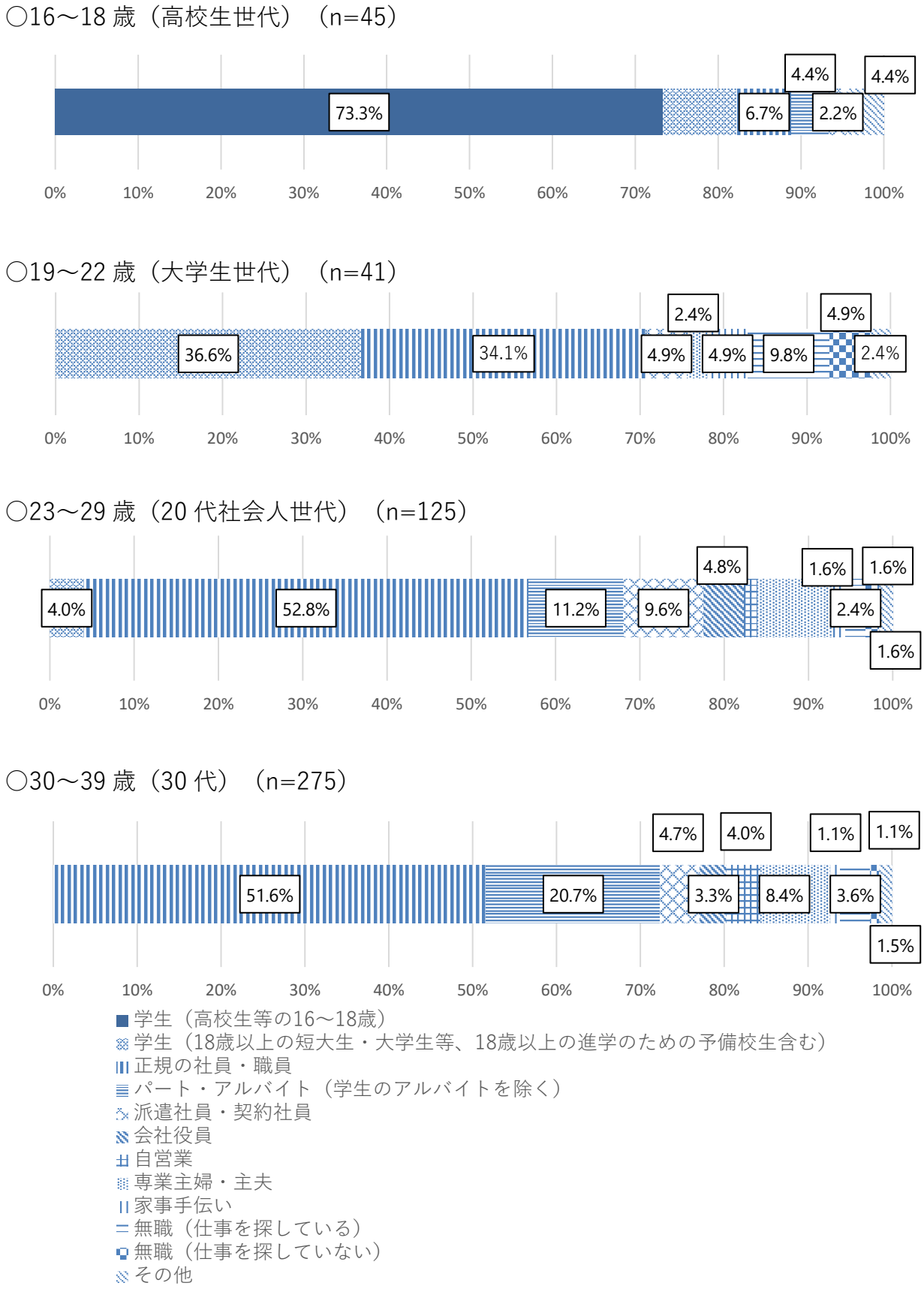
【16 歳から 39 歳／問 8 単数回答】



16 歳から 39 歳（n=489）

図Ⅱ-6　16 歳から 39 歳の職業等

≪16 歳から 39 歳の年代別職業等≫

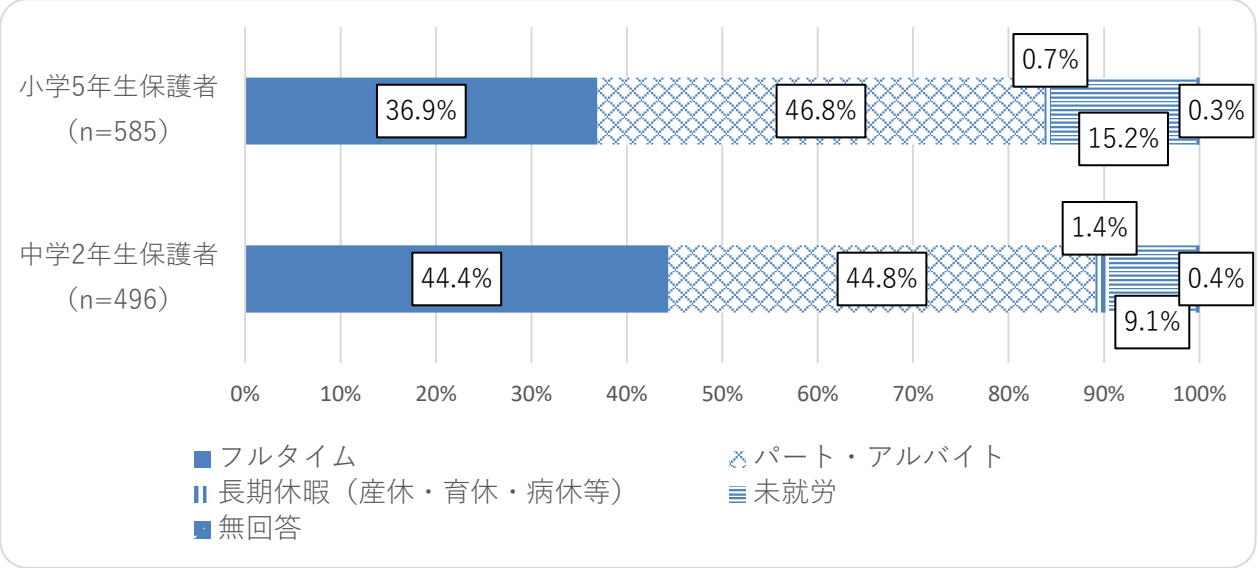


図Ⅱ-6-2　16 歳から 39 歳の年代別職業等

≪保護者（回答者）の就労状況≫

【小学 5 年生保護者／問 8 単数回答、中学 2 年生保護者／問 8 単数回答】

○小学 5 年生保護者と中学 2 年生保護者の就労状況は、どちらも「パート・アルバイト」が最も多く、次いで「フルタイム」となっている。

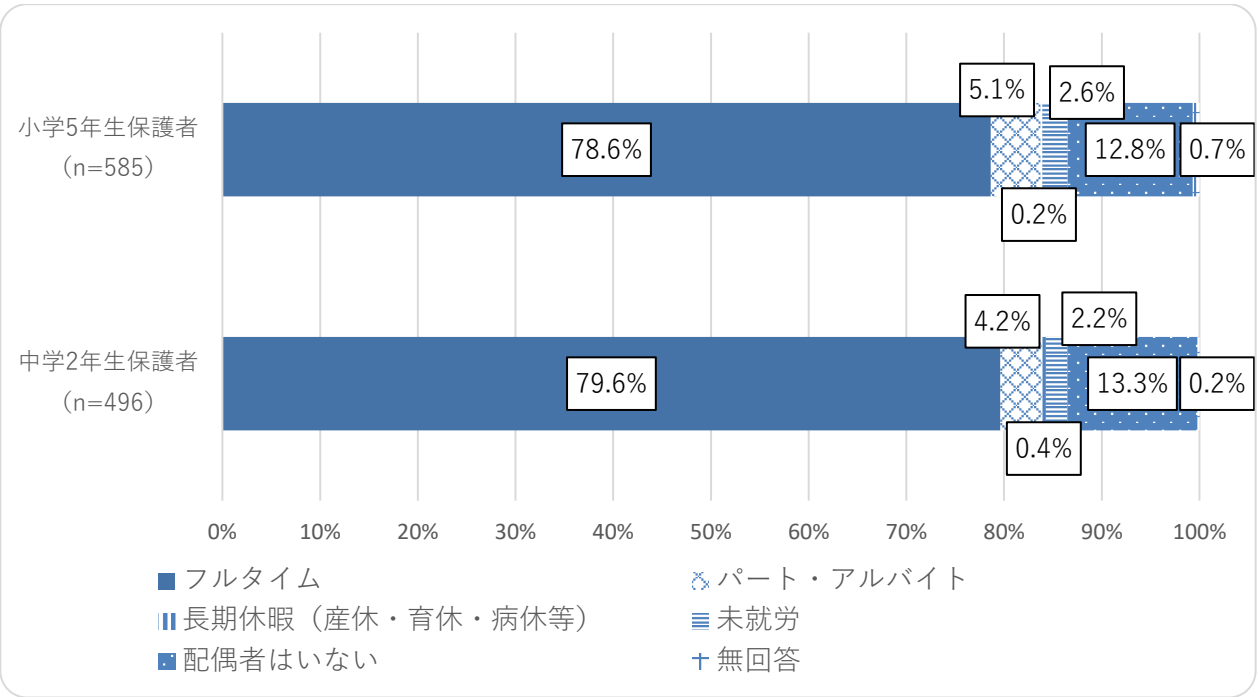


図Ⅱ-6-3　保護者本人の就労状況

≪保護者（回答者の配偶者）の就労状況≫

【小学 5 年生保護者／問 9 単数回答、中学 2 年生保護者／問 9 単数回答】

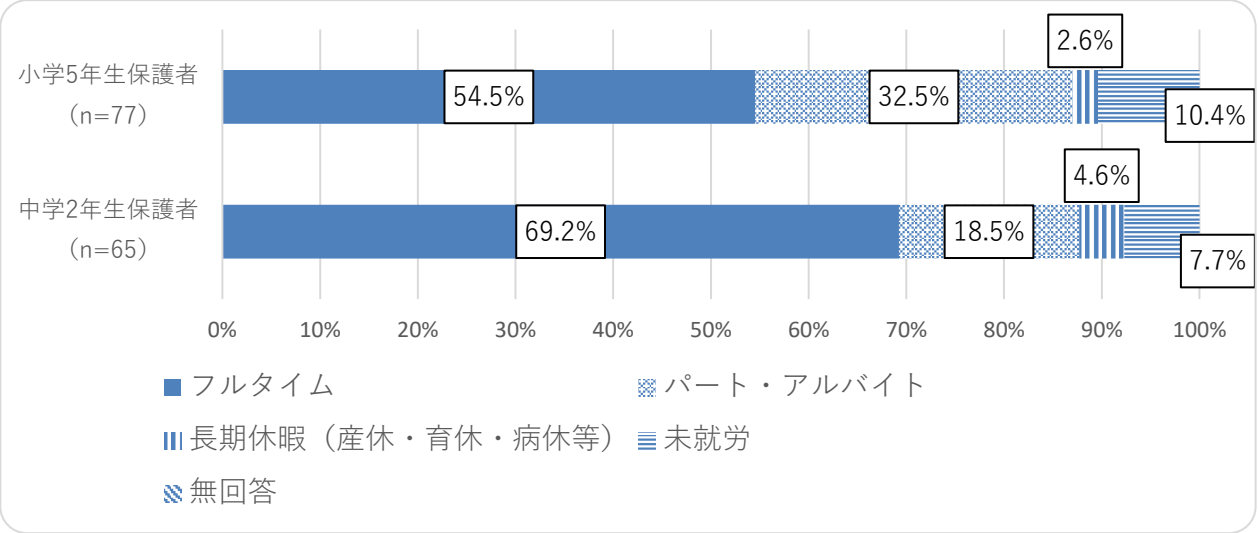
○小学 5 年生保護者と中学 2 年生保護者において、回答者の配偶者の就労状況は、どちらも「フルタイム」が最も多く、小学 5 年生保護者で 78.6%、中学 2 年生保護者で 79.6%となっている。



図Ⅱ-6-4　配偶者の就労状況

≪保護者のうちひとり親（回答者）の就労状況≫

○ひとり親の就労状況は、「フルタイム」が最も多く、小学５年生保護者で 54.5%、中学２年生保護者で 69.2%となっている。

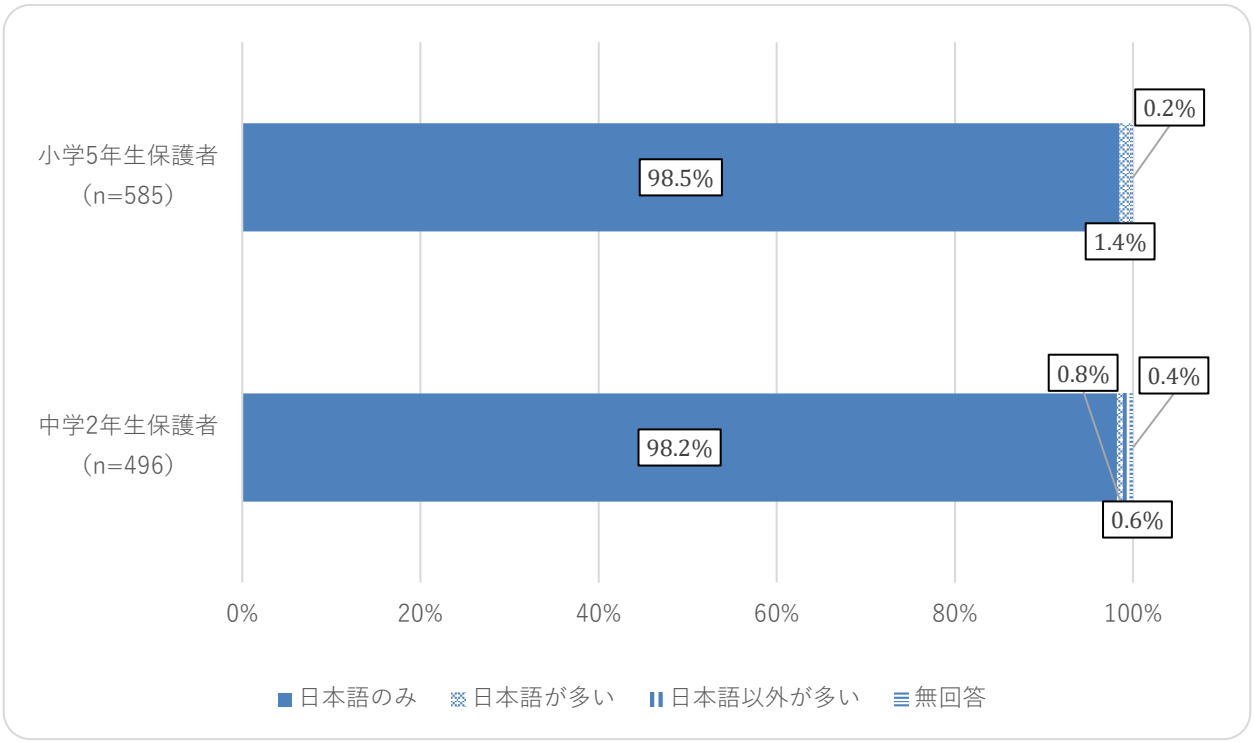


図Ⅱ-6-5　保護者本人 ひとり親の就労状況

Ⅲ 家庭・ふだんの生活のこと

1 家庭で使用する言語

【小学 5 年生保護者／問 10 単数回答、中学 2 年生保護者／問 10 単数回答】



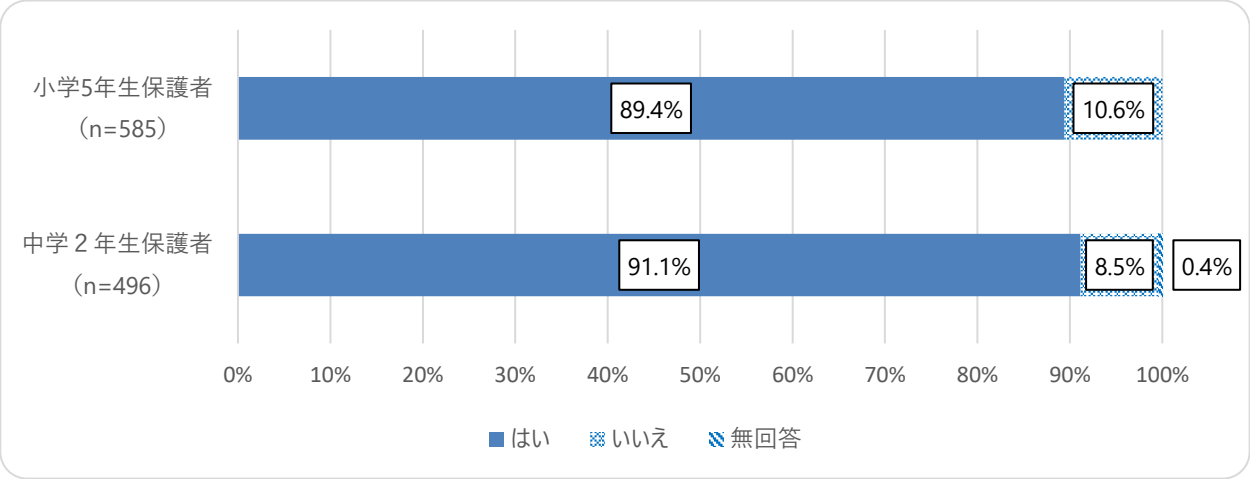
図Ⅲ-1　家庭で使用する言語

2 ヤングケアラー

≪ヤングケアラーについての認識≫

【小学 5 年生保護者／問 11 単数回答、中学 2 年生保護者／問 11 単数回答】

○ヤングケアラーについて、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに「はい（知っている）」が約 9 割となっている。



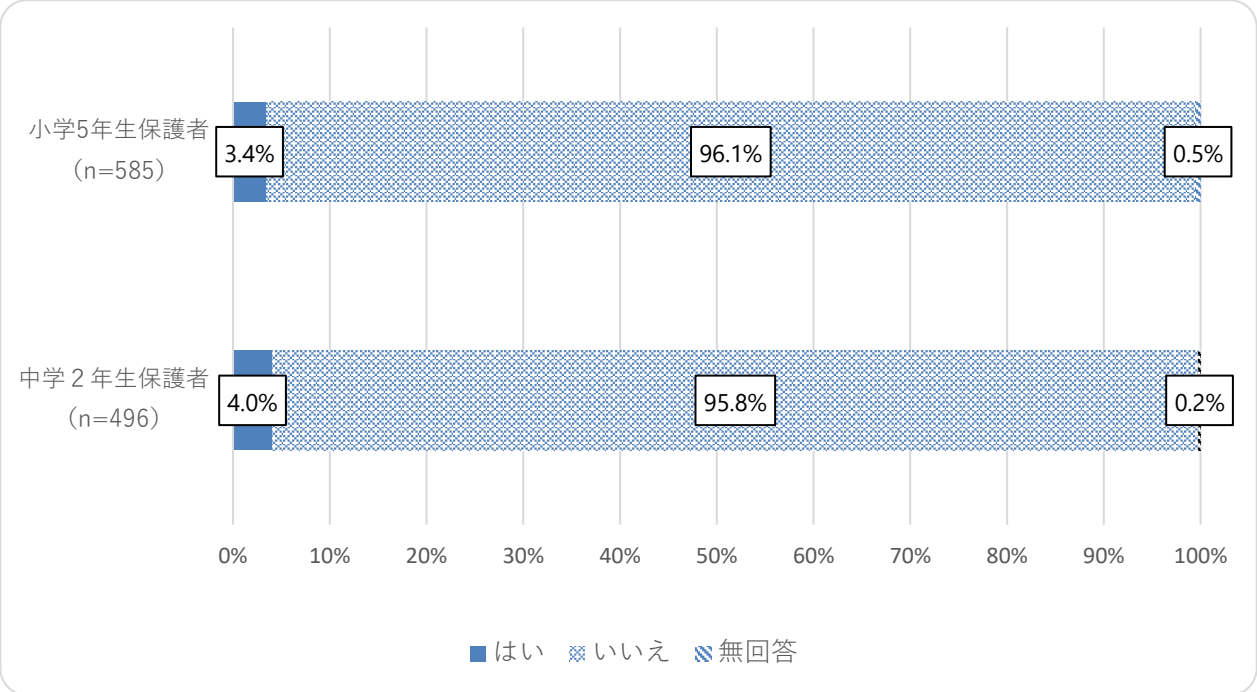
図Ⅲ-2　ヤングケアラーについての認識

≪家族のお世話の有無≫

①保護者の認識

【小学 5 年生保護者／問 12 単数回答、中学 2 年生保護者／問 12 単数回答】

○自分のこどもが「家族のお世話をしている」は、小学 5 年生保護者が 3.4%、中学 2 年生保護者が 4.0%となっている。



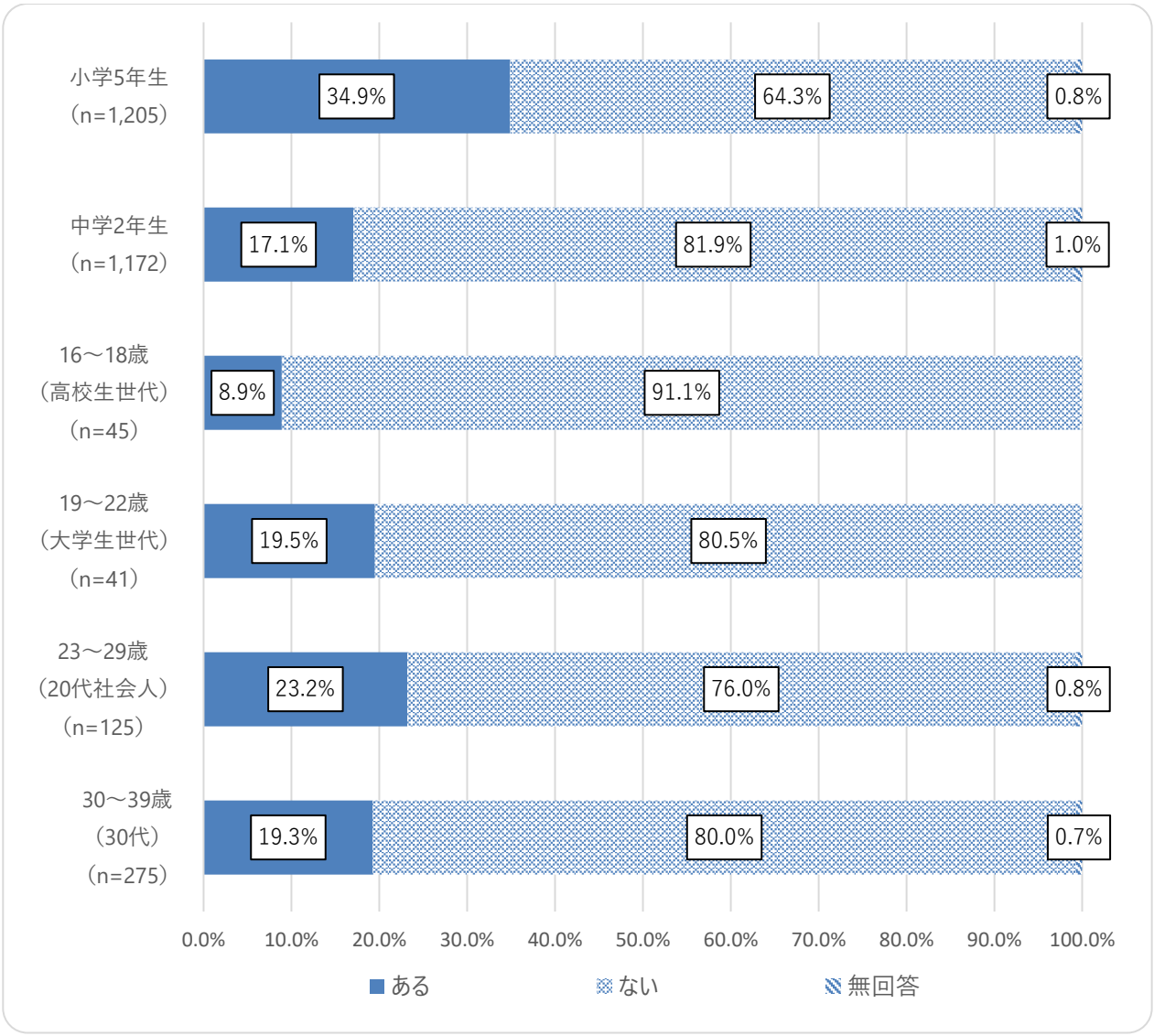
図Ⅲ-2-2　家族のお世話の有無　保護者の認識

≪家族のお世話の有無≫

②こども・若者本人の認識

【小学 5 年生／問 4 単数回答、中学 2 年生／問 4 単数回答、16 歳から 39 歳／問 9 単数回答】

○家族のお世話をすることが「ある」は、小学 5 年生が 34.9%と最も多く、中学 2 年生が 17.1%、高校生世代では 8.9%となっている。



図Ⅲ-2-3　家族のお世話の有無　こども・若者本人の認識

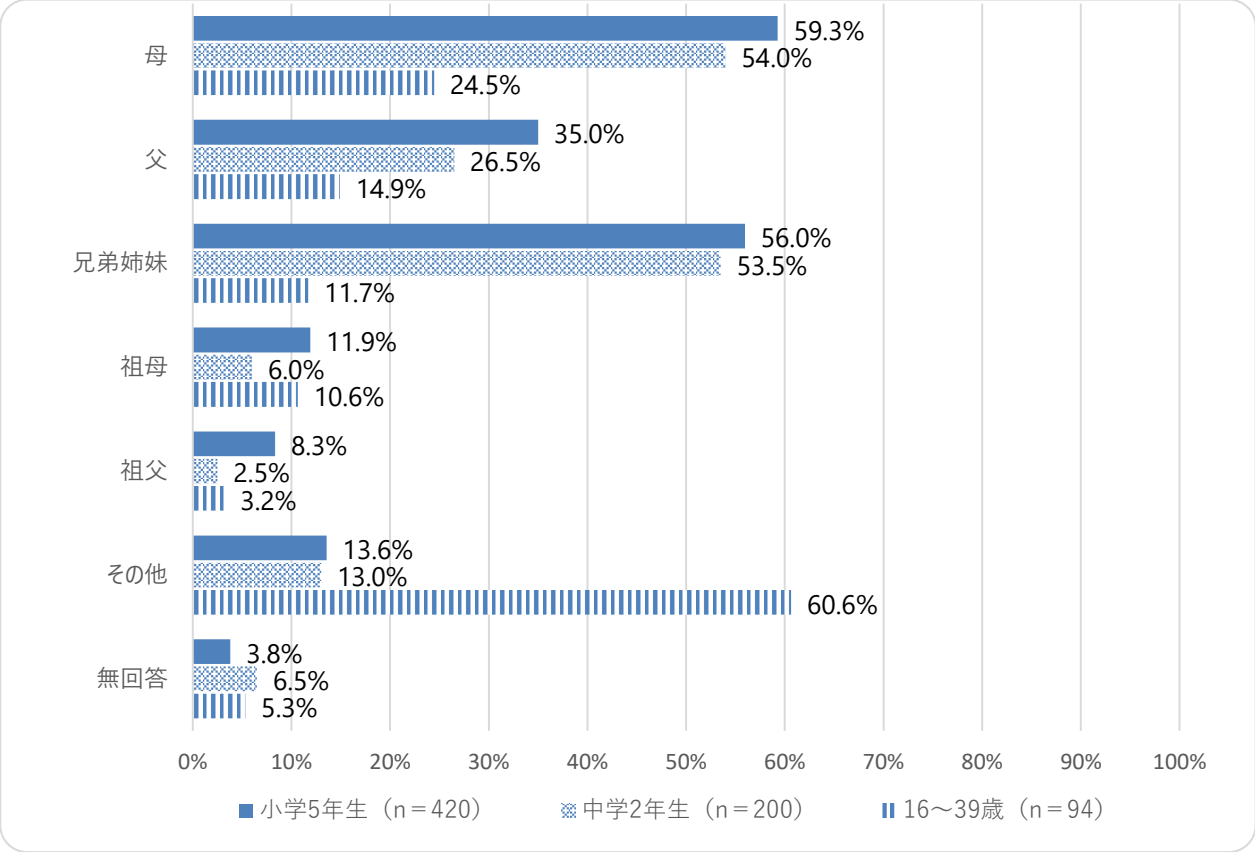
≪お世話の相手≫

①こども・若者本人の認識　小学 5 年生・中学 2 年生・16～39 歳年代別

【小学 5 年生／問 5 複数回答、中学 2 年生／問 5 複数回答、16 歳から 39 歳／問 10 複数回答】

○こども・若者本人が認識しているお世話の相手は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「母」が最も多く、次いで「兄弟姉妹」となっている。

○「その他」の内容については、16～39 歳は、「自分のこども」が多くなっている。

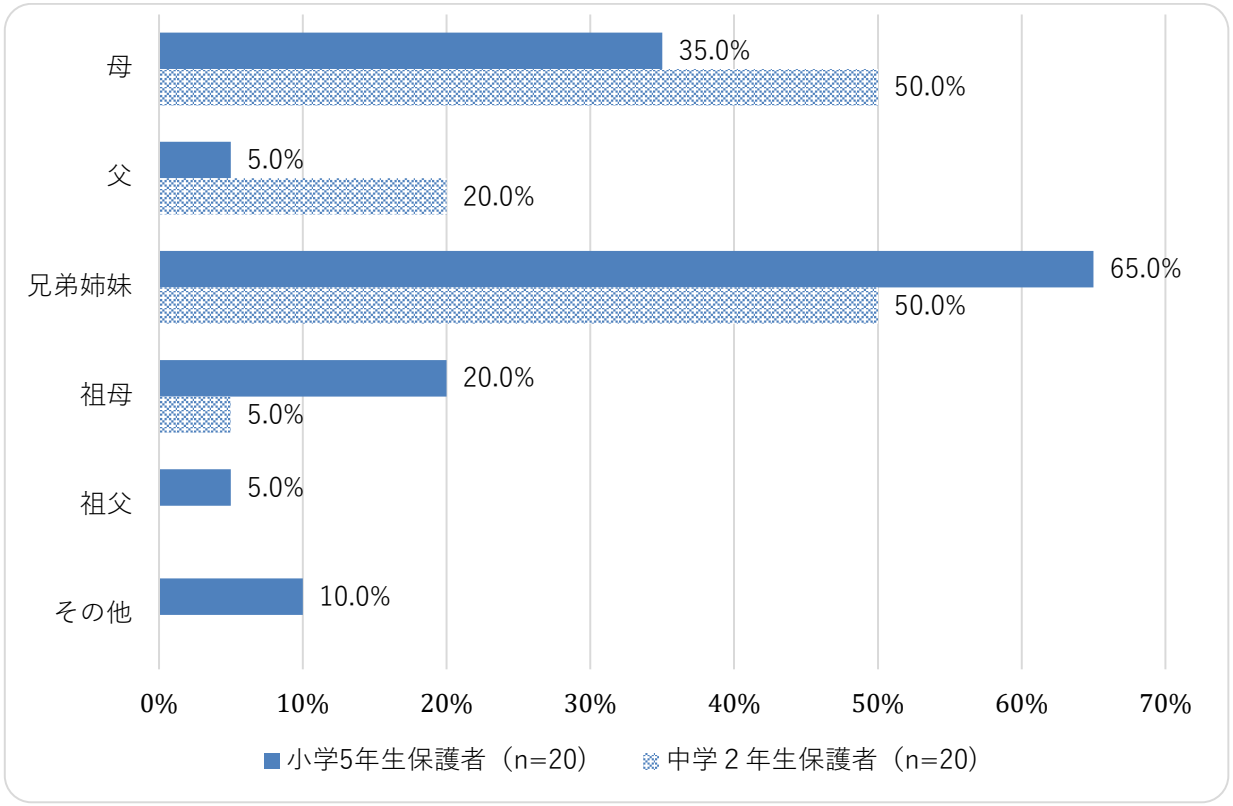


図Ⅲ-2-4　お世話の相手　こども・若者本人の認識　小学 5 年生・中学 2 年生・16～39 歳

②保護者の認識

【小学 5 年生保護者／問 13 複数回答（問 12 で家族のお世話をしている）、中学 2 年生保護者／問 13 複数回答（問 12 で家族のお世話をしている）】

○保護者が認識している自分のこどものお世話の相手は、小学 5 年生では「兄弟姉妹」が最も多く、次いで「母」となっている。中学 2 年生では、「母」と「兄弟姉妹」が最も多くなっている。

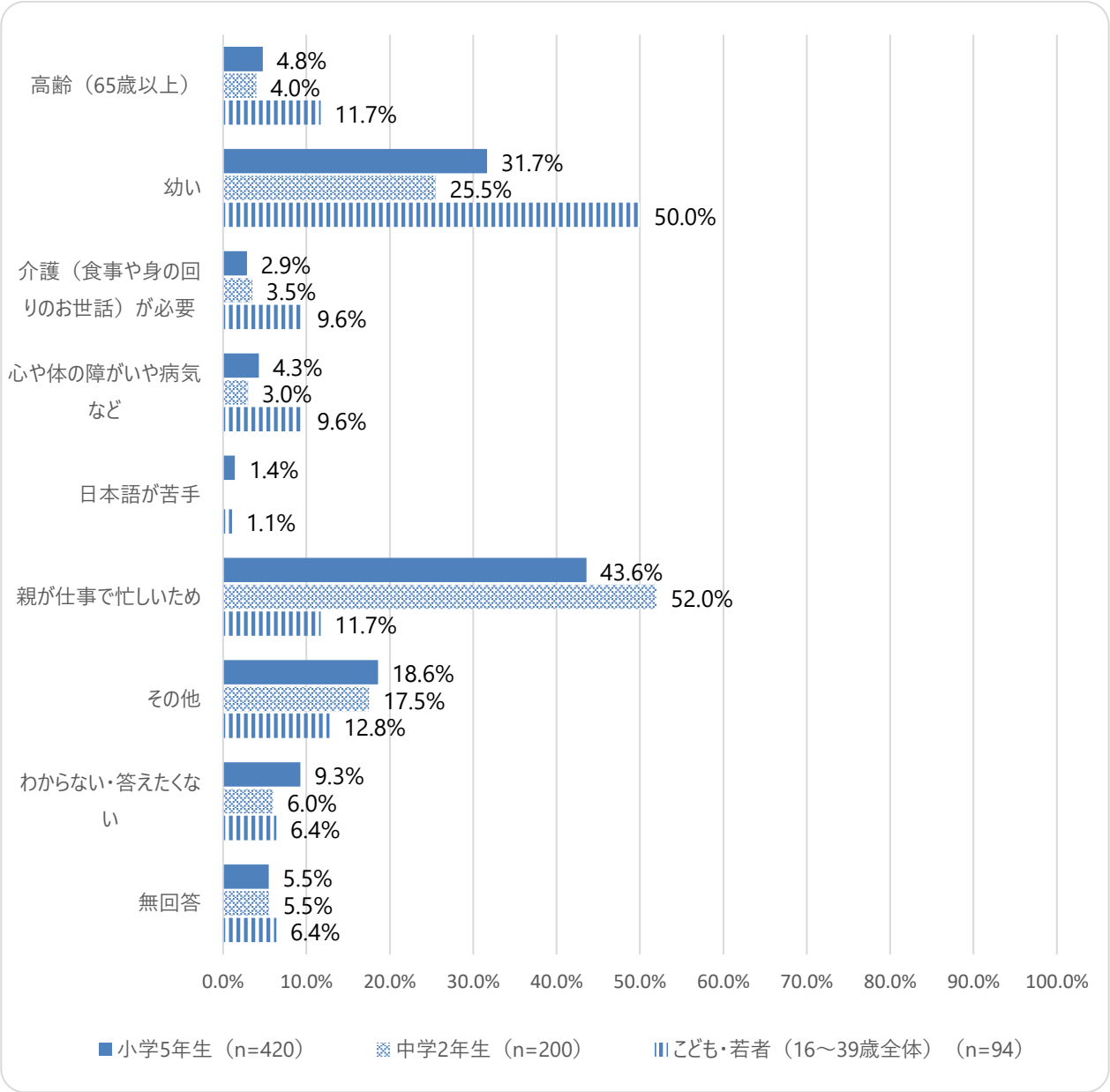


図Ⅲ-2-5　お世話の相手　保護者の認識

≪お世話をしている理由≫　小学 5 年生・中学 2 年生・16～39 歳年代別

【小学 5 年生／問 6 複数回答、中学 2 年生／問 6 複数回答、16 歳から 39 歳／問 11 複数回答】
（「家族のお世話がある」と回答した人を分母として算出している。）

○お世話をしている理由は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「親が仕事で忙しいため」が最も多く、次いで「幼い」となっている。16～39 歳では「幼い」が最も多くなっている。



図Ⅲ-2-6　お世話をしている理由　小学 5 年生・中学 2 年生・16～39 歳年代別

≪お世話の内容≫

①こども・若者本人の認識

【小学 5 年生／問 7 複数回答、中学 2 年生／問 7 複数回答、16 歳から 39 歳／問 12 複数回答】
（「家族のお世話がある」と回答した人を分母として算出している。）

○こども・若者本人が認識しているお世話の内容は、「家事（食事の支度、掃除、洗濯など）」が全ての対象で最も多い。（16～18 歳は対象者が 4 人、19～22 歳は 8 人と少ないため、解釈には留意が必要）

○19 歳以上では、「入浴やトイレのお世話」「買い物や散歩に行く」「病院に一緒に行く」等の割合が高くなっていく傾向にある。これは、お世話の対象に「自分のこども」が含まれていることに起因していると思われる。

回答項目	家事(食事のしたく、掃除、洗濯など)	兄弟姉妹のお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳(日本語や手話)	お金の管理	薬の管理	その他
小学 5 年生	71.0%	15.5%	22.6%	28.8%	3.1%	25.5%	28.6%	1.0%	4.0%	2.9%	7.4%
中学 2 年生	78.0%	10.0%	16.0%	31.5%	2.5%	22.5%	30.0%	0.0%	1.5%	3.0%	4.5%
16～18 歳(高校生世代)	75.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19～22 歳(大学生世代)	87.5%	25.0%	25.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
23～29 歳(20 代社会人世代)	82.8%	0.0%	44.8%	51.7%	44.8%	24.1%	37.9%	0.0%	20.7%	17.2%	3.4%
30～39 歳(30 代)	92.5%	9.4%	50.9%	73.6%	62.3%	52.8%	54.7%	3.8%	47.2%	39.6%	1.9%

小学 5 年生（n=420）
中学 2 年生（n=200）
16～18 歳（高校生世代）（n=4）
19～22 歳（大学生世代）（n=8）
23～29 歳（20 代社会人世代）（n=29）
30～39 歳（30 代）（n=53）

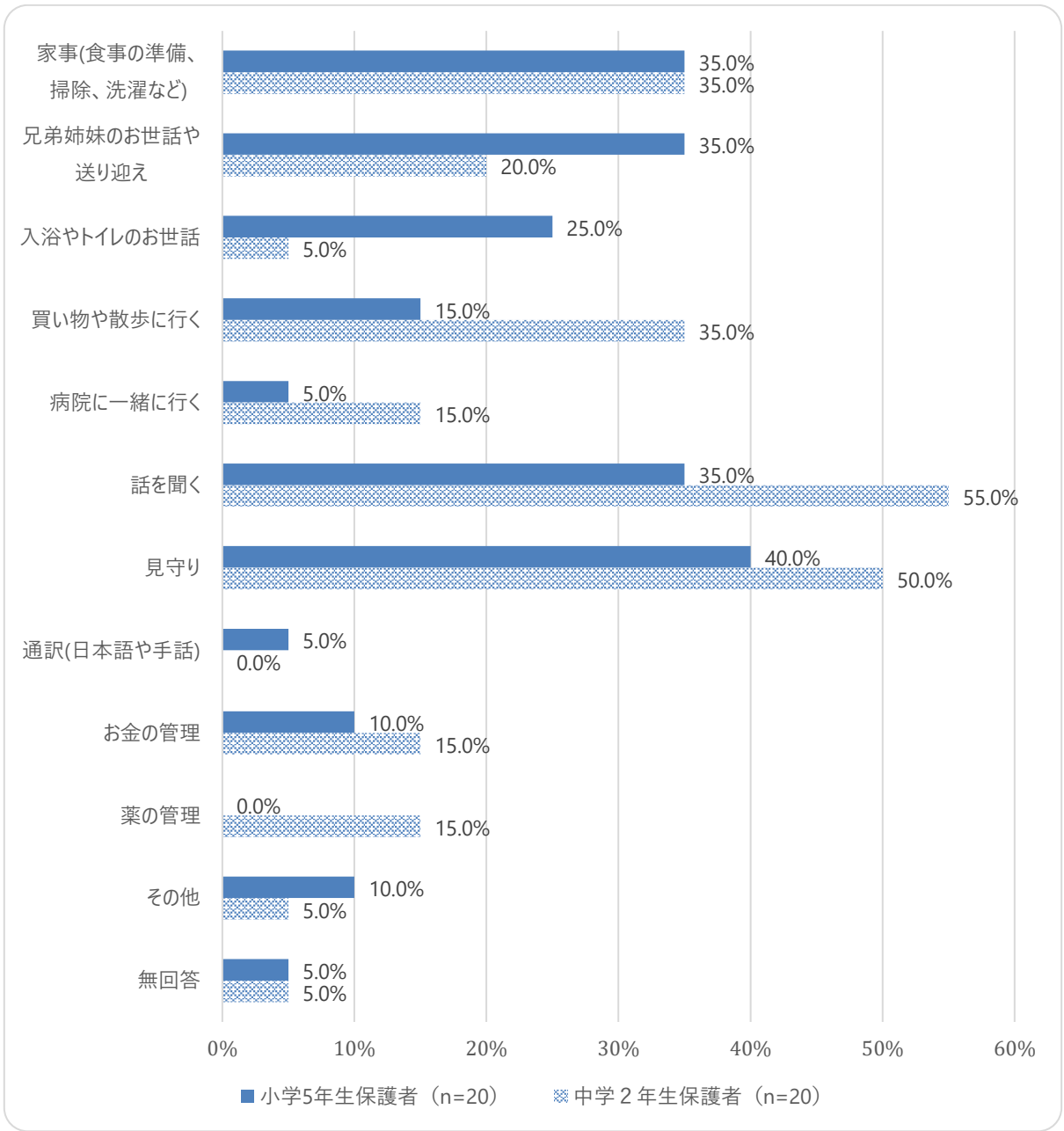
図Ⅲ-2-7　お世話の内容　こども・若者本人の認識

②保護者の認識

【小学 5 年生保護者／問 14 複数回答、中学 2 年生保護者／問 14 複数回答】
（「自分のこどもが家族のお世話をしている」と回答した人を分母として算出している。）

○保護者が認識している自分のこどもが行っているお世話の内容は、小学 5 年生保護者では「見守り」が 40.0%と最も多く、中学 2 年生保護者では「話を聞く」が 55.0%と最も多い。

○小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに、自分のこどもが行っているお世話の相手が「兄弟姉妹」であるとの認識があることから、お世話の内容も年下の兄弟姉妹に対するお世話の内容と思われるものが上位となった。

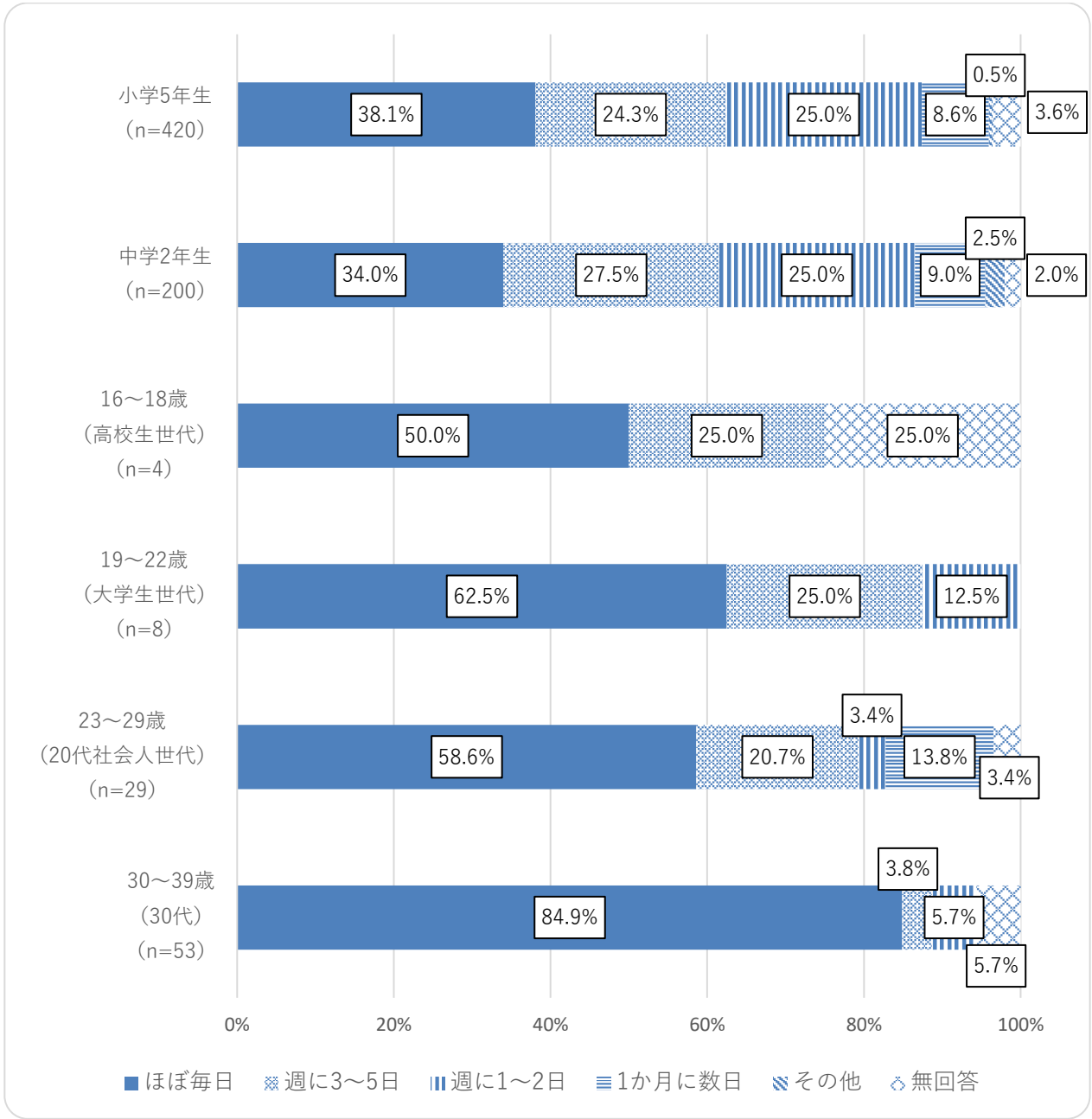


図Ⅲ-2-8　お世話の内容　保護者の認識

≪お世話の頻度≫

【小学 5 年生／問 8 単数回答、中学 2 年生／問 8 単数回答、16 歳から 39 歳／問 13 単数回答】
（「家族のお世話がある」と回答した人を分母として算出している。）

○お世話の頻度は、すべての調査対象で「ほぼ毎日」が最も多く、小学 5 年生で 38.1%、中学 2 年生で 34.0%となっている。こども・若者を世代別にみると、16～18 歳（高校生世代）で 50.0%、19～22 歳（大学生世代）で 62.5%、23～29 歳（20 代社会人世代）で 58.6%、30～39 歳（30 代）で 84.9%となっている。

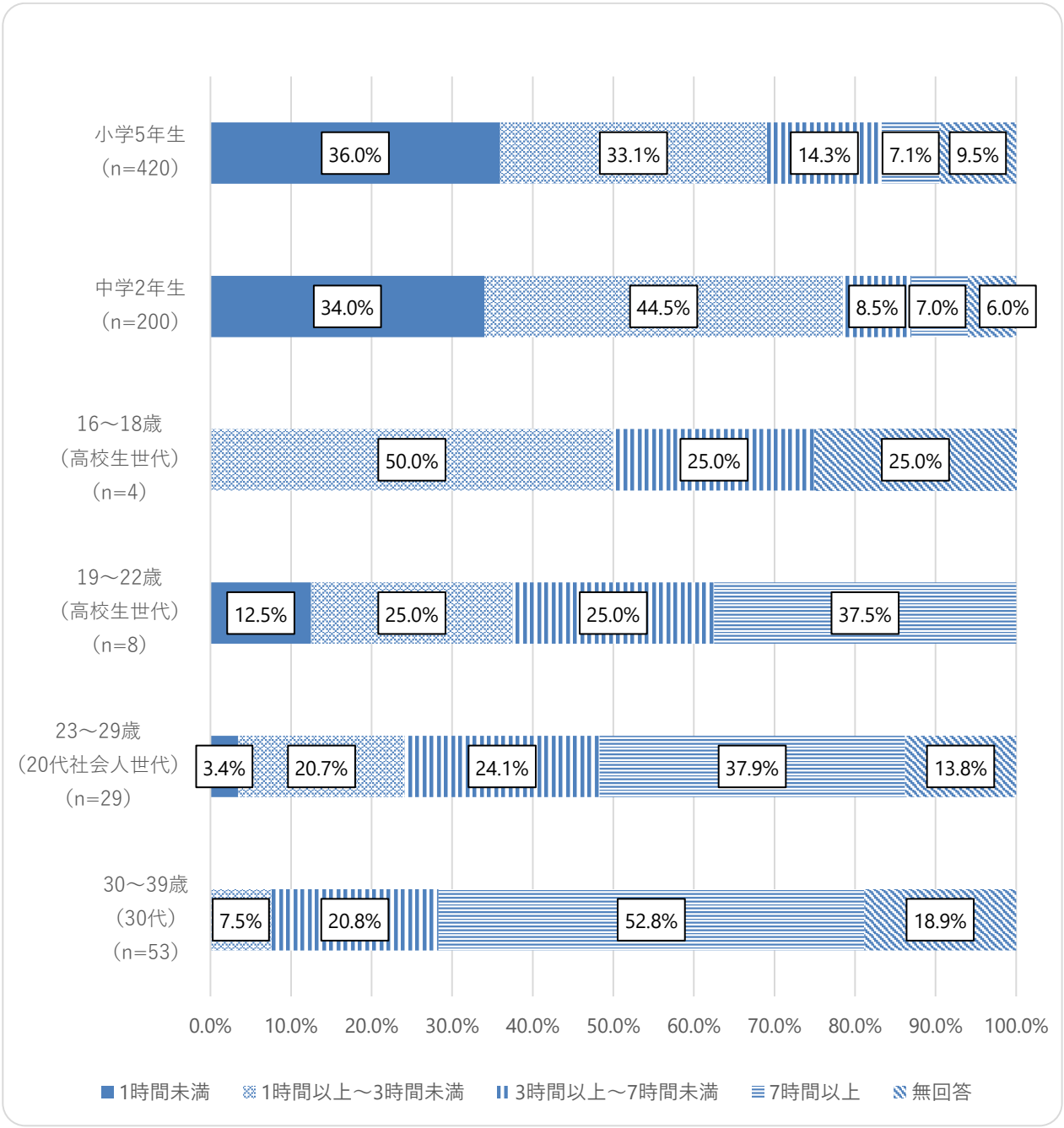


図Ⅲ-2-9　お世話の頻度

≪1 日当たりのお世話時間≫

【小学 5 年生／問 9 自由記述、中学 2 年生／問 9 自由記述、16 歳から 39 歳／問 14 自由記述】
（自由記述の時間回答を区分して集計。「家族のお世話がある」と回答した人を分母とし、時間未入力を無回答に含めている。）

○1 日当たりのお世話時間は、小学 5 年生では「1 時間未満」が 36.0％と最も多く、中学 2 年生、16～18 歳（高校生世代）では「1 時間以上～3 時間未満」が最も多くなっている。



図Ⅲ-2-10　1 日当たりのお世話時間

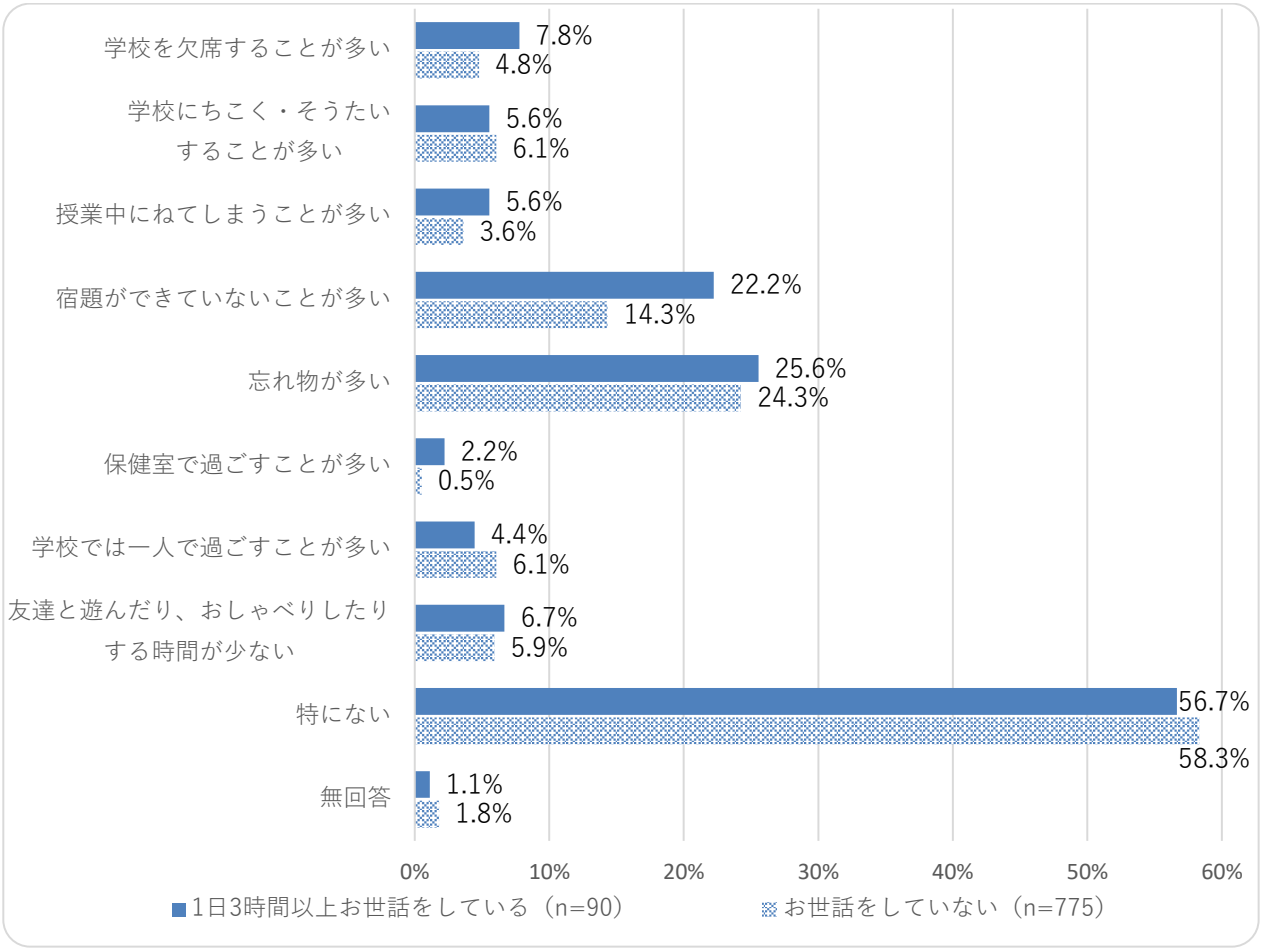
3 こどもの家族ケアが学業に与える影響

≪小学５年生が感じている影響≫

【小学 5 年生／問 26 複数回答（問 9 で 3 時間以上／問 4 なしと回答を比較）、小学 5 年生保護者／問 15 単数回答（回答者のみ）】
（1 日 3 時間以上お世話をする回答者と、お世話をしていない回答者を比較しています。）

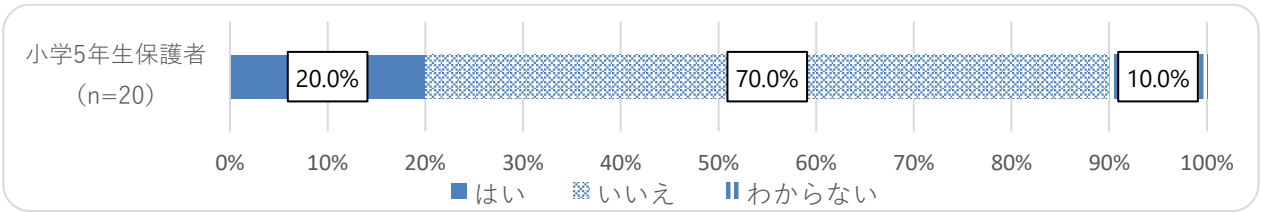
○家族のお世話による学校生活への影響について、１日３時間以上のお世話をする児童とお世話をしない児童においては、どちらも「特にない」が最も多いものの、「宿題ができていないことが多い」の回答割合には若干差が見られる。

○小学 5 年生保護者の「家族ケアが学業に与える影響に関する保護者の認識」は、「影響がない」が 70.0%となっている。



図Ⅲ-3　小学 5 年生：家族のお世話時間別にみた学校生活

≪小学５年生保護者の認識≫



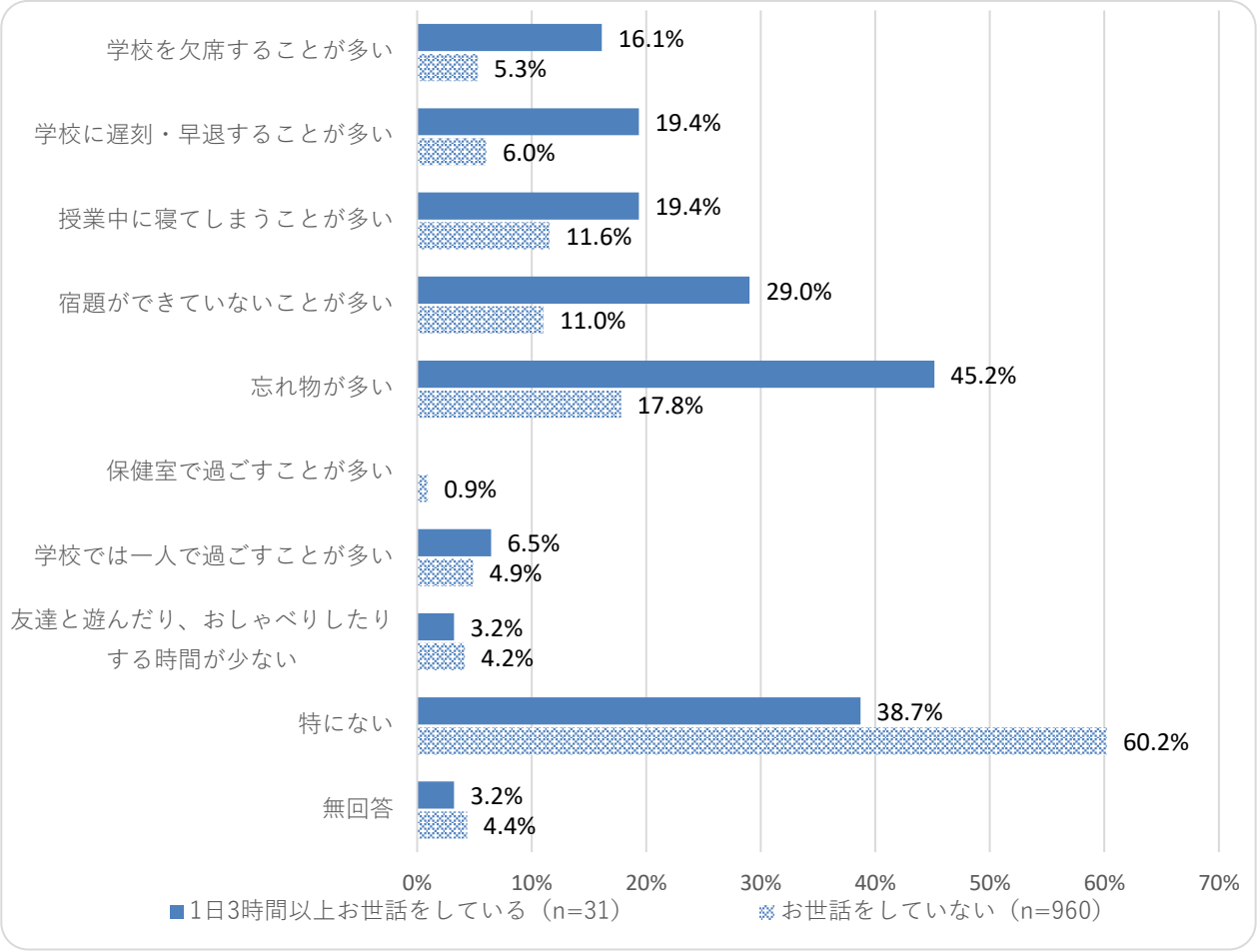
図Ⅲ-3-2　小学 5 年生保護者：こどもの家族ケアが学業に与える影響に関する保護者の認識

≪中学２年生が感じている影響≫

【中学２年生／問 28 複数回答（問 9 で 3 時間以上／問 5 無回答を比較）、中学２年生保護者／問 15 単数回答（回答者のみ）】
（1 日 3 時間以上お世話をする回答者と、お世話をしていない回答者を比較している。）

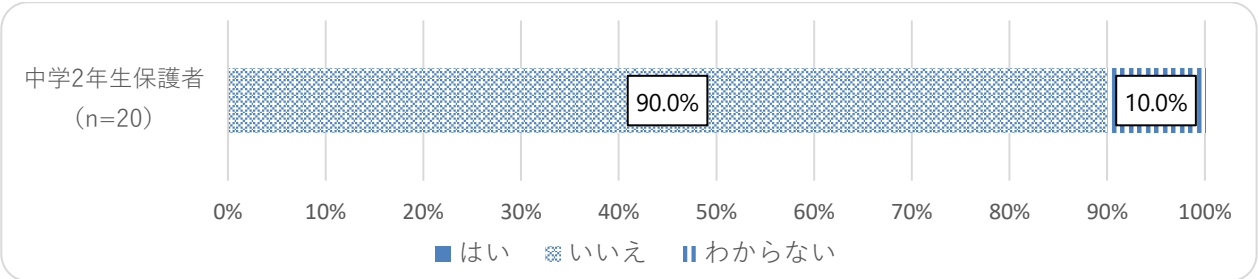
○家族のお世話による学校生活への影響について、１日３時間以上のお世話をする生徒は「忘れ物が多い」が最も多く、「欠席」「遅刻・早退」「授業中に寝てしまう」「宿題ができていない」のいずれも多く、学校生活に影響が出ている。

○中学２年生保護者の「家族ケアが学業に与える影響に関する保護者の認識」（影響がないが「90.0%」）とは大きな乖離がある。



図Ⅲ-3-3　中学２年生：家族のお世話時間別にみた学校生活

≪中学２年生保護者の認識≫

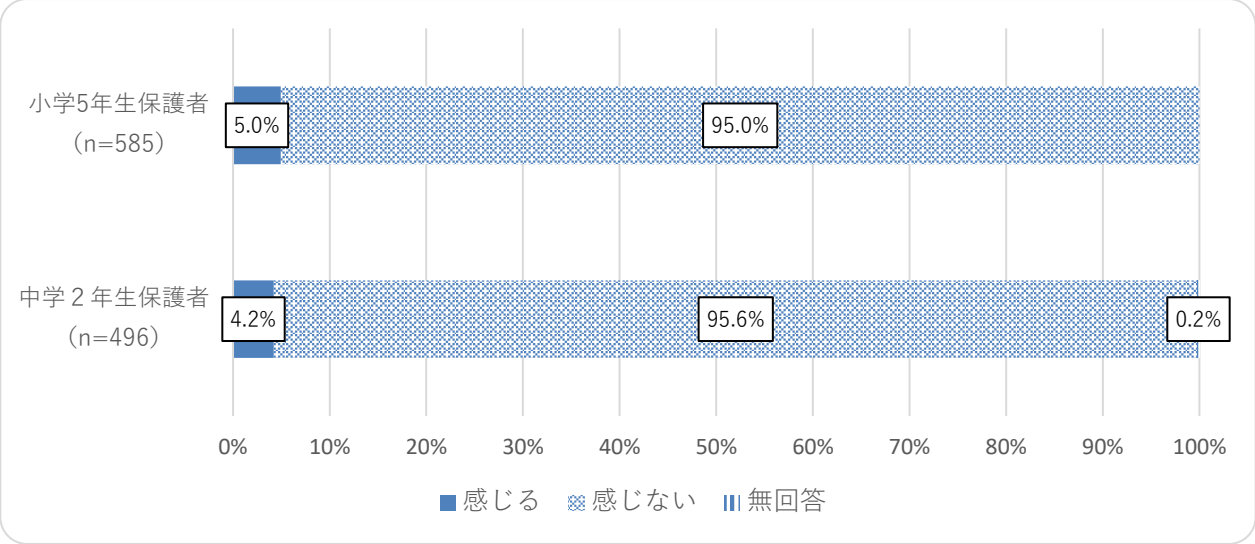


図Ⅲ-3-4　中学２年生保護者：こどもの家族ケアが学業に与える影響に関する保護者の認識

4 こどもに対する特別な配慮の必要性

【小学 5 年生保護者／問 16 単数回答（回答者のみ）、中学 2 年生保護者／問 16 単数回答（回答者のみ）】

○自分のこどもに対して特別な配慮が必要かについては、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに「感じない」が最も多くなっている。

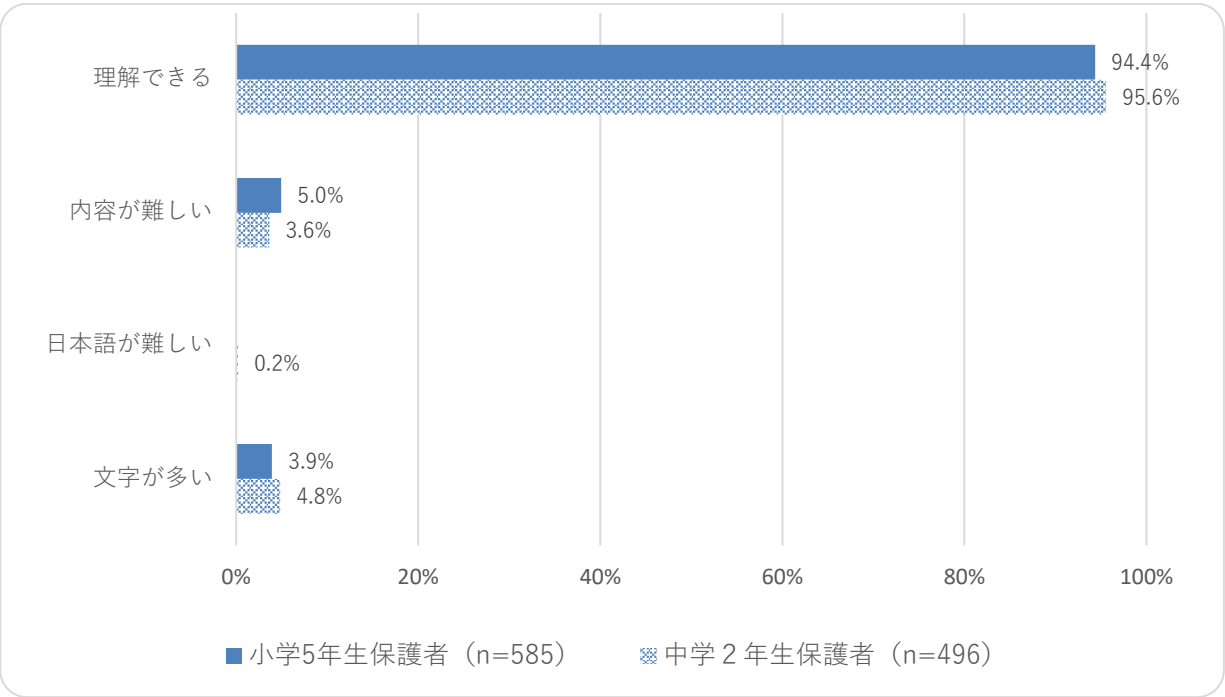


図Ⅲ-4　こどもに対する特別な配慮の必要性

5 学校からの情報の理解度

【小学 5 年生保護者／問 24 、中学 2 年生保護者／問 24】

○学校からの通知等が理解できるかについては、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに「理解できる」が最も多い。

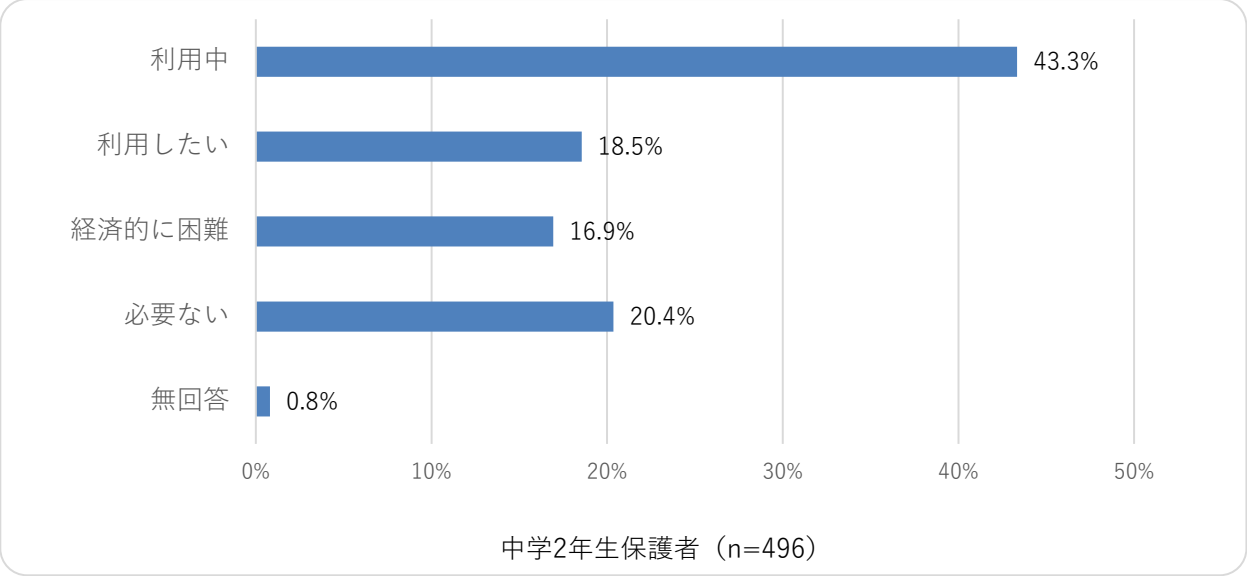


図Ⅲ-5　学校からの情報の理解度

6 学校外での学習状況

【中学 2 年生保護者／問 25 単数回答】

○塾・家庭教師などの学校外の学習利用状況については、「利用中」が 43.3%と最も多い。



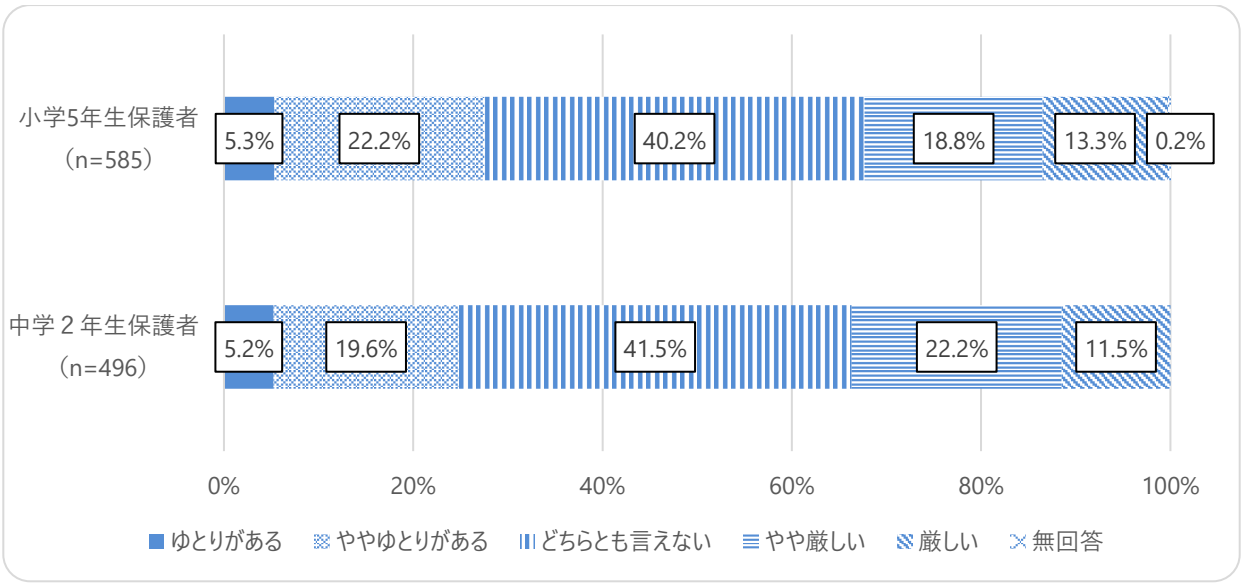
図Ⅲ-6　学校外での学習状況

7 家庭の経済状況

≪家計の状況≫

【小学 5 年生保護者／問 25 単一回答、中学 2 年生保護者／問 26 単一回答】

○家計の状況について、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに、「どちらともいえない」の割合が最も高く、「やや厳しい」「厳しい」を合わせると小学 5 年生保護者で 32.1%、中学 2 年生保護者で 33.7%となっている。

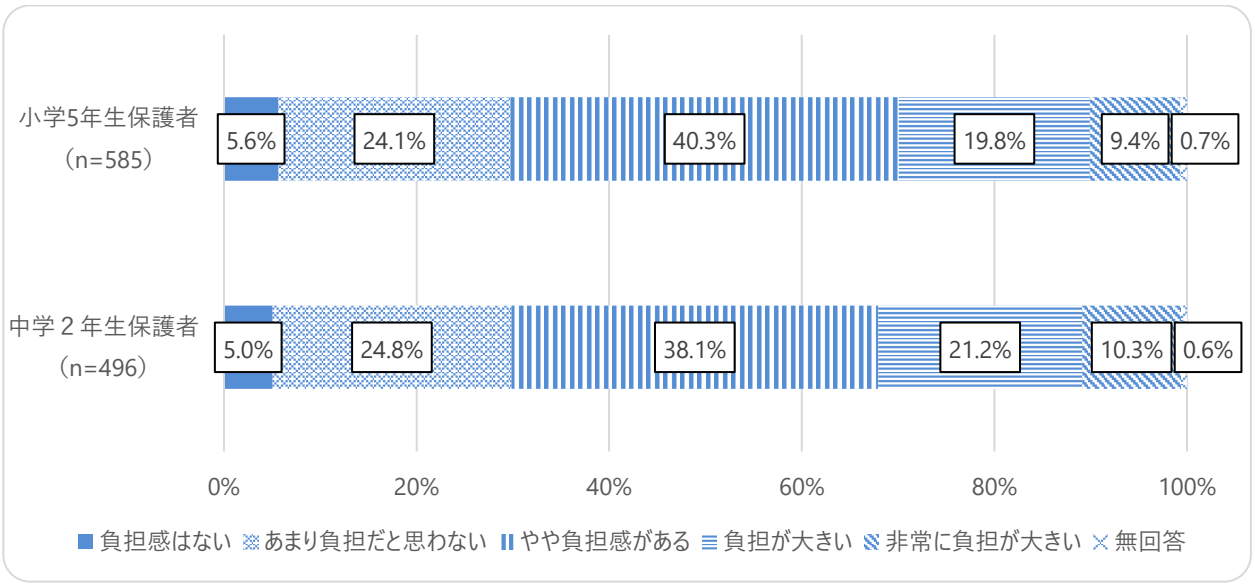


図Ⅲ-7　家計の状況

≪子育てにかかる費用の負担感≫

【小学 5 年生保護者／問 26 単一回答、中学 2 年生保護者／問 27 単一回答】

○子育てにかかる費用の負担感について、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに「やや負担感がある」の割合が最も高く、「やや負担がある」「負担が大きい」「非常に負担が大きい」を合わせると小学 5 年生保護者で 69.5%、中学 2 年生保護者で 69.6%となっている。

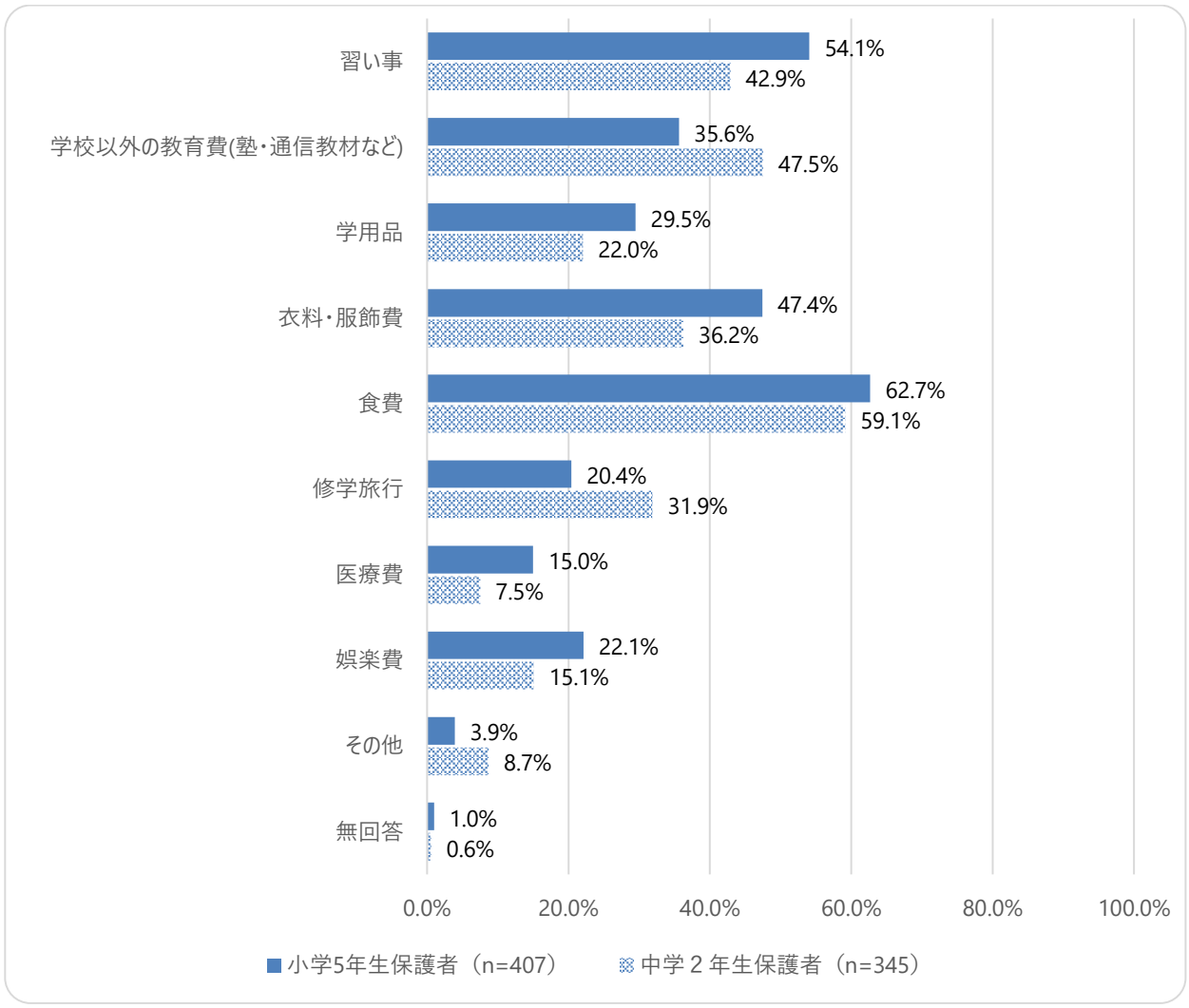


図Ⅲ-7-2　子育てにかかる費用の負担感

≪子育て費用で負担を感じる項目（負担感がある保護者）≫

【小学 5 年生保護者／問 27 複数回答、問 26 で「3.やや負担感がある」「4.負担が大きい」「5.非常に負担が大きい」と回答した人が対象、中学 2 年生保護者／問 28 複数回答、問 27 で「3.やや負担感がある」「4.負担が大きい」「5.非常に負担が大きい」と回答した人が対象】

○子育て費用で負担を感じる項目（負担感がある保護者）については、小学 5 年生保護者では、「食費」「習い事」「衣料・被服費」の順で多くなっている。中学 2 年生保護者では、「食費」「学校以外の教育費（塾・通信教材など）」「習い事」の順で多くなっている。

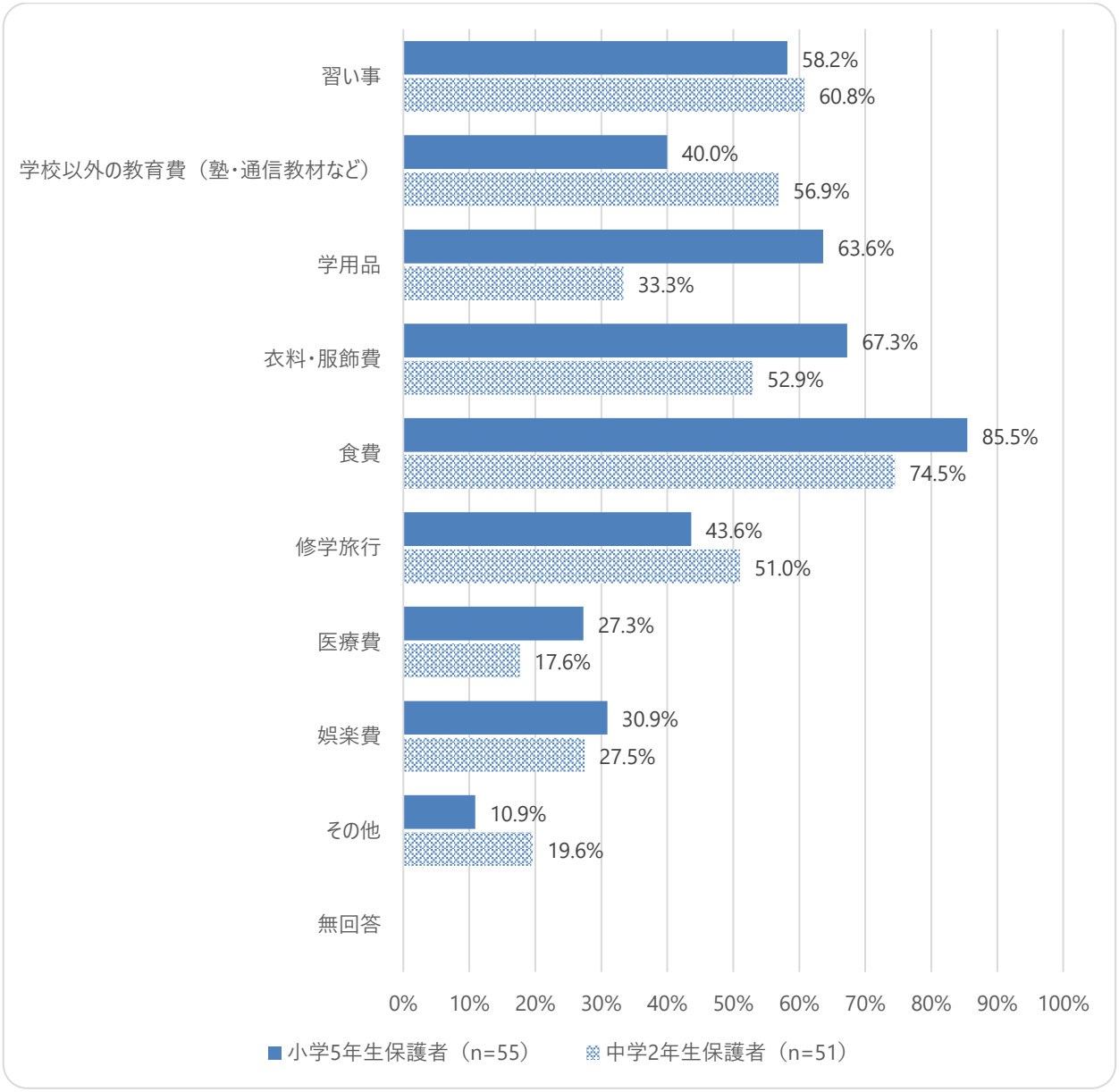


図Ⅲ-7-3　子育て費用で負担を感じる項目（負担感がある保護者）

≪経済的負担が非常に大きい世帯の負担項目≫

【小学 5 年生保護者／問 27 複数回答、問 26 で「5.非常に負担が大きい」と回答した人が対象、中学 2 年生保護者／問 28 複数回答、問 27 で「5.非常に負担が大きい」と回答した人が対象】

○子育て費用で負担を感じる項目（非常に負担が大きい保護者）については、小学 5 年生保護者では、「食費」「衣料・服飾費」「学用品」の順で多くなっている。中学 2 年生保護者では、「食費」「習い事」「学校以外の教育費（塾・通信教材など）」の順で多くなっている。

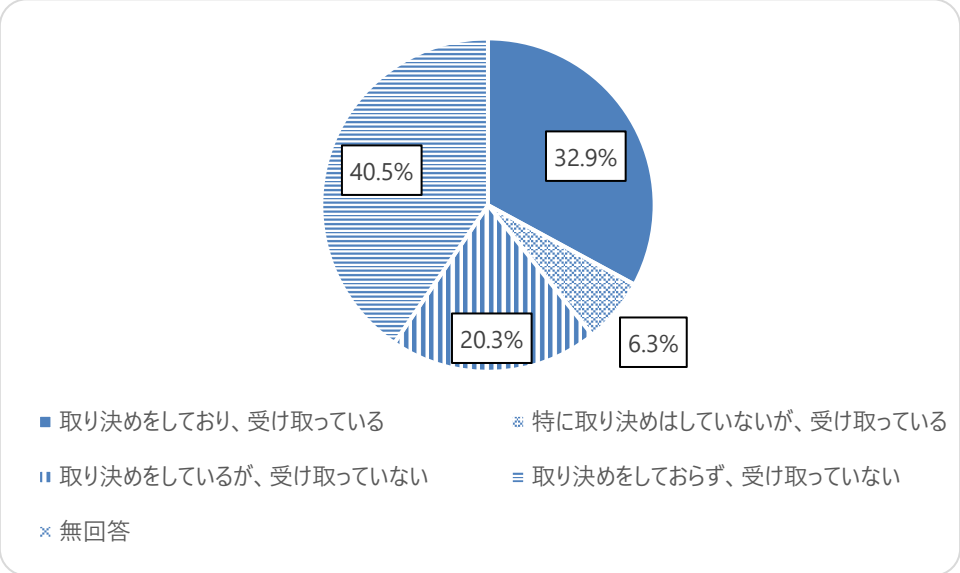


図Ⅲ-7-4　子育て費用で負担を感じる項目（非常に負担が大きい保護者）

≪養育費の取り決め状況≫

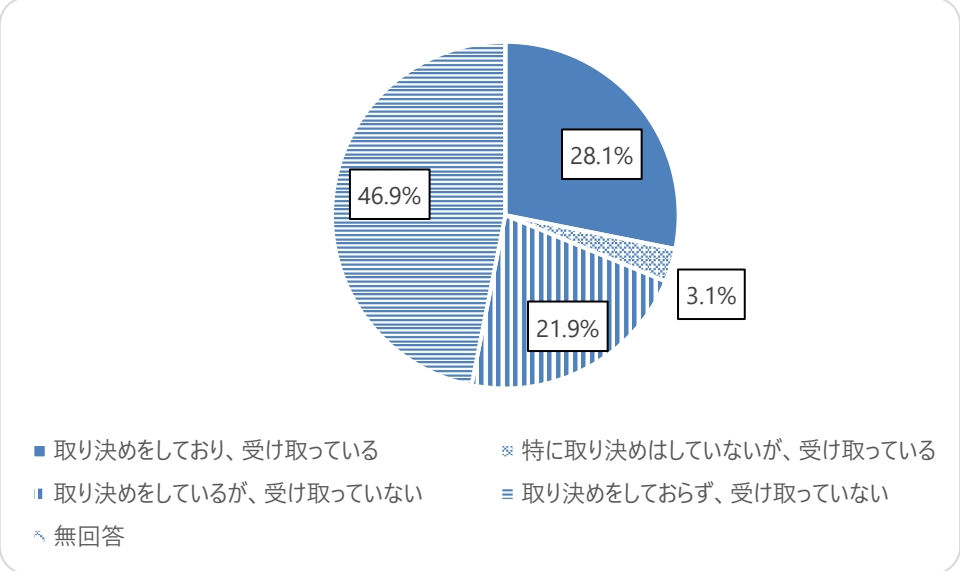
【小学 5 年生保護者／問 33 単数回答、中学 2 年生保護者／問 32 単数回答】
（家族構成が「ひとり親」の方のみが対象）

○ひとり親世帯における養育費の取り決め状況は、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに、「取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が最も高く、「取り決めをしているが、受け取っていない」を合わせると、小学 5 年生保護者では 60.8%、中学 2 年生保護者では 68.8%となっている。



小学 5 年生保護者（n=79）

図Ⅲ-7-5　養育費の取り決め状況　小学 5 年生保護者



中学 2 年生保護者（n=64）

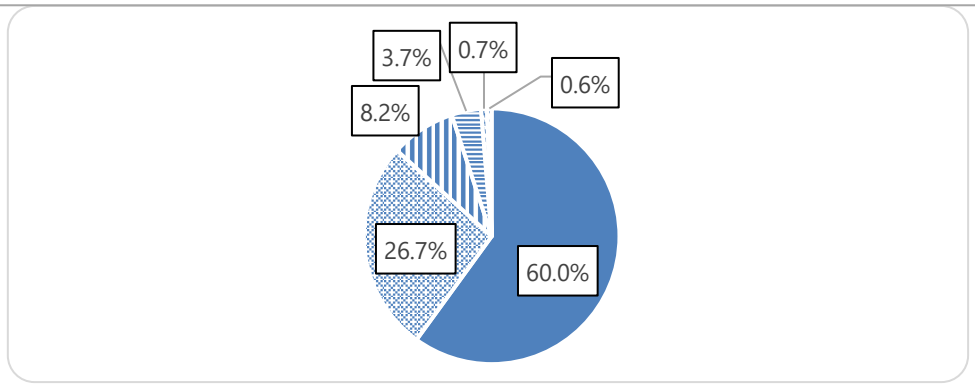
図Ⅲ-7-6　養育費の取り決め状況　中学 2 年生保護者

Ⅳ 心身の健康のこと

1 幸福度

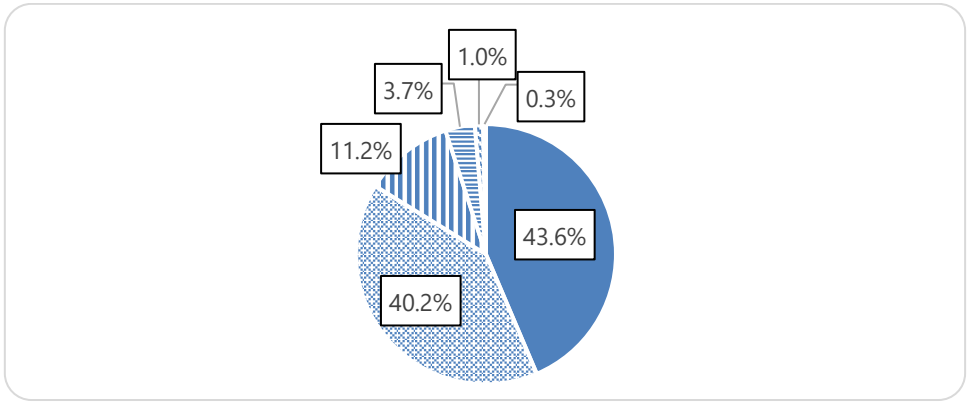
【小学 5 年生／問 10 単数回答、小学 5 年生保護者／問 34 単数回答、中学 2 年生／問 10 単数回答、中学 2 年生保護者／問 33 単数回答、16 歳から 39 歳／問 15 単数回答】

○幸福度については、「とても幸せ」「まあ幸せ」を合わせると、小学 5 年生で 86.7%、中学 2 年生で 83.8%、16～39 歳で 75.9%となっている。



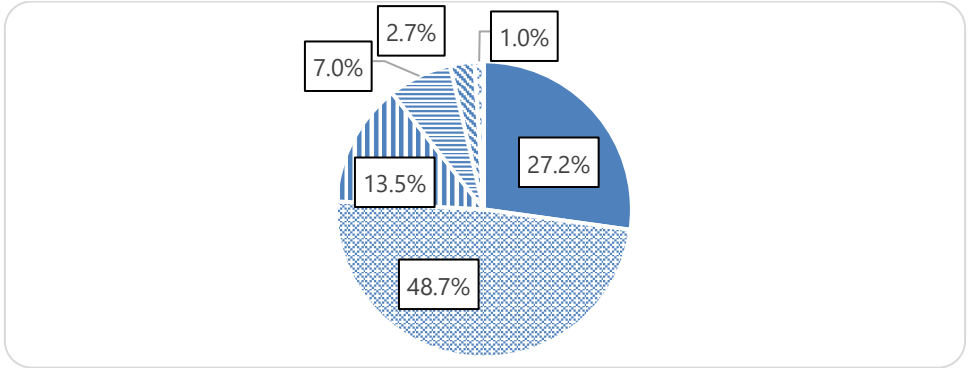
小学 5 年生（n=1,205）

図Ⅳ-1　幸福度　小学 5 年生



中学 2 年生（n=1,172）

図Ⅳ-1-2　幸福度　中学 2 年生



（16～39 歳）（n=489）

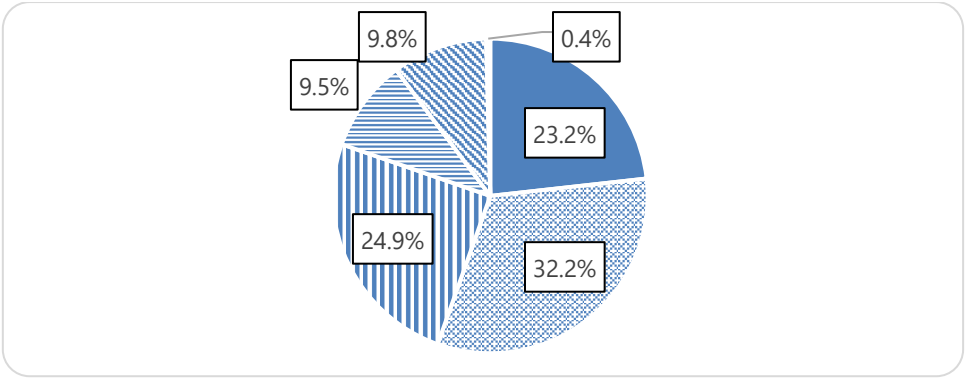
図Ⅳ-1-3　幸福度　16～39 歳

■ とても幸せ　▩ まあ幸せ　▮ どちらとも言えない
≡ あまり幸せではない　▨ 全く幸せではない　◜ 無回答

2 自己肯定感

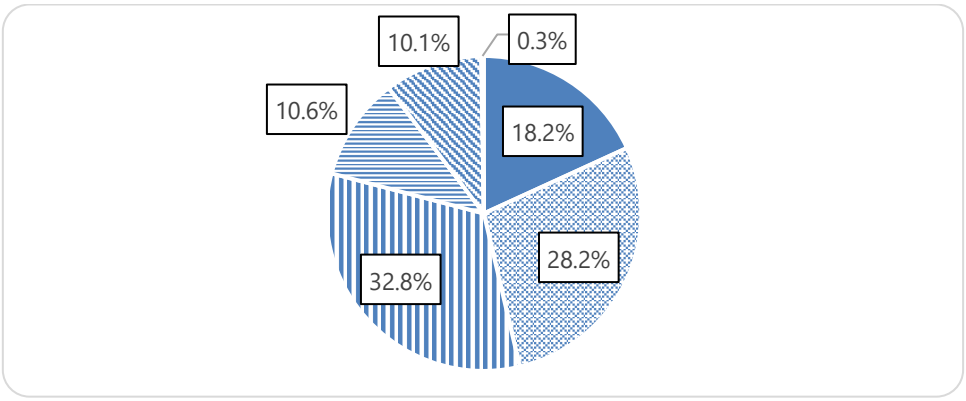
【小学 5 年生／問 11 単数回答、中学 2 年生／問 11 単数回答、16 歳から 39 歳／問 16 単数回答】

○自己肯定感については、「とても好き」「まあ好き」を合わせると、小学 5 年生で 55.4%、中学 2 年生で 46.4%、16～39 歳で 56.8%となっている。



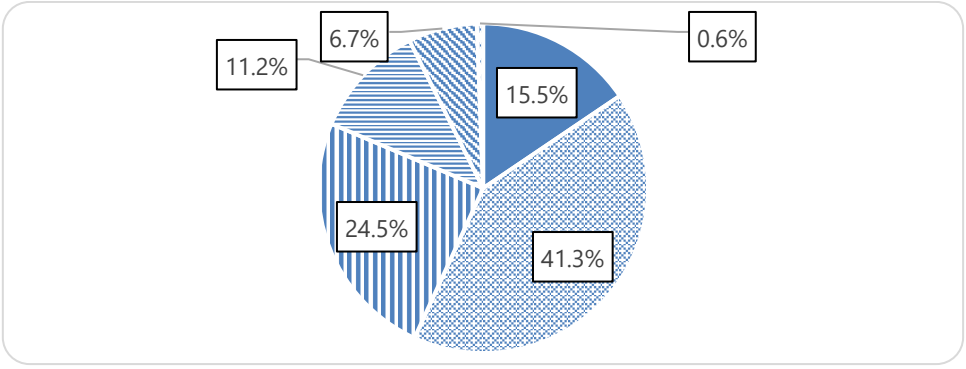
小学 5 年生（n=1,205）

図Ⅳ-2　自己肯定感　小学 5 年生



中学 2 年生（n=1,172）

図Ⅳ-2-2　自己肯定感　中学 2 年生



16～39 歳（n=489）

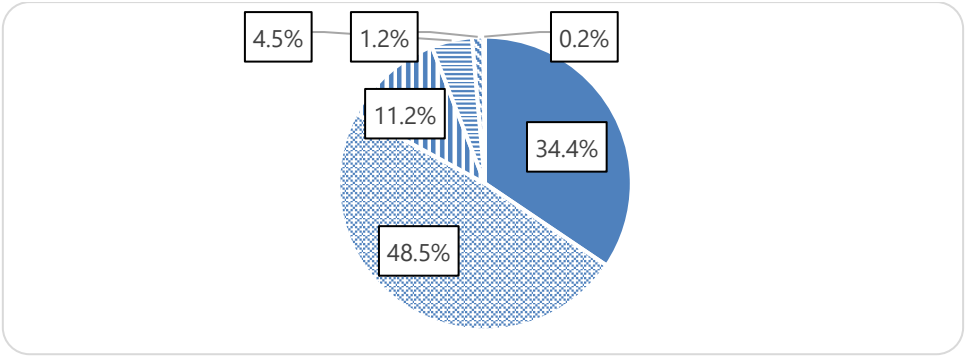
図Ⅳ-2-3　自己肯定感　16～39 歳

■ とても好き　▨ まあ好き　▮ どちらとも言えない
▬ あまり好きではない　▩ 好きではない　▞ 無回答

3 健康状態

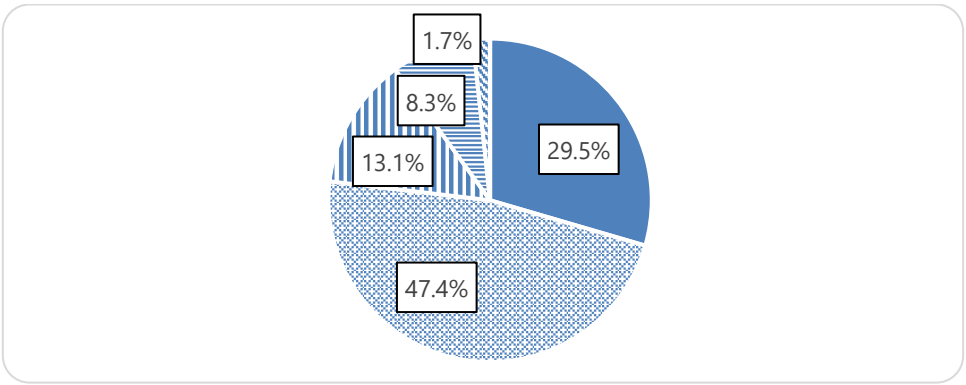
【小学 5 年生／問 12 単数回答、中学 2 年生／問 12 単数回答、16 歳から 39 歳／問 17 単数回答】

○健康状態については、「とても健康」「まあ健康」を合わせると、小学 5 年生で 82.9%、中学 2 年生で 76.9%、16～39 歳で 70.3%となっている。



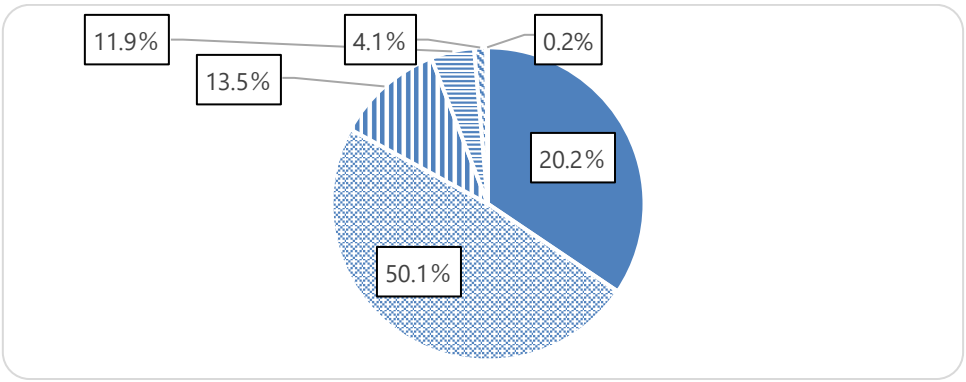
小学 5 年生（n=1,205）

図Ⅳ-3　健康状態　小学 5 年生



中学 2 年生（n=1,172）

図Ⅳ-3-2　健康状態　中学 2 年生



16～39 歳（n=489）

図Ⅳ-3-3　健康状態　16～39 歳

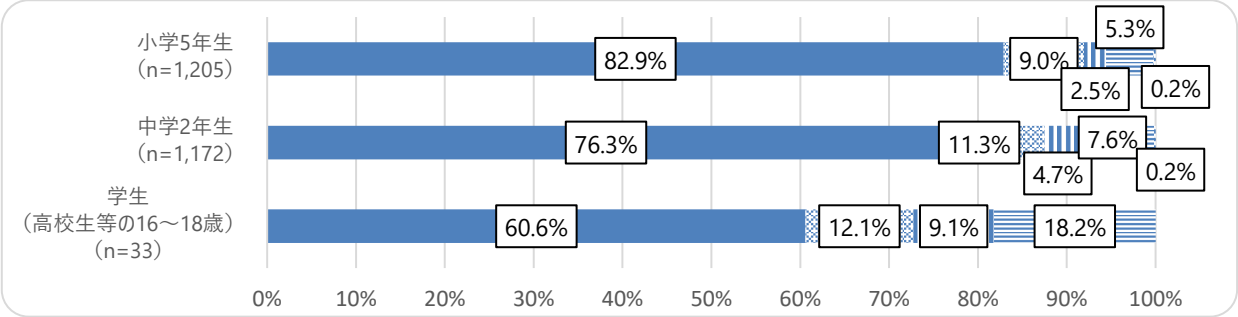
■ とても健康　▨ まあ健康　▮ どちらとも言えない
≡ あまり健康ではない　▩ 健康ではない　▧ 無回答

4 家庭での食事

≪朝食の頻度≫

【小学 5 年生／問 13 単数回答、中学 2 年生／問 13 単数回答、16 歳から 39 歳／問 18 単数回答】
（16 歳から 39 歳のうち、学生（高校生等 16～18 歳）と回答した人を対象に集計している。）

○朝食の頻度は、全世代において「毎日」の割合が最も高いものの、年代が上がるにつれて減少傾向にある。

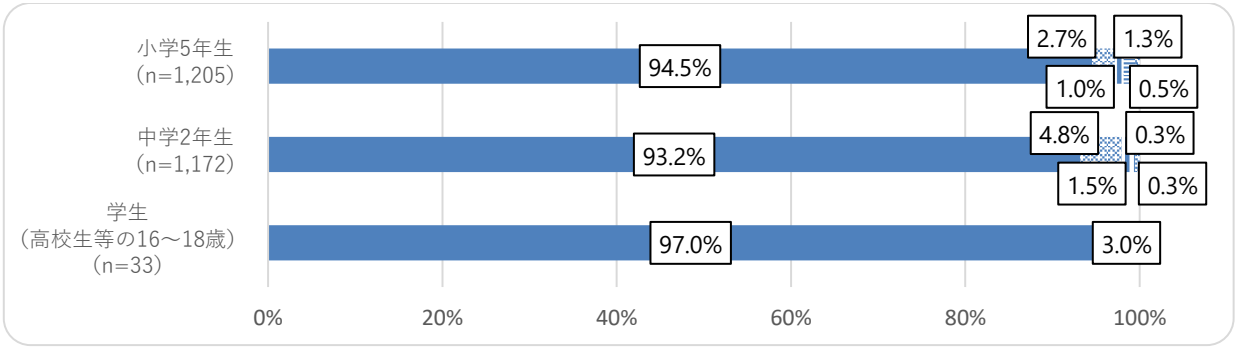


図Ⅳ-4　朝食の頻度

≪夕食の頻度≫

【小学 5 年生／問 14 単数回答、中学 2 年生／問 14 単数回答、16 歳から 39 歳／問 19 単数回答】
（16 歳から 39 歳のうち、学生（高校生等 16～18 歳）と回答した人を対象に集計している。）

○夕食の頻度は、全世代において「毎日」の割合が最も高くなっている。

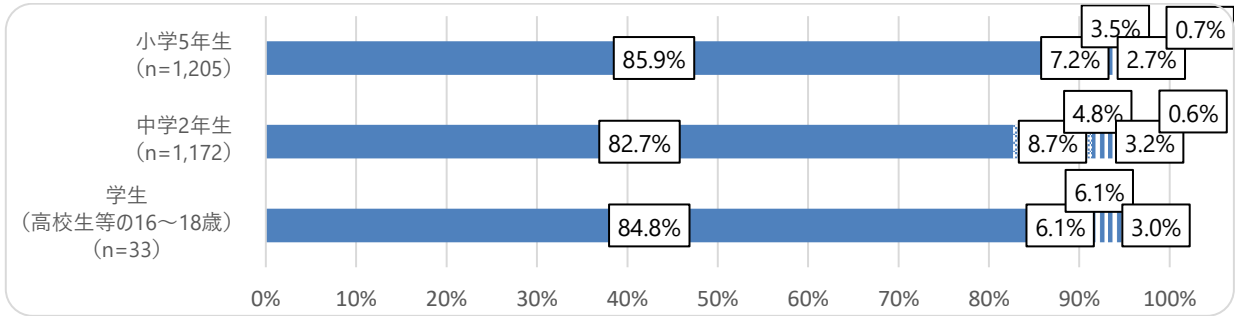


図Ⅳ-4-2　夕食の頻度

≪学校が休みの時の昼食の頻度≫

【小学 5 年生／問 15 単数回答、中学 2 年生／問 15 単数回答、16 歳から 39 歳／問 20 単数回答】
（16 歳から 39 歳のうち、学生（高校生等 16～18 歳）と回答した人を対象に集計している。）

○学校が休みの時の昼食の頻度は、全世代において「毎日」の割合が最も高くなっている。

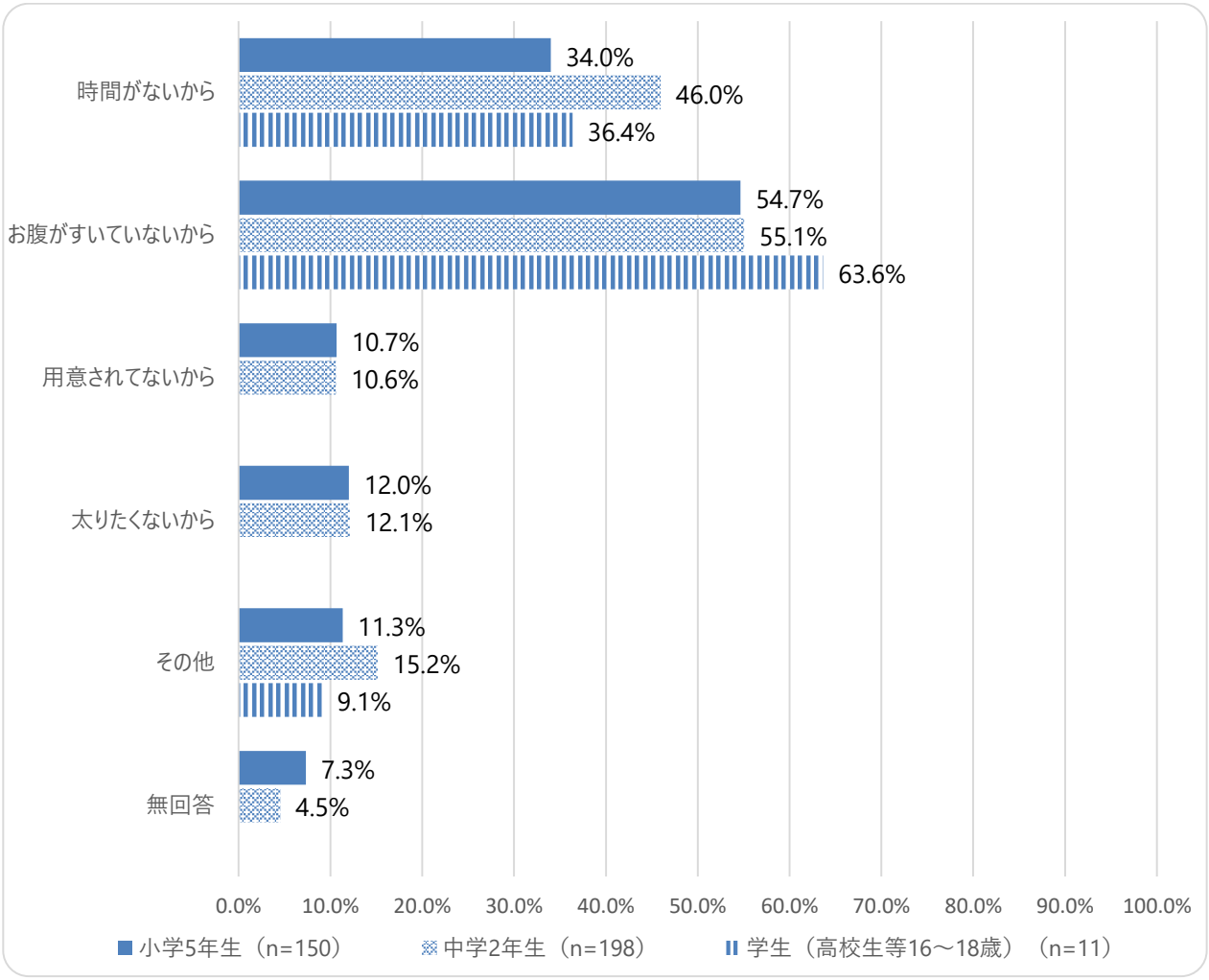


図Ⅳ-4-3　学校が休みの時の昼食の頻度

≪食事の頻度が低い理由≫

【小学 5 年生／問 16 複数回答（問 13 で低頻度）、中学 2 年生／問 16 複数回答（問 13 で低頻度）】

○食事を食べない理由は、小学 5 年生、中学 2 年生、高校生等の 16～18 歳ともに「お腹が空いていないから」が最も多く、次いで「時間がないから」となっている。



図Ⅳ-4-4　食事を週３～4 回または週 1～2 回・ほとんど食べない理由

≪朝食の頻度×学習の理解度≫

【小学 5 年生／問 13×問 24、中学 2 年生／問 13×問 26】

○朝食の頻度と学習の理解度は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに、朝食の頻度が多いと「よくわかる」と「まあわかる」の割合が増加し、朝食の頻度が少ないと、「あまりわからない」と「わからない」の割合が増加する傾向が見られた。

区分	よくわかる	まあわかる	あまりわからない	わからない	無回答	設問対象者
毎日	46.8%	46.1%	6.0%	0.8%	0.2%	999
週 5～6 回	31.2%	56.0%	10.1%	2.8%	0.0%	109
週 3～4 回	23.3%	63.3%	13.3%	0.0%	0.0%	30
週 1～2 回・ほとんど食べない	37.5%	43.8%	12.5%	4.7%	1.6%	64
無回答	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	3

図Ⅳ-4-5　朝食の頻度×学習の理解度（小学 5 年生）

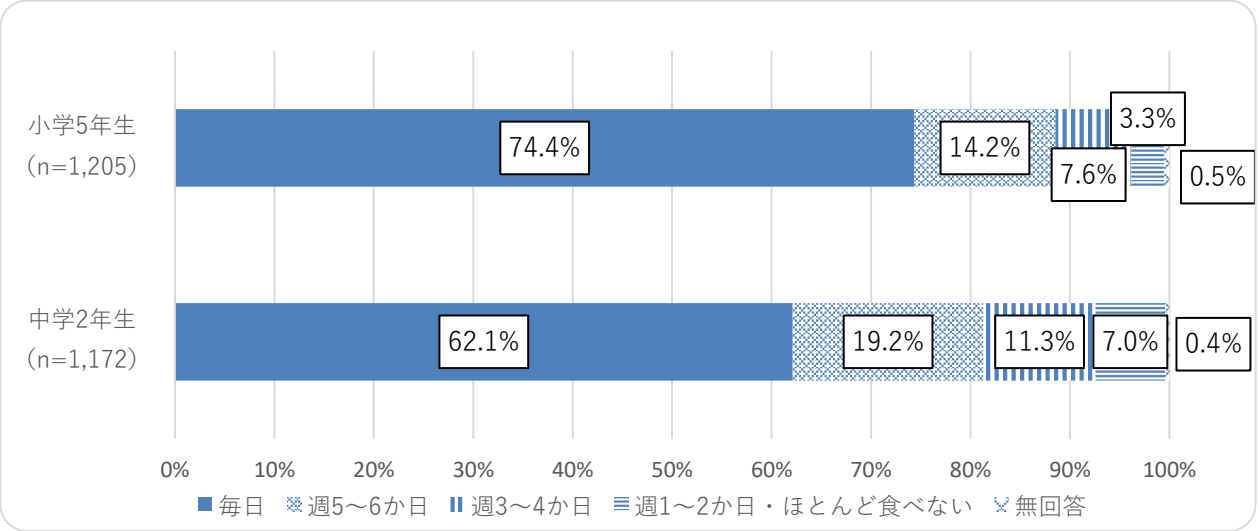
区分	よくわかる	まあわかる	あまりわからない	わからない	無回答	設問対象者
毎日	27.7%	60.4%	8.7%	3.1%	0.0%	894
週 5～6 回	18.9%	60.6%	15.2%	5.3%	0.0%	132
週 3～4 回	10.9%	72.7%	12.7%	3.6%	0.0%	55
週 1～2 回・ほとんど食べない	15.7%	59.6%	19.1%	4.5%	1.1%	89
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2

図Ⅳ-4-6　朝食の頻度×学習の理解度（中学 2 年生）

≪家族と一緒に食事をする頻度≫

【小学 5 年生／問 17 単数回答、中学 2 年生／問 17 単数回答】

○家族と一緒に食事をする頻度は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに、「毎日」が最も多くなっている。

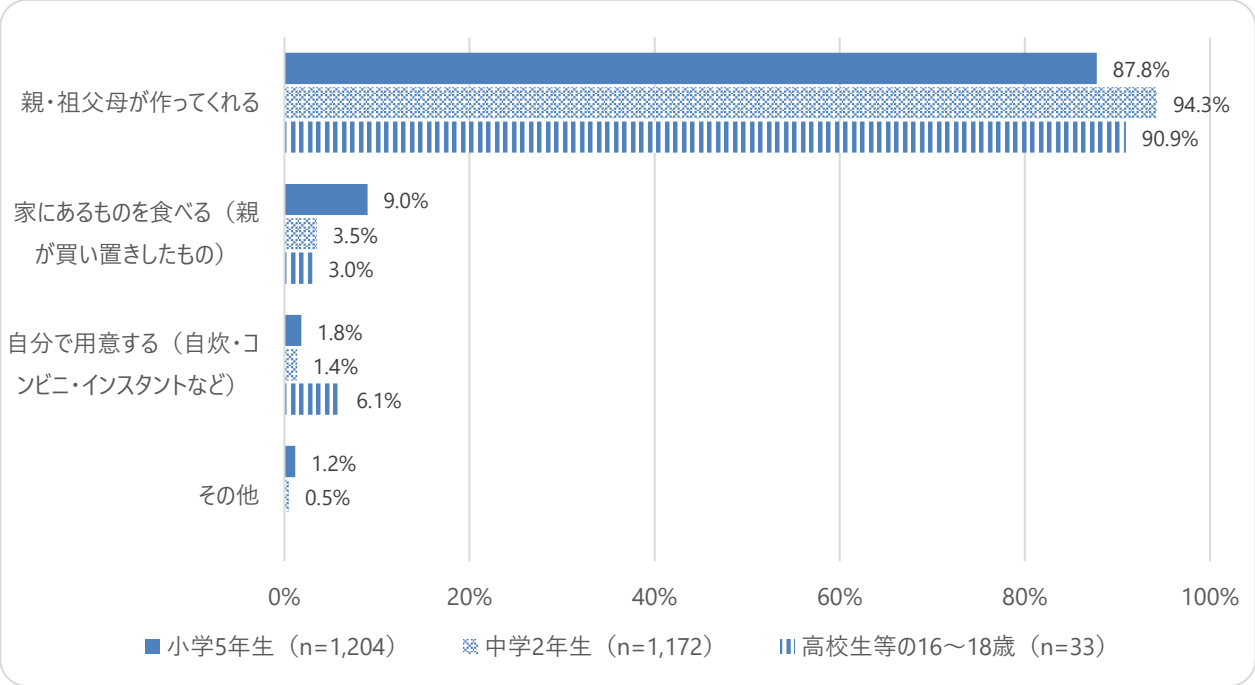


図Ⅳ-4-7　家族と一緒に食事をする頻度

≪食事の内容≫

【小学 5 年生／問 18 単数回答、中学 2 年生／問 18 単数回答、16 歳から 39 歳／問 22 単数回答】
（16 歳から 39 歳のうち、学生（高校生等 16～18 歳）と回答した人を対象に集計している。）

○食事の内容は、全世代で「親・祖父母が作ってくれる」が最も多くなっている。



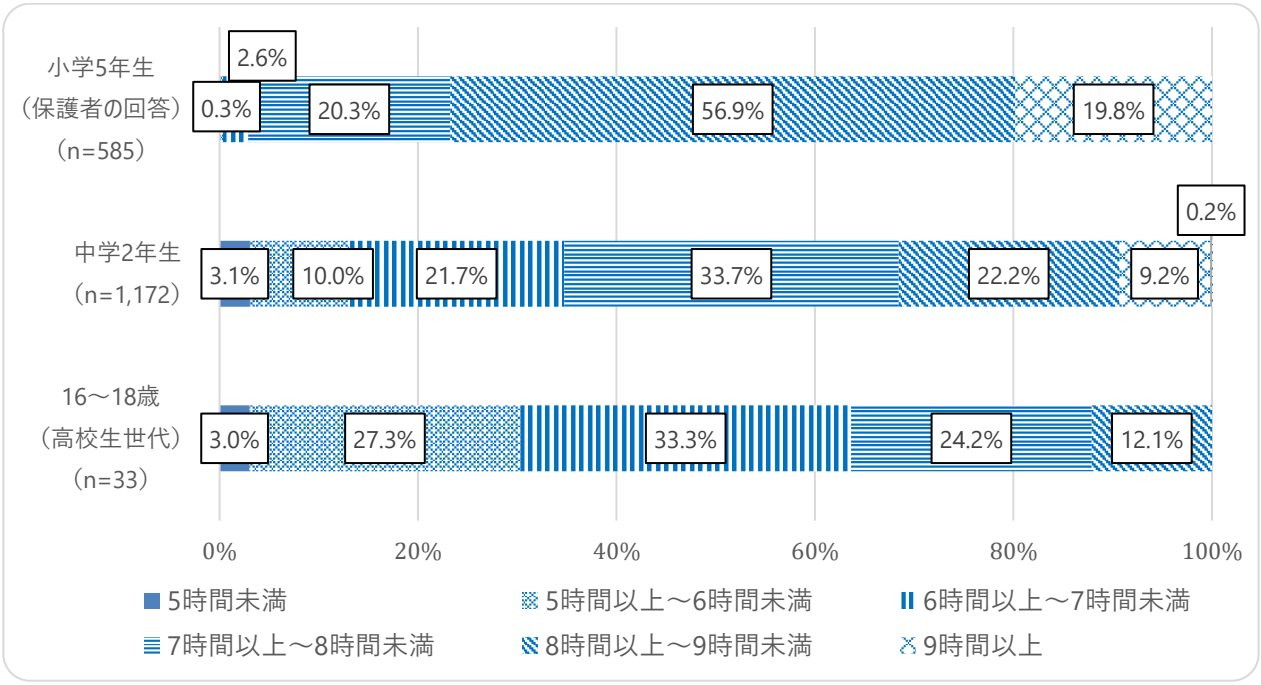
図Ⅳ-4-8　食事の内容

5 睡眠時間

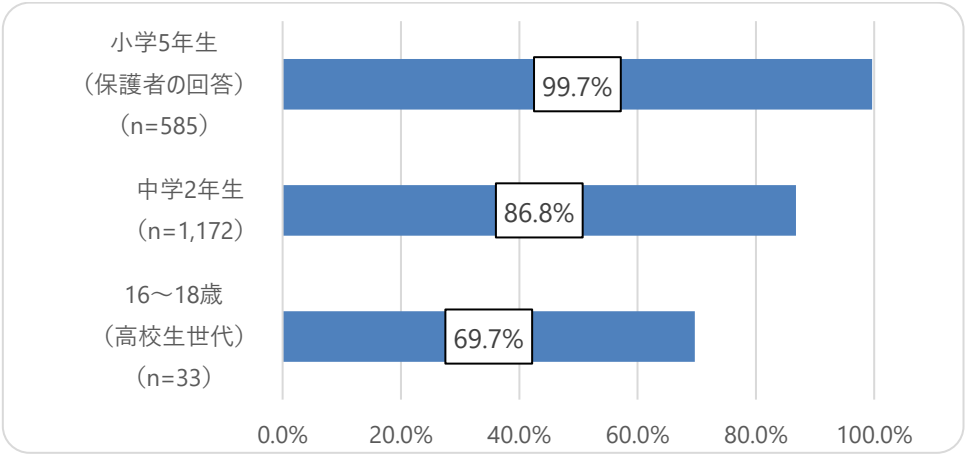
【中学 2 年生／問 19 単数回答、小学 5 年生保護者／問 28 単数回答、16 歳から 39 歳／問 23 単数回答】
（小学 5 年生は小学 5 年生保護者の回答した、お子さんの睡眠時間に関する質問を基に集計している。
16 歳から 39 歳は、「学生（高校生等の 16～18 歳）」と回答した人を集計対象としている。）

○睡眠時間について、小学 5 年生では「8 時間以上 9 時間未満」が最も多く、中学 2 年生では、「7 時間以上～8 時間未満」、16～18 歳の高校生世代では、「6 時間以上～7 時間未満」が最も多くなっている。

○6 時間以上睡眠をとっている割合を年代別に見ると、小学 5 年生は 99.7%、中学 2 年生は 86.8%、16～18 歳の高校生世代は 69.7%と、年代が上がるにつれて減少している。



図Ⅳ-5　睡眠時間



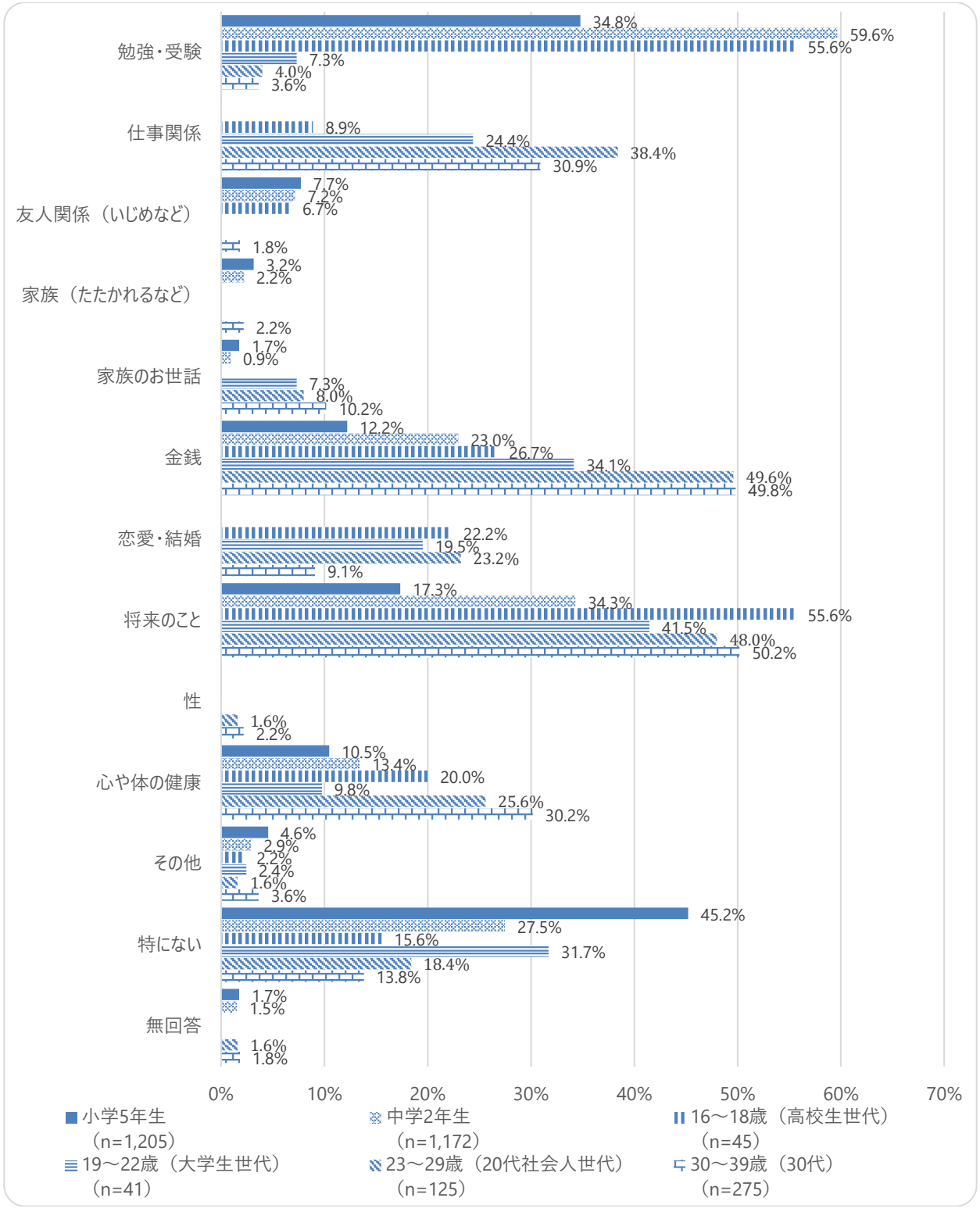
図Ⅳ-5-2　睡眠時間　6 時間以上の割合

6 こども・若者の困りごとや悩み

≪困っていること・悩んでいること≫

【小学 5 年生／問 19 複数回答、中学 2 年生／問 21 複数回答、16 歳から 39 歳／問 32 複数回答】

○困りごとや悩みについては、小学 5 年生では「特にない」「勉強・受験」「将来のこと」の順で多くなっており、中学 2 年生では「勉強・受験」「将来のこと」「特にない」、16～18 歳では「勉強・受験」「将来のこと」の順で多くなっている。

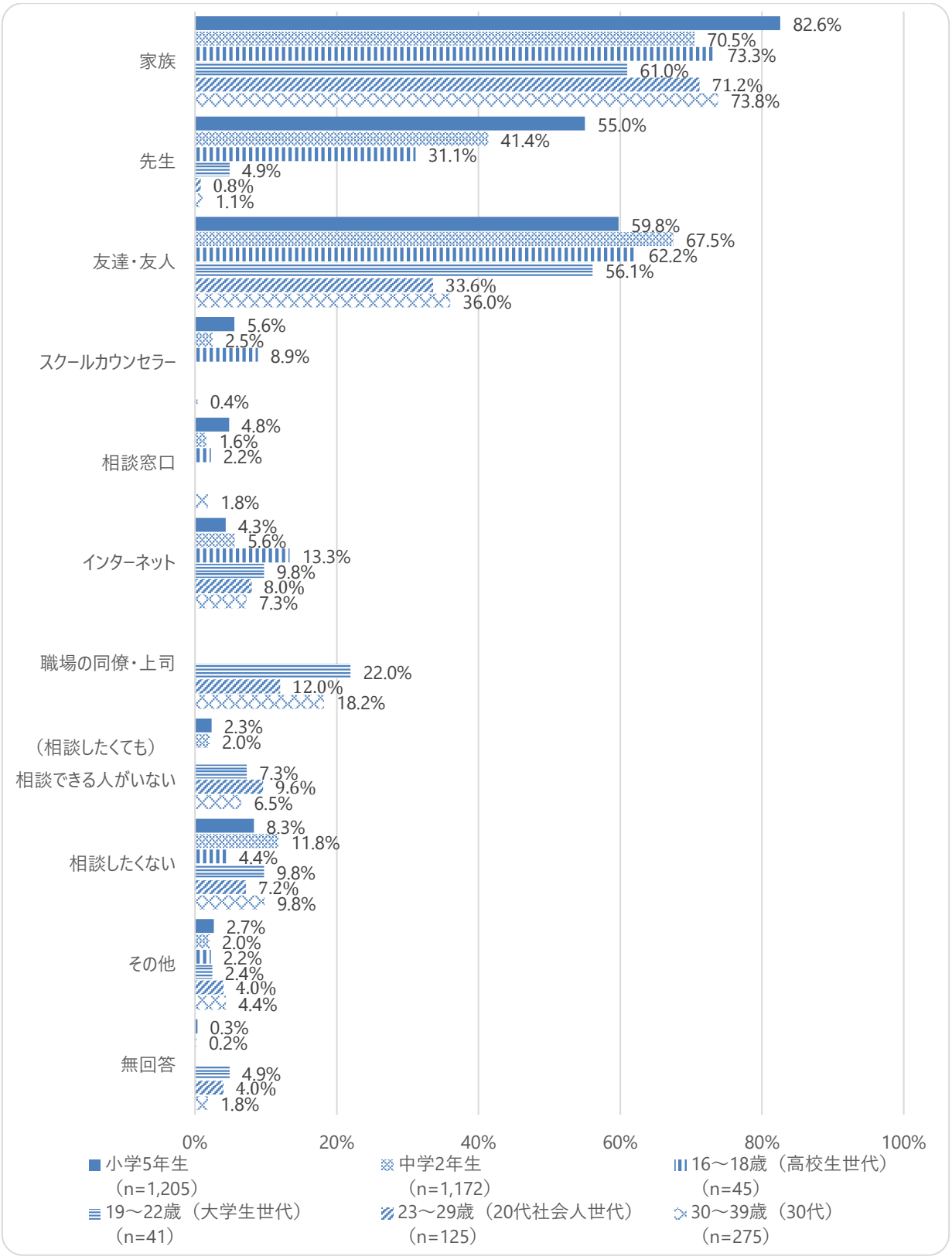


図Ⅳ-6　困っていること・悩んでいること

≪困った時・悩んだ時の相談相手≫

【小学 5 年生／問 20 複数回答、中学 2 年生／問 22 複数回答、16 歳から 39 歳／問 33 複数回答】

○困った時・悩んだ時の相談相手は、全ての対象で「家族」が最も多く、次いで「友達（友人）」となっている。19 歳以上から「相談できる人がいない」の割合が 18 歳以下の層よりも高くなっている。

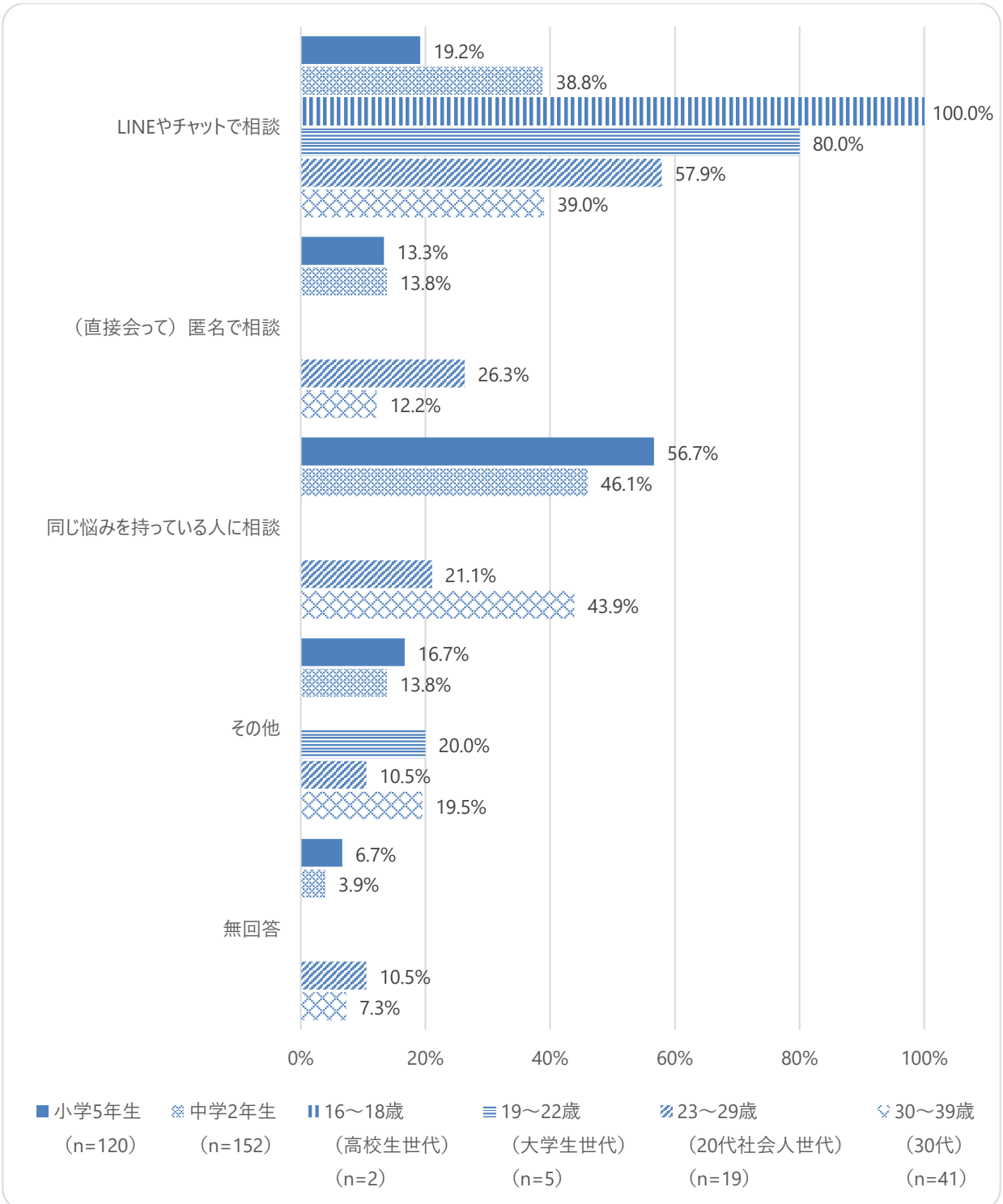


図Ⅳ-6-2　困った時・悩んだ時の相談相手

≪相談しやすくなる方法≫

【小学 5 年生／問 21 複数回答、中学 2 年生／問 23 複数回答、16 歳から 39 歳／問 34 複数回答】

○相談しやすくなる方法については、小学 5 年生、中学 2 年生及び 30 代の若者は「同じ悩みを持っている人に相談」が最も多く、16 歳から 29 歳では「LINE やチャットで相談」が最も多い。

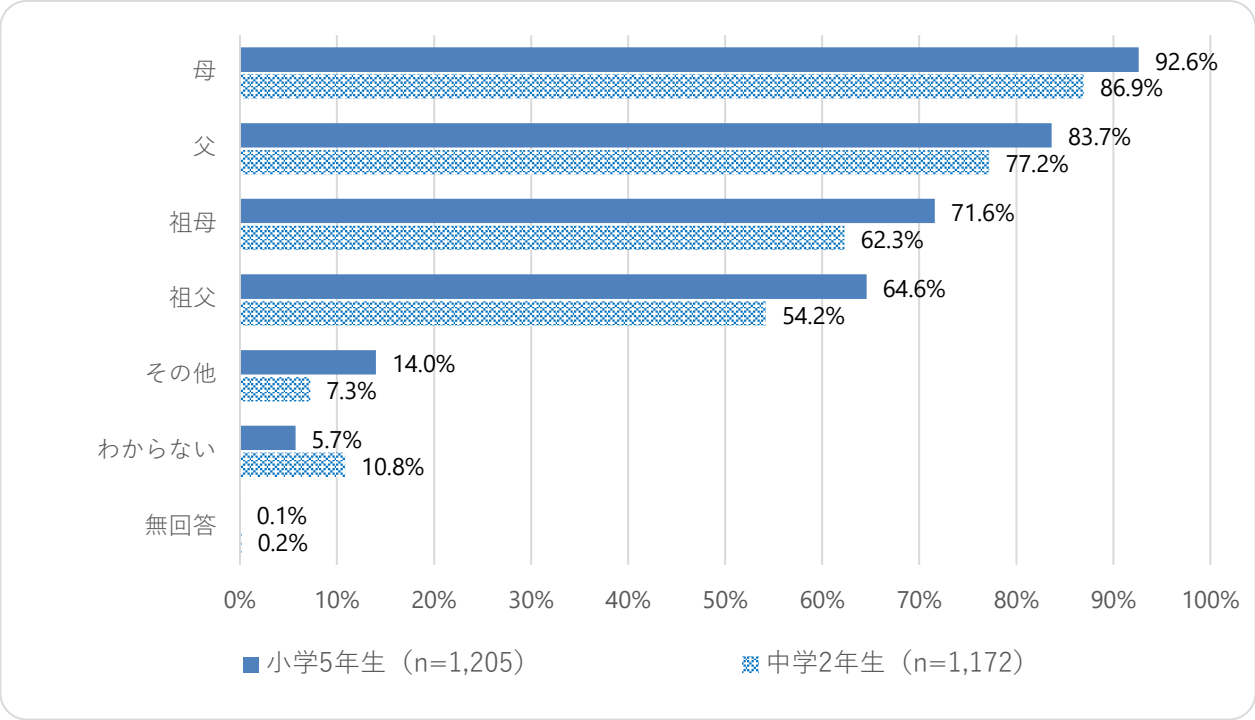


図Ⅳ-6-3　相談しやすくなる方法

≪大切にしてくれる大人≫

【小学 5 年生／問 22 複数回答、中学 2 年生／問 22 複数回答】

○大切にしてくれる大人については、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「母」が最も多くなっている。



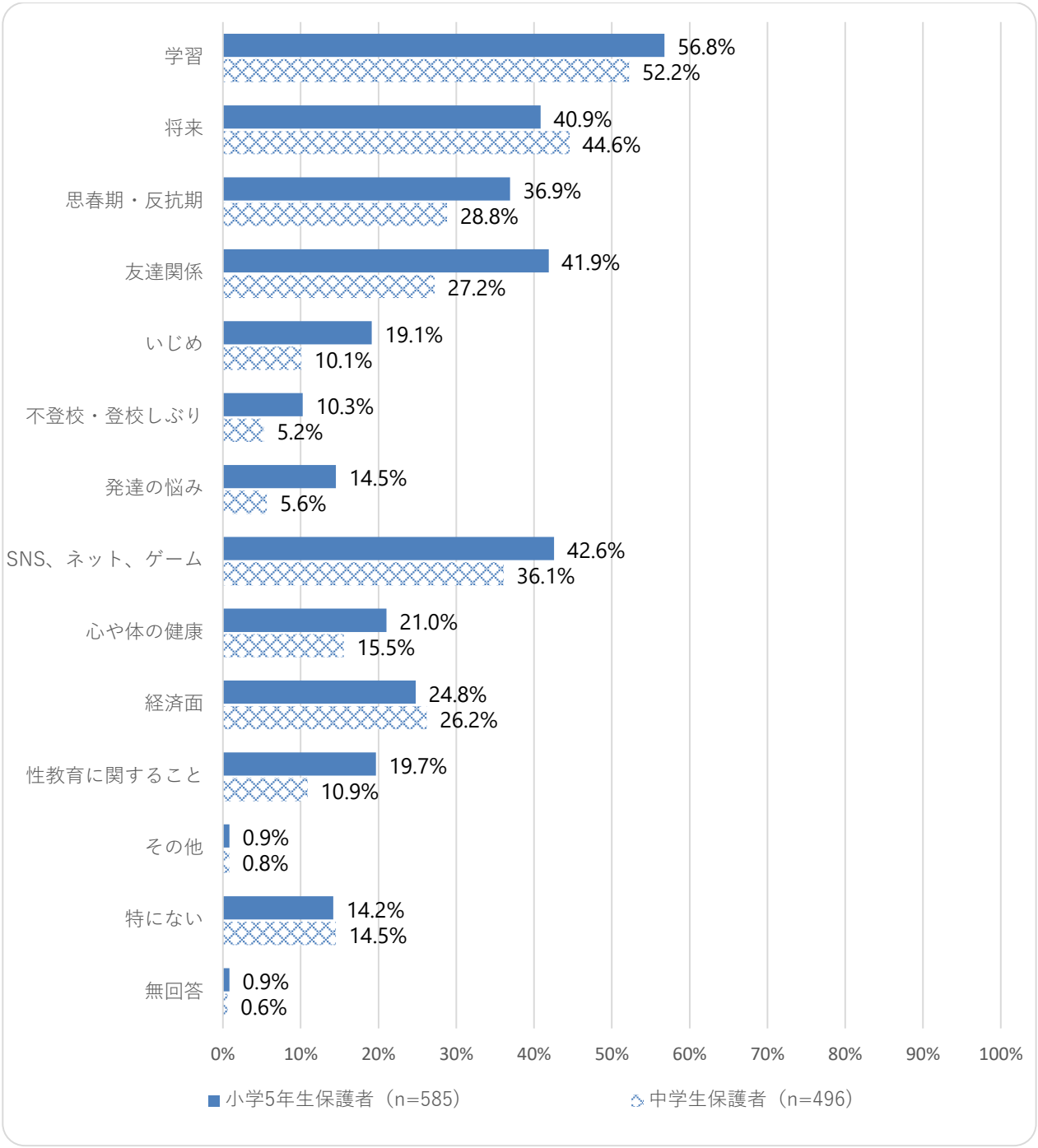
図Ⅳ-6-4　大切にしてくれる大人

7 保護者の困りごとや悩み

≪子育てに関する悩みや不安≫

【小学 5 年生保護者／問 19 複数回答、中学 2 年生保護者／問 19 複数回答】

○子育てに関する悩みや不安については、小学 5 年生保護者では、「学習」「SNS、ネット、ゲーム」「友達関係」が多くなっている。中学 2 年生保護者では、「学習」「将来」「SNS、ネット、ゲーム」が多くなっている。

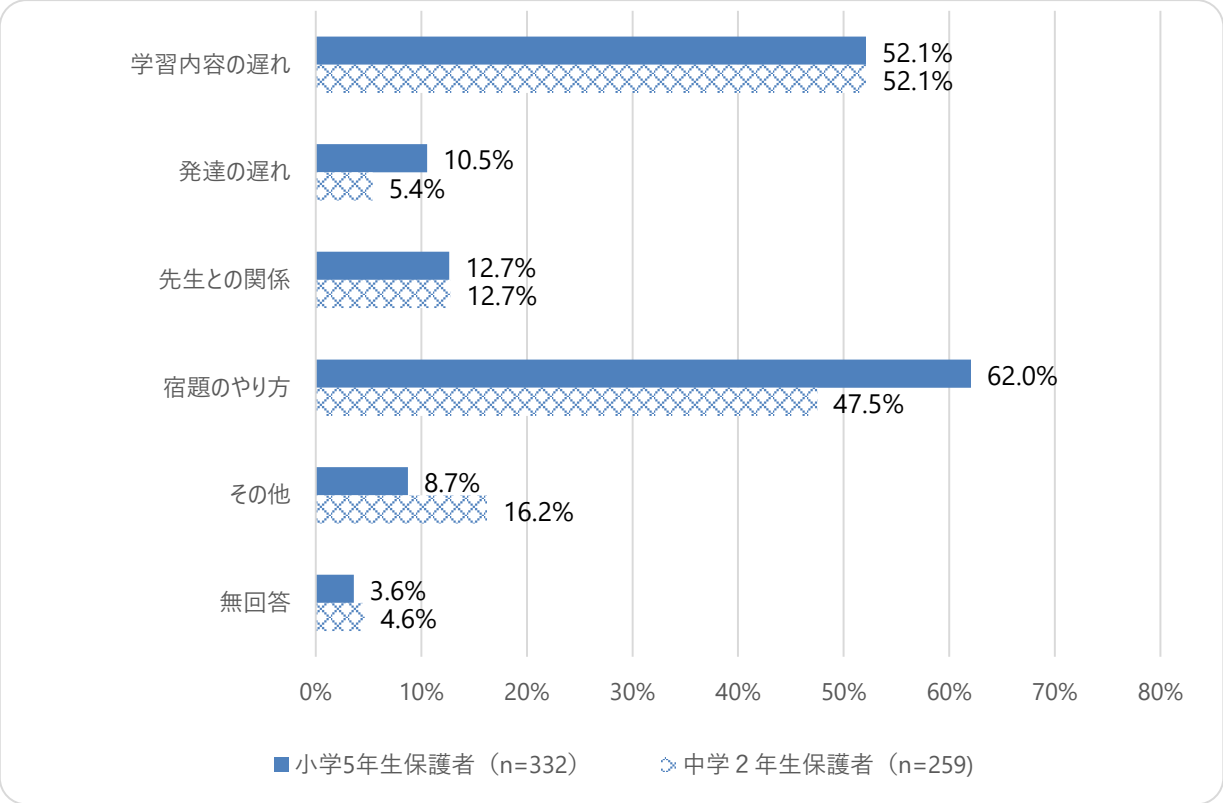


図Ⅳ-7　子育てに関する悩みや不安

≪学習に関する不安の内容≫

【小学 5 年生保護者／問 20 複数回答（問 19 で学習）、中学 2 年生保護者／問 20 複数回答（問 19 で学習）】

○学習に関する不安の内容については、小学 5 年生保護者では「宿題のやり方」が最も多く、次いで「学習内容の遅れ」となっている。中学 2 年生保護者においては「学習内容の遅れ」が最も多く、次いで「宿題のやり方」となっている。



図Ⅳ-7-2　学習に関する不安の内容

≪不登校・登校しぶりに必要な支援≫

【小学 5 年生保護者／問 21 複数回答（問 19 で不登校・登校しぶり）、中学 2 年生保護者／問 21 複数回答（問 19 で不登校・登校しぶり）】

○不登校・登校しぶりに必要な支援として、小学 5 年生保護者と中学 2 年生保護者ともに、学習の遅れへの対応や復習として「オンライン授業」が最も多く、次に先生やカウンセラーによる相談や受け入れ体制として「学校の体制や対応」が多かった。

選択肢／対象者	小学 5 年生保護者	中学 2 年生保護者
オンライン授業	15.0%	19.2%
学校の体制や対応	11.7%	19.2%
相談の場	6.7%	11.5%
専門家のサポート	5.0%	3.8%
勉強指導の場	11.7%	3.8%
親への支援	3.3%	0.0%
自宅学習	3.3%	7.7%
わからない	3.3%	0.0%
家庭の事情に合わせた支援	1.7%	0.0%
同じ状況の人との交流の場	0.0%	0.0%
送迎サービス	1.7%	0.0%
ない	1.7%	0.0%
設問にそぐわない内容	0.0%	3.8%
分類不可	1.7%	3.8%
無回答	38.3%	34.6%

小学 5 年生保護者（n=60）

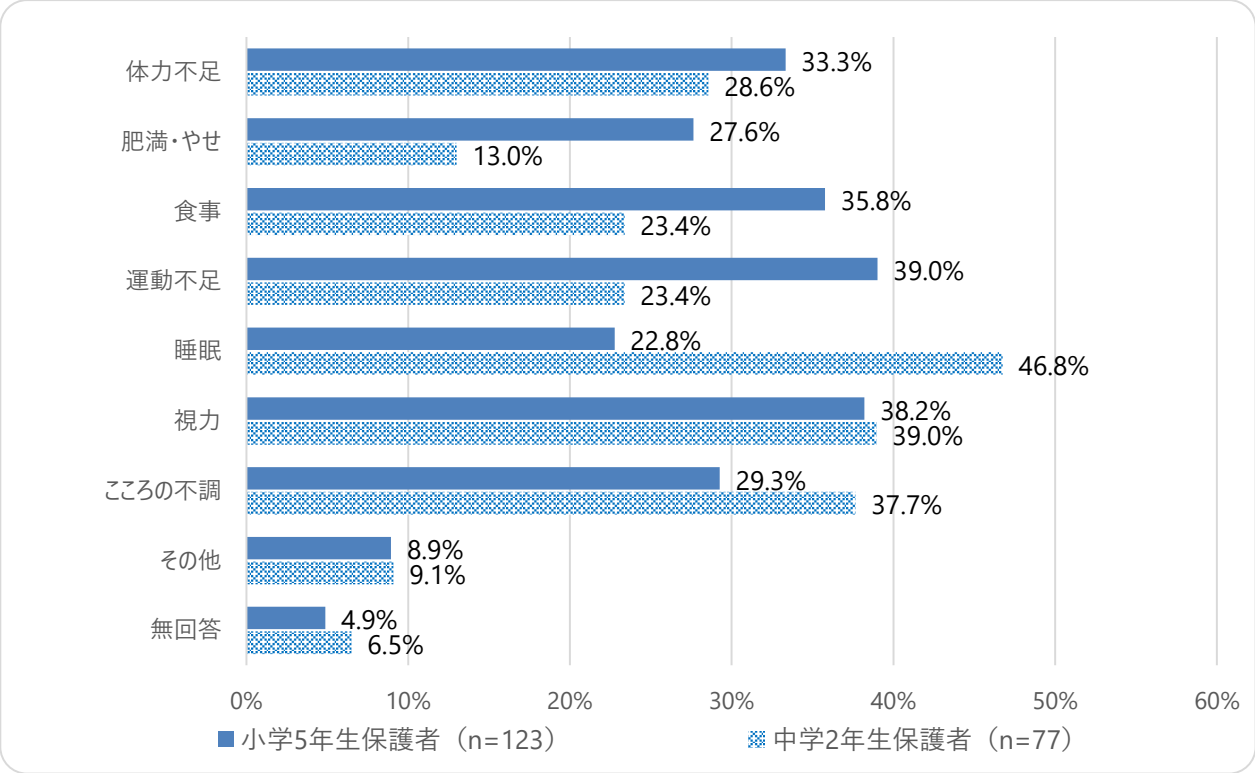
中学 2 年生保護者（n=26）

図Ⅳ-7-3　不登校・登校しぶりに必要な支援

≪心や体の健康状態に関する不安の内容≫

【小学 5 年生保護者／問 22 複数回答（問 19 で心や体の健康）、中学 2 年生保護者／問 22 複数回答（問 19 で心や体の健康）】

○こどもの心や体の健康状態に関する不安の内容は、小学 5 年生保護者では「運動不足」「視力」の順で多く、中学 2 年生保護者では、「睡眠」「視力」の順で多くなっている。

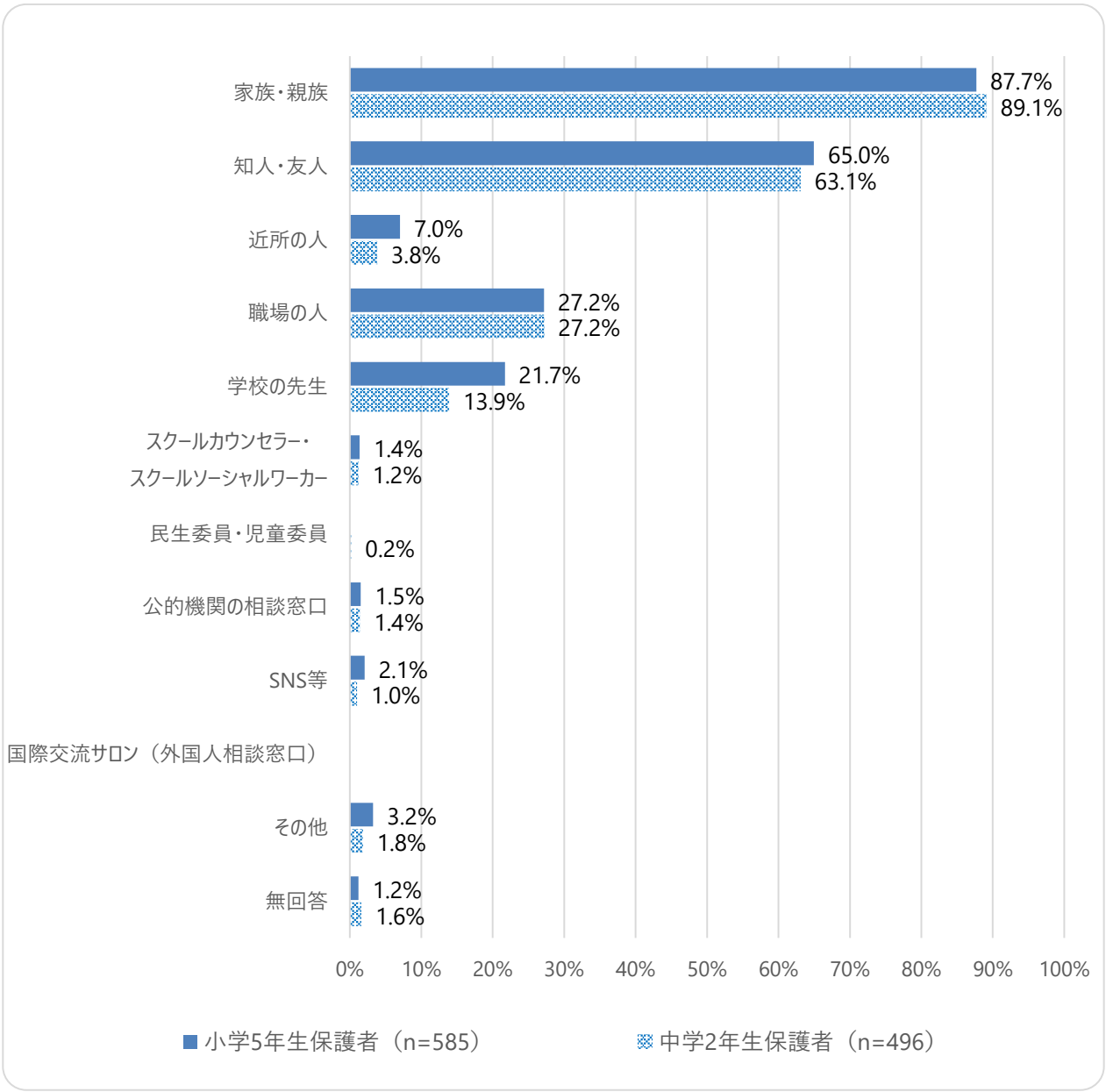


図Ⅳ-7-4　心や体の健康状態に関する不安の内容

≪子育ての悩みの相談相手≫

【小学 5 年生保護者／問 23 複数回答、中学 2 年生保護者／問 23 複数回答】

○子育てに関する相談相手としては、小学 5 年生保護者及び中学 2 年生保護者ともに「家族・親族」「知人・友人」の順で多くなっている。



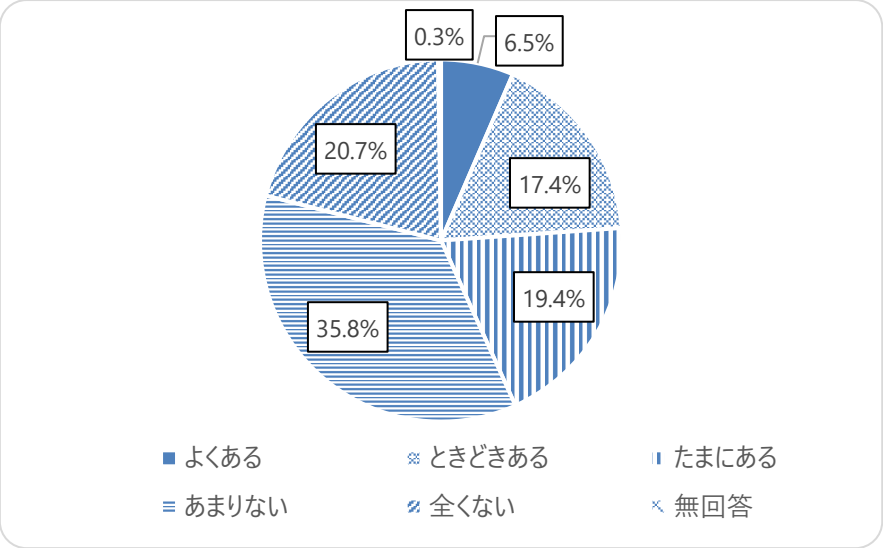
図Ⅳ-7-5　子育ての悩みの相談相手

8 孤独感

≪孤独を感じる頻度≫

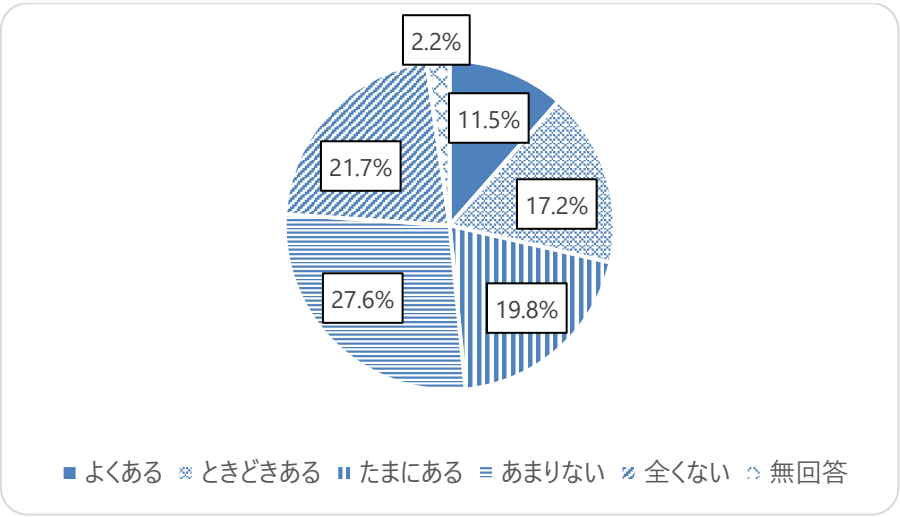
【中学 2 年生／問 20 単数回答、16 歳から 39 歳／問 31 単数回答】

○孤独を感じる頻度については、中学 2 年生、16～39 歳ともに、「あまりない」が最も多く、「よくある」「ときどきある」「たまにある」を合わせると中学 2 年生は 43.3%、16～39 歳は 48.5%となっている。



中学 2 年生（n=1,172）

図Ⅳ-8　孤独を感じる頻度



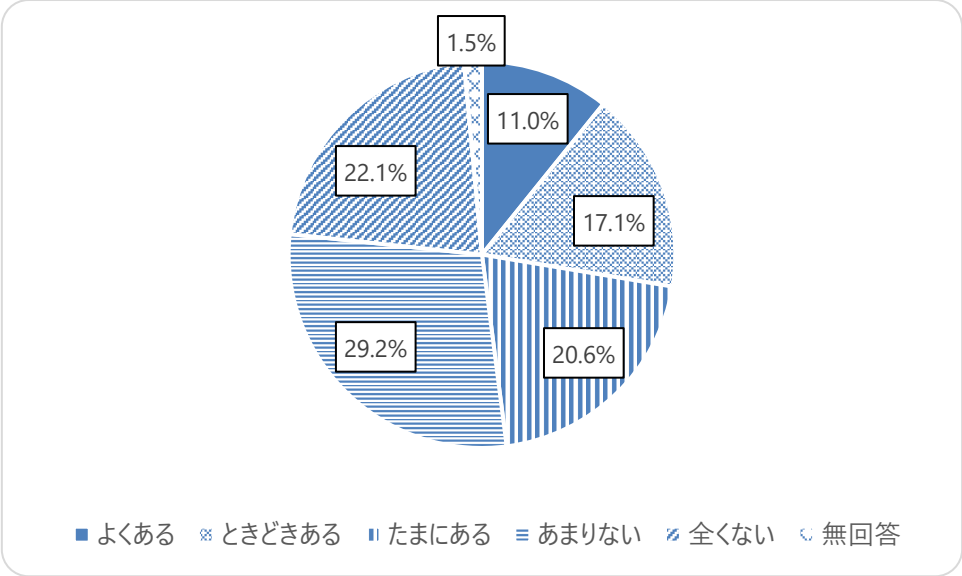
16～39 歳（n=489）

図Ⅳ-8-2　孤独を感じる頻度

≪日本国籍の若者が孤独を感じる頻度≫

【16 歳から 39 歳／問 31 単数回答（問 4 で日本）】

○日本国籍の若者は、「あまりない」が最も多く、「よくある」「ときどきある」「たまにある」を合わせると 48.7％となっている。



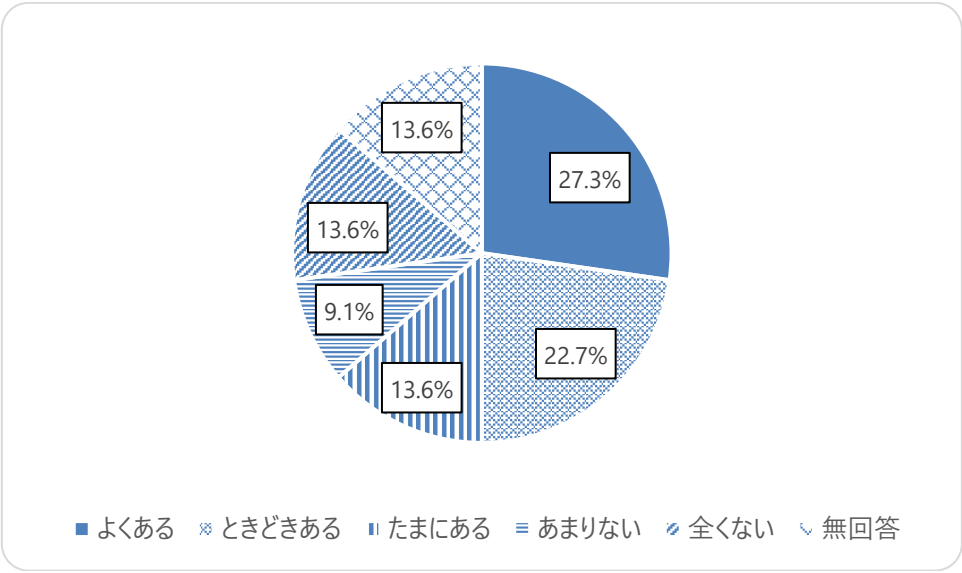
日本国籍の若者 16～39 歳（n=456）

図Ⅳ-8-3　日本国籍の若者が孤独を感じる頻度

≪外国籍の若者が孤独を感じる頻度≫

【16 歳から 39 歳／問 31 単数回答（問 4 で日本以外）】

○外国籍の若者では、「よくある」が 27.3％と最も多く、「ときどきある」「たまにある」を合わせると 63.6％となっている。



外国籍の若者 16～39 歳（n=22）

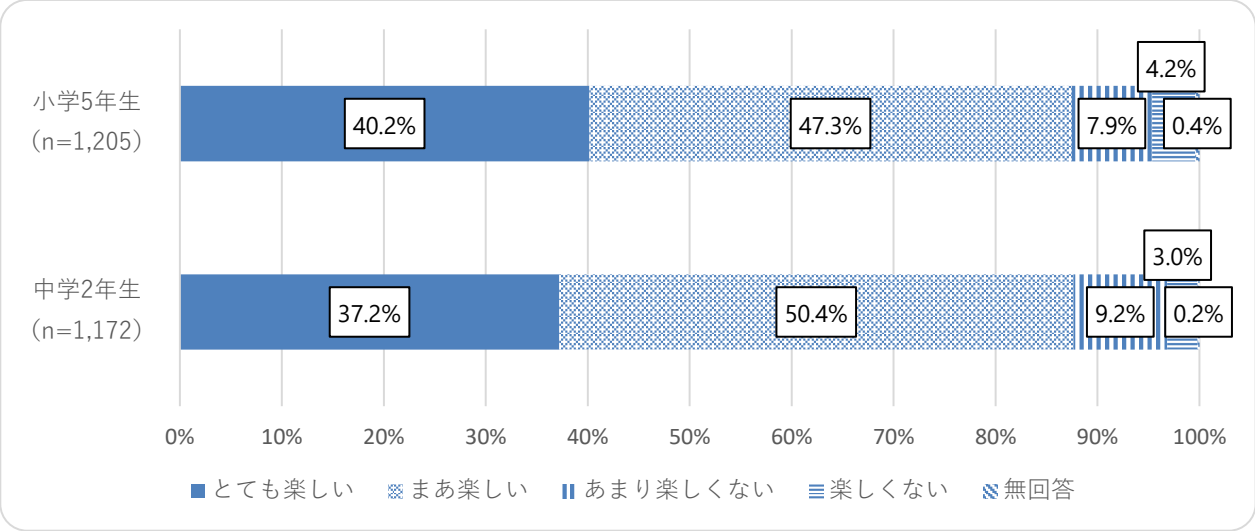
図Ⅳ-8-4　外国籍の若者が孤独を感じる頻度

Ⅴ 学校の生活のこと

1 学校生活の楽しさ

【小学 5 年生／問 23 単数回答、中学 2 年生／問 25 単数回答】

○学校生活については、「とても楽しい」「まあ楽しい」と回答した小学 5 年生は 87.5%、中学 2 年生は 87.6%となっている。



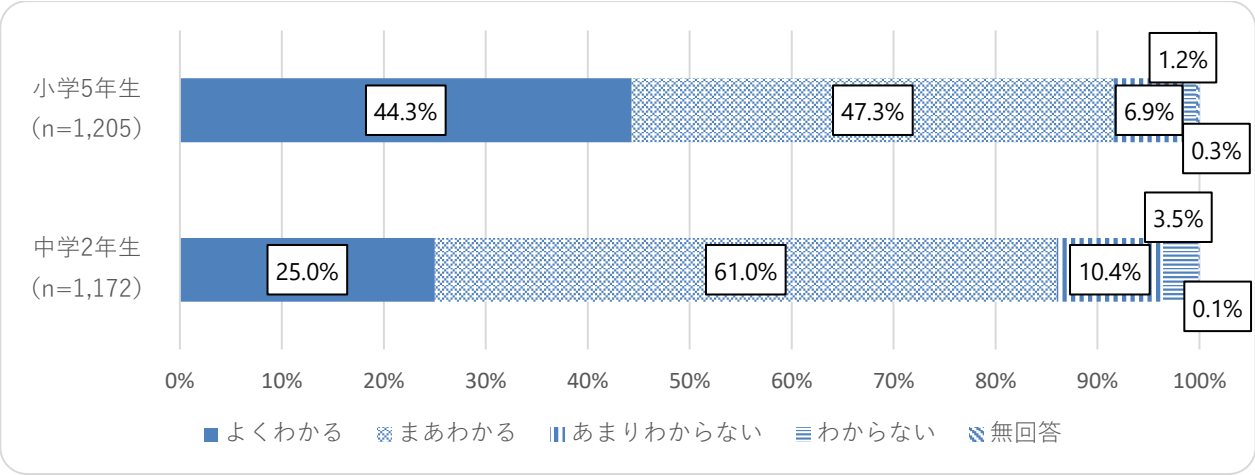
図Ⅴ-1　学校生活の楽しさ

2 学校の授業や勉強

≪学校の授業の理解度≫

【小学 5 年生／問 24 単数回答、中学 2 年生／問 26 単数回答】

○学校の授業について、「まあわかる」「よくわかる」と回答した小学 5 年生は 91.6%、中学 2 年生は 86.0%となっている。

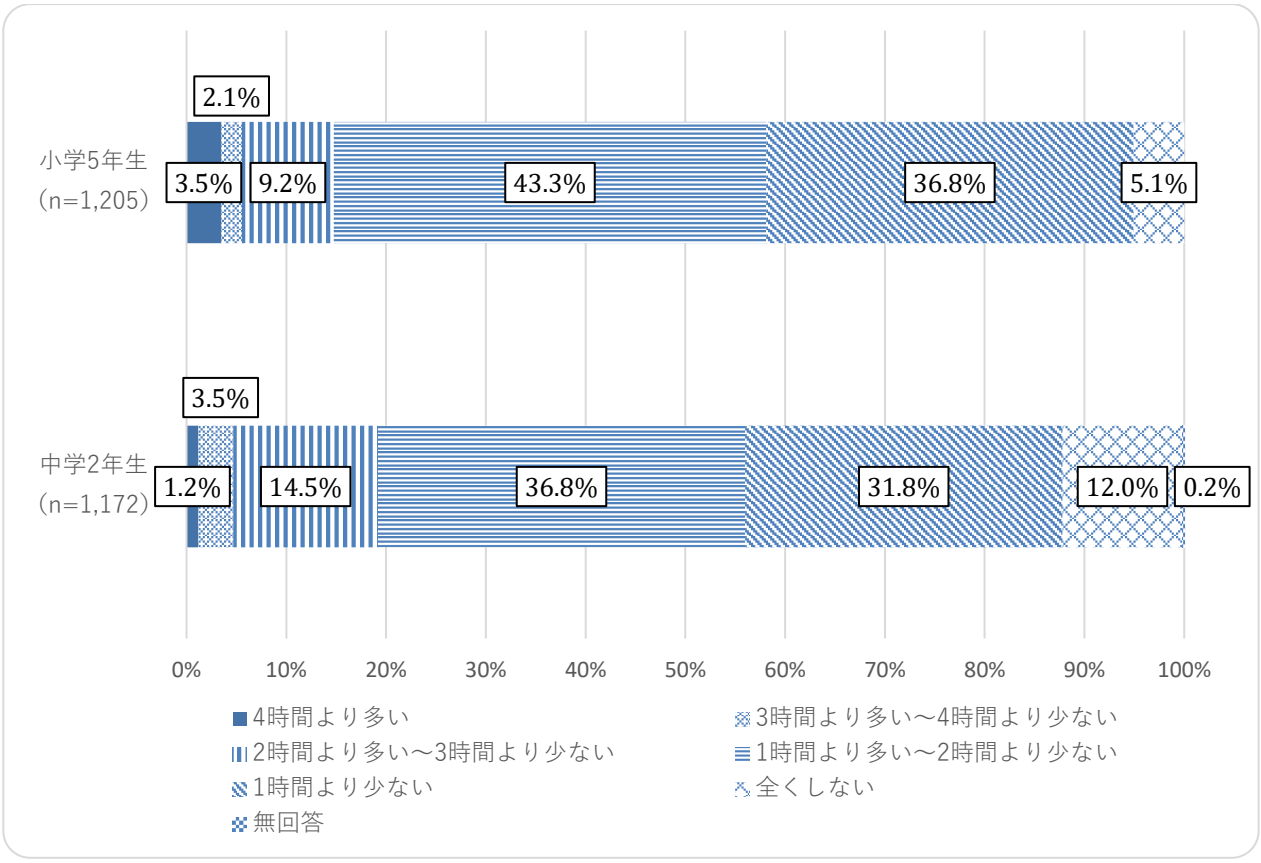


図Ⅴ-2　学校の授業の理解度

≪学校の授業以外の 1 日当たりの勉強時間≫

【小学 5 年生／問 25 単数回答、中学 2 年生／問 27 単数回答】

○学校の授業以外の 1 日当たりの勉強時間については、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「1 時間以上 2 時間未満」が最も多く、次いで「1 時間未満」となっており、2 時間未満の小学 5 年生が 80.1%、中学 2 年生が 68.6%となっている。※1



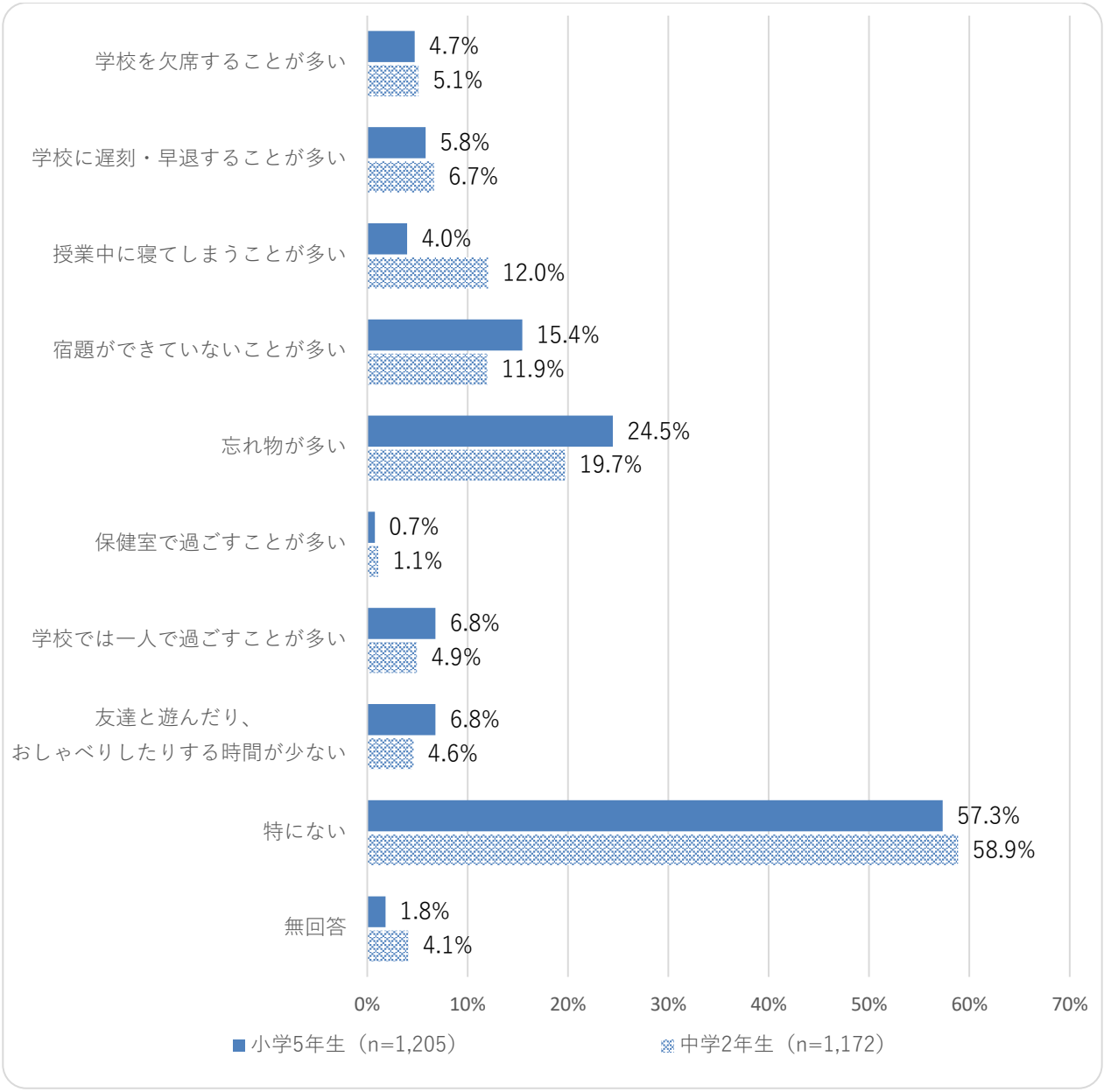
図Ⅴ-2-2　学校の授業以外の 1 日当たりの勉強時間

※1：「授業以外の 1 日当たりの勉強時間が 2 時間未満の割合」の全国平均は、小学 6 年生が 81.0%、中学 3 年生 84.1%である。（小学生・中学生とも対象学年が異なるため、単純比較には留意する必要あり。）
文部科学省. 令和 8 年度全国学力・学習状況調査
（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/）

3 学校生活における懸念

【小学 5 年生／問 26 複数回答、中学 2 年生／問 28 複数回答】

○学校生活における懸念については、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「特にない」が最も多くなっている。



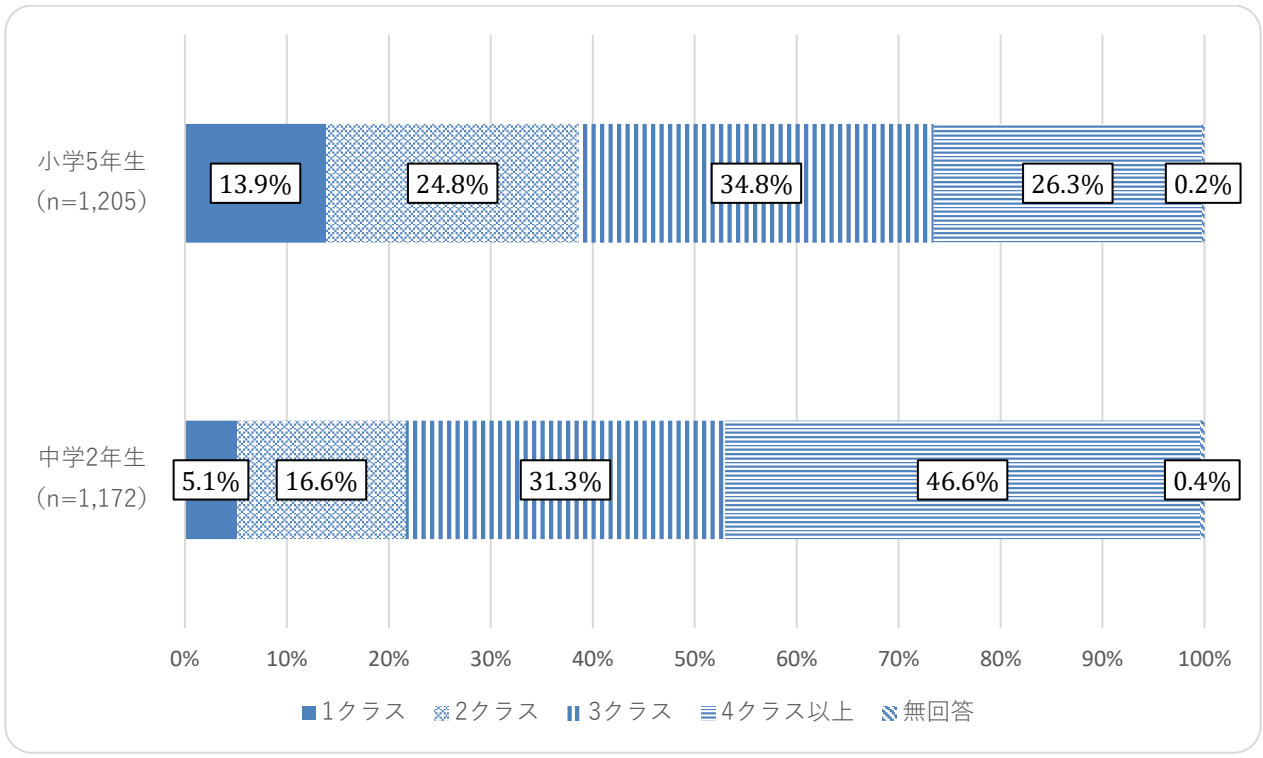
図Ⅴ-3　学校生活で当てはまること

4 学校の体制

≪1 学年に望ましいクラス数≫

【小学 5 年生／問 27 単数回答、中学 2 年生／問 29 単数回答】

○1 学年に望ましいクラス数については、2 クラス以上を望む割合が、小学 5 年生では、86.1%、中学 2 年生では 94.9%となっている。

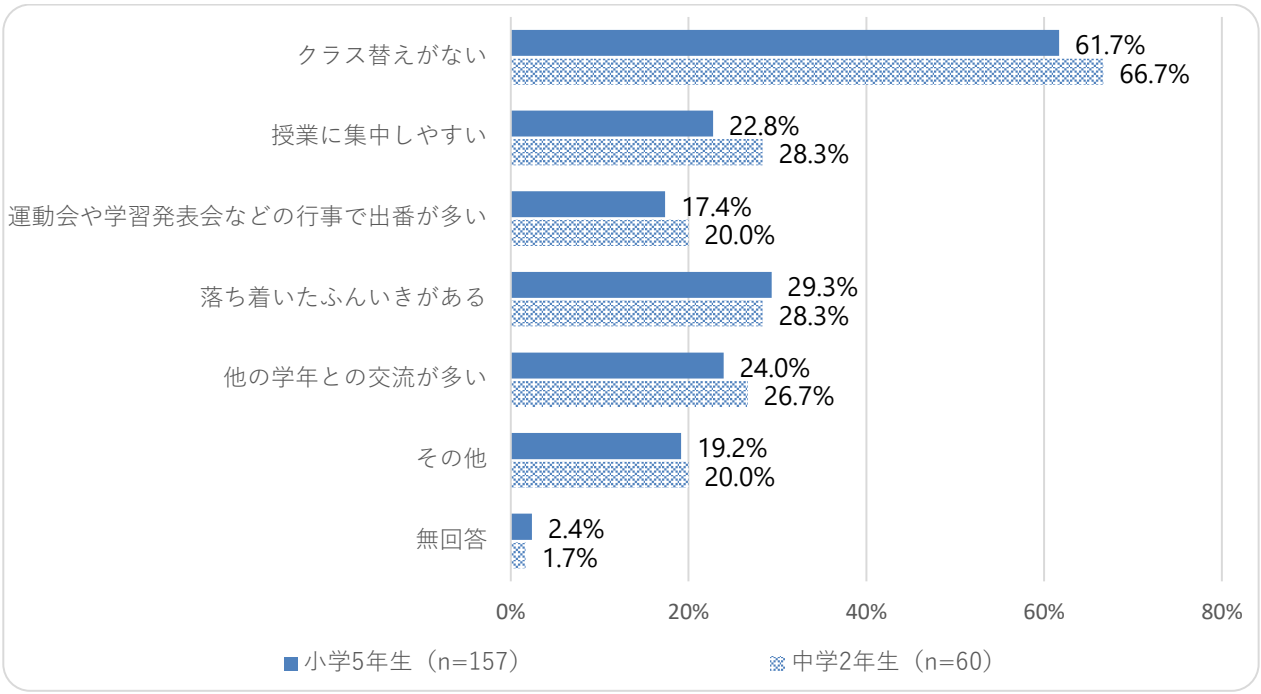


図Ⅴ-4　1 学年に望ましいクラス数

≪1 クラスがよいと思う理由≫

【小学 5 年生／問 28 複数回答（問 27 で 1 クラス）、中学 2 年生／問 30 複数回答（問 29 で 1 クラス）】

○1 クラスがよいと思う理由は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「クラス替えがない」が最も多くなっている。

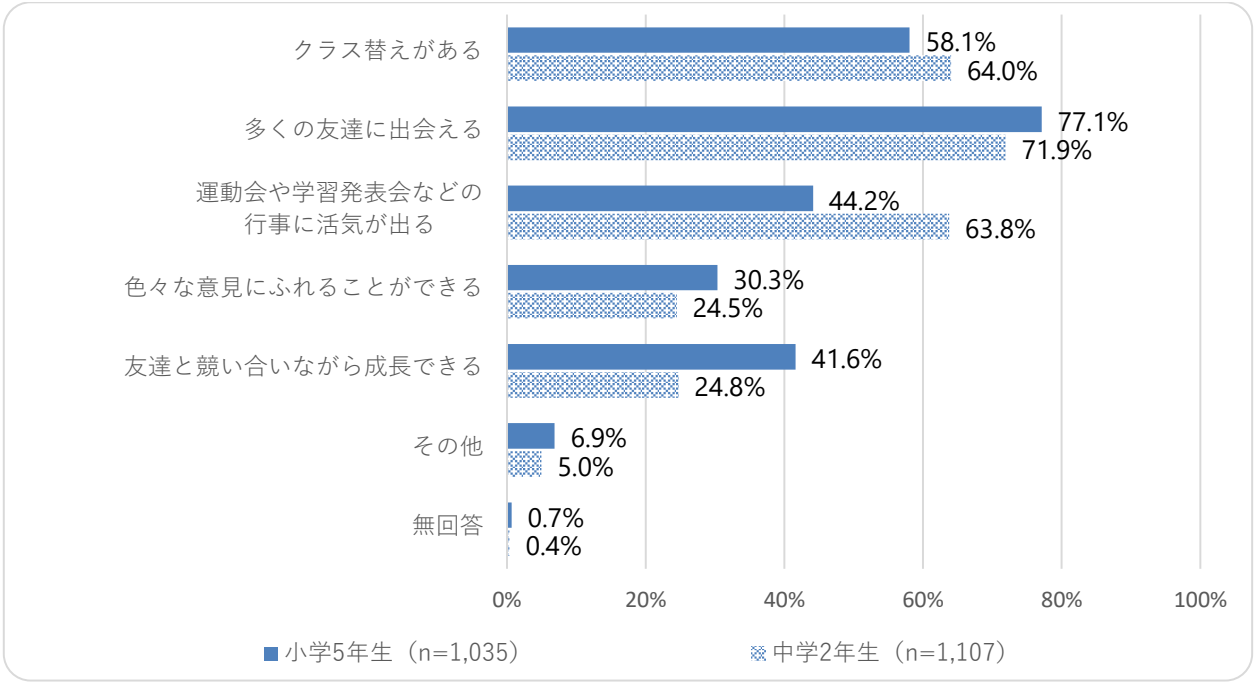


図Ⅴ-4-2　1 クラスがよいと思う理由

≪複数クラスがよいと思う理由≫

【小学 5 年生／問 29 複数回答（問 27 で 1 クラス以外）、中学 2 年生／問 31 複数回答（問 29 で 1 クラス以外）】

○複数クラスがよいと思う理由は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに「多くの友達に出会える」「クラス替えがある」の順で多くなっている。



図Ⅴ-4-3　複数クラスがよいと思う理由

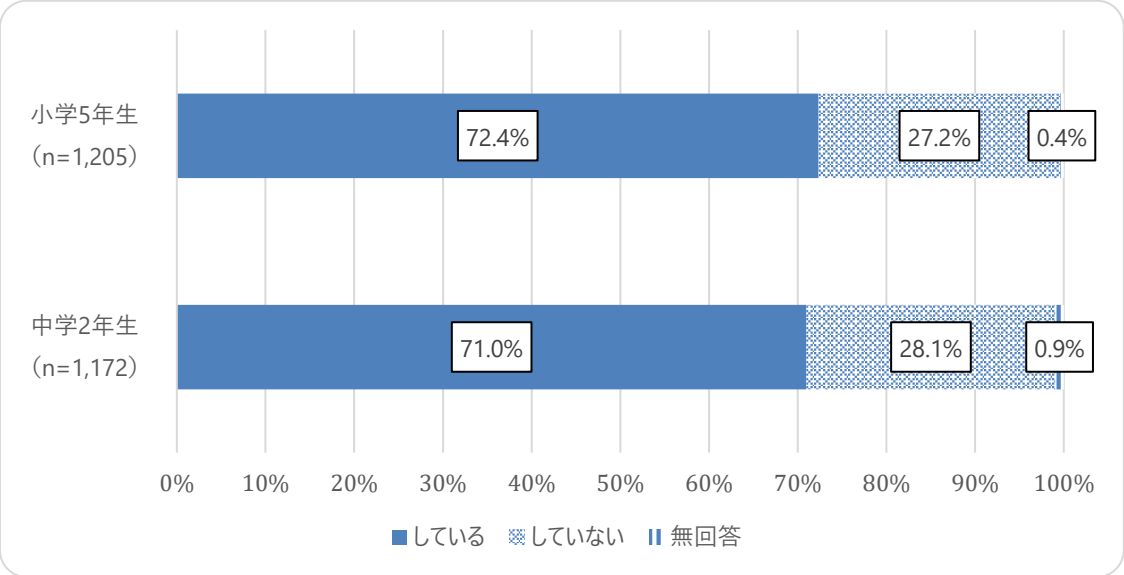
Ⅵ 居場所のこと

1 習い事・クラブ活動・部活動

≪習い事・クラブ活動への参加状況≫

【小学 5 年生／問 30 単数回答、中学 2 年生／問 32 単数回答】

○小学 5 年生、中学 2 年生の習い事・クラブ活動への参加状況は、いずれも「参加している」が最も多く、小学 5 年生は 72.4%、中学 2 年生は 71.0%となっている。

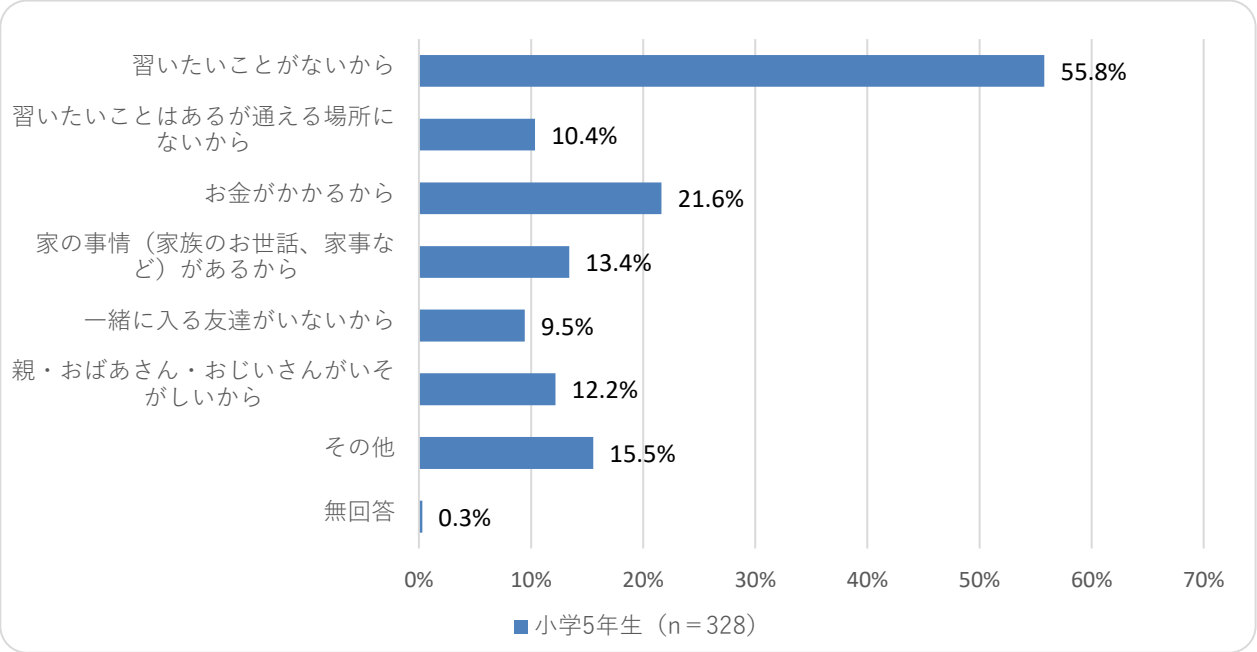


図Ⅵ-1　習い事・クラブ活動への参加状況

≪習い事をしていない理由（小学５年生）≫

【小学５年生／問 31 複数回答（問 30 でしていない）】

○小学５年生が習い事をしていない理由は「習いたいことがないから」が最も多くなっている。

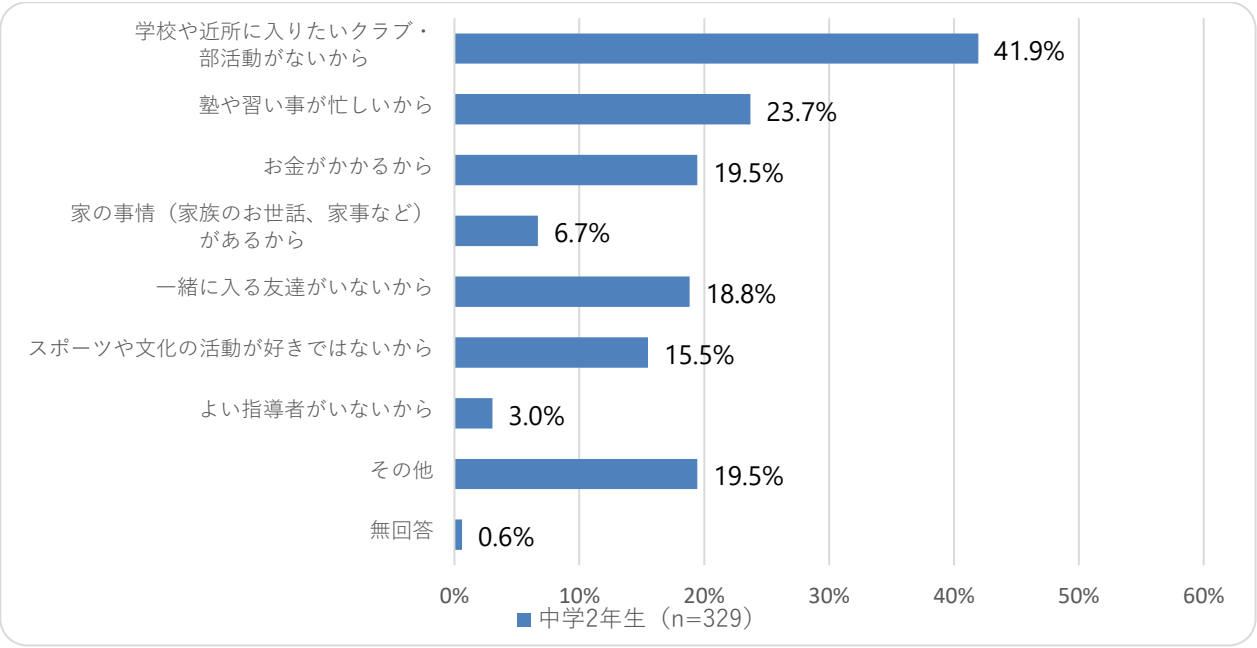


図Ⅵ-1-2　習い事をしていない理由（小学５年生）

≪クラブ・部活動に参加していない理由（中学２年生）≫

【中学２年生／問 33 複数回答（問 32 で参加していない）】

○中学２年生がクラブ・部活動に参加していない理由は、「学校や近所に入りたいクラブ・部活動がないから」が最も多く、次いで「塾や習い事が忙しいから」となっている。



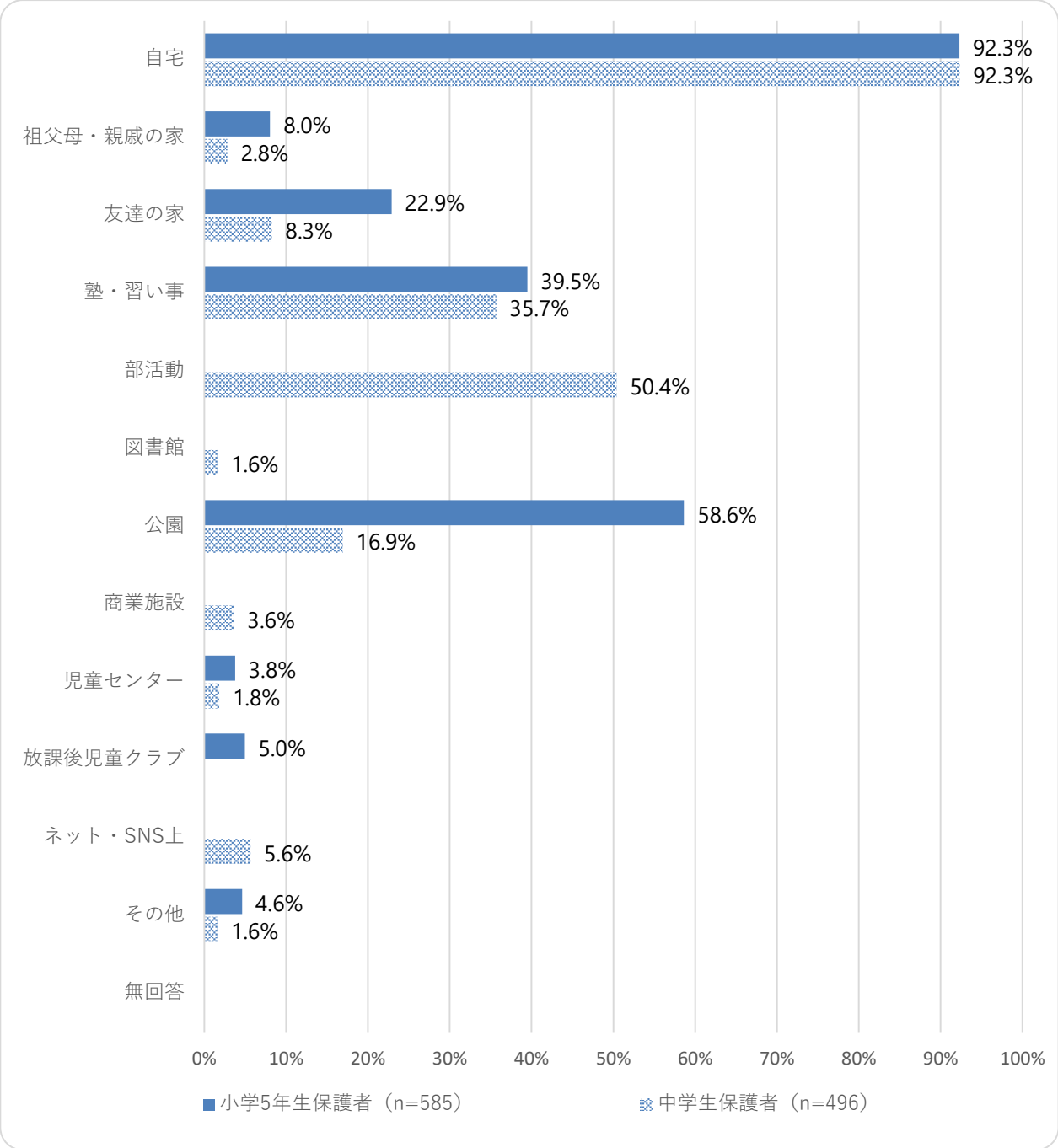
図Ⅵ-1-3　中学２年生がクラブ・部活動に参加していない理由

2 こども・若者が過ごしている場所

≪放課後に過ごしている場所≫

【小学 5 年生保護者／問 17 複数回答、中学 2 年生保護者／問 17 複数回答】
（小学 5 年生、中学 2 年生とも、保護者アンケートの回答結果から集計した内容である）

○小学 5 年生、中学 2 年生が放課後に過ごしている場所に関する保護者の認識は、小学 5 年生は「自宅」「公園」「塾・習い事」の順で多く、中学 2 年生は「自宅」「部活動」「塾・習い事」の順で多くなっている。

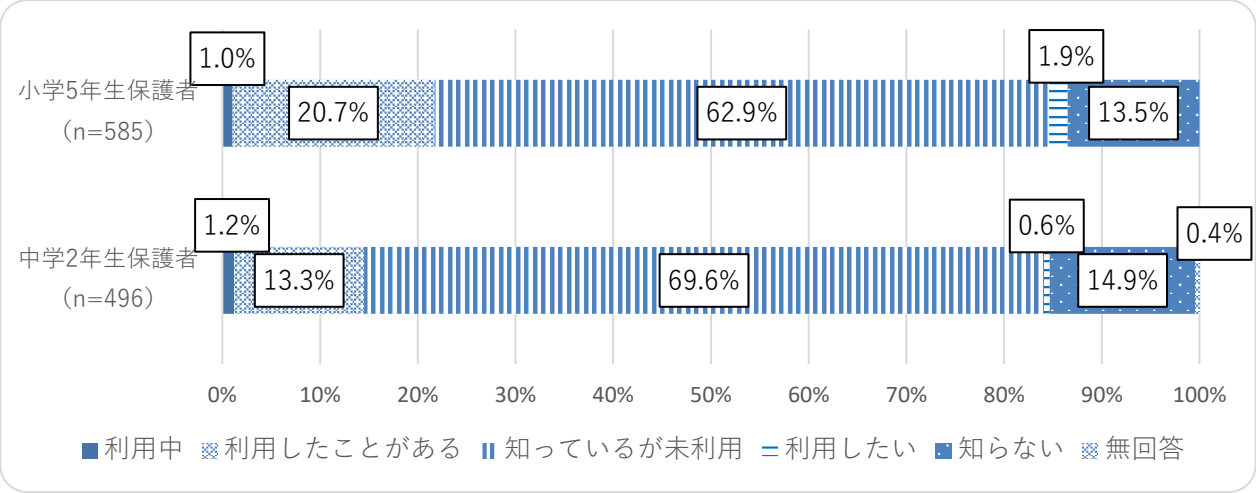


図VI-2　放課後に過ごしている場所

≪子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況≫

【小学 5 年生保護者／問 18 単数回答、中学 2 年生保護者／問 18 単数回答】

○子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況については、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者のいずれも「知っているが未利用」が最も多いが、「利用したことがある」は、ひとり親の割合が高くなっている。



図Ⅵ-2-2　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況

【小学 5 年生保護者／問 18×問 7　単数回答、中学 2 年生保護者／問 18×問 7　単数回答】

小学 5 年生保護者（n=585）

利用状況/ひとり親	ひとり親ではない	ひとり親	その他	無回答
利用中	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
利用したことがある	18.4%	33.8%	42.9%	0.0%
知っているが未利用	65.8%	45.5%	42.9%	100.0%
利用したい	2.0%	1.3%	0.0%	0.0%
知らない	12.6%	19.5%	14.3%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図Ⅵ-2-3　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と家庭状況（小学 5 年生保護者）

中学 2 年生保護者（n=496）

利用状況/ひとり親	ひとり親ではない	ひとり親	その他	無回答
利用中	0.7%	4.6%	0.0%	0.0%
利用したことがある	12.2%	21.5%	0.0%	0.0%
知っているが未利用	70.5%	66.2%	25.0%	0.0%
利用したい	0.5%	1.5%	0.0%	0.0%
知らない	15.7%	6.2%	75.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%

図Ⅵ-2-4　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と家庭状況（中学 2 年生保護者）

【小学 5 年生保護者／問 18×問 26　単数回答、中学 2 年生保護者／問 18×問 27 単数回答】

○家計の状況にかかわらず、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者のいずれも、「知っているが未利用」が最も多いが、家計状況が「やや厳しい」「厳しい」と回答した家庭は、「利用中」「利用したことがある」が多くなる傾向にある。

小学 5 年生保護者（n=585）

利用状況/家計状況	ゆとりがある	ややゆとりがある	どちらとも言えない	やや厳しい	厳しい	無回答
利用中	0.0%	0.8%	0.9%	1.8%	1.3%	0.0%
利用したことがある	16.1%	14.6%	21.3%	19.1%	33.3%	0.0%
知っているが未利用	71.0%	73.1%	62.1%	61.8%	46.2%	100.0%
利用したい	3.2%	0.8%	2.6%	1.8%	1.3%	0.0%
知らない	9.7%	10.8%	13.2%	15.5%	17.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図Ⅵ-2-5　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と家計状況（小学 5 年生保護者）

中学 2 年生保護者（n=496）

利用状況/家計状況	ゆとりがある	ややゆとりがある	どちらとも言えない	やや厳しい	厳しい	無回答
利用中	0.0%	0.0%	1.0%	1.8%	3.6%	0.0%
利用したことがある	11.5%	11.3%	12.6%	18.3%	10.7%	0.0%
知っているが未利用	69.2%	69.1%	71.4%	68.8%	67.9%	0.0%
利用したい	3.8%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
知らない	15.4%	19.6%	15.0%	9.2%	17.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図Ⅵ-2-6　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と家計状況（中学 2 年生保護者）

【小学 5 年生保護者／問 18×問 26　単数回答、中学 2 年生保護者／問 18×問 27　単数回答】

○子育て費用の負担感にかかわらず、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者のいずれも、「知っているが未利用」が最も多いが、小学 5 年生保護者で子育ての費用の負担感が「負担が大きい」「非常に負担が大きい」と回答した家庭は、「利用中」又は「利用したことがある」が多くなる傾向にある。

小学 5 年生保護者（n=585）

利用状況/子育て費用の負担感	負担感はない	あまり負担だと思わない	やや負担感がある	負担が大きい	非常に負担が大きい	無回答
利用中	0.0%	1.4%	0.0%	1.7%	3.6%	0.0%
利用したことがある	15.2%	19.1%	20.3%	22.4%	27.3%	0.0%
知っているが未利用	60.6%	66.7%	66.1%	57.8%	49.1%	100.0%
利用したい	3.0%	1.4%	2.5%	1.7%	0.0%	0.0%
知らない	21.2%	11.3%	11.0%	16.4%	20.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ⅵ-2-7　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と子育て費用の負担感（小学 5 年生保護者）

中学 2 年生保護者（n=496）

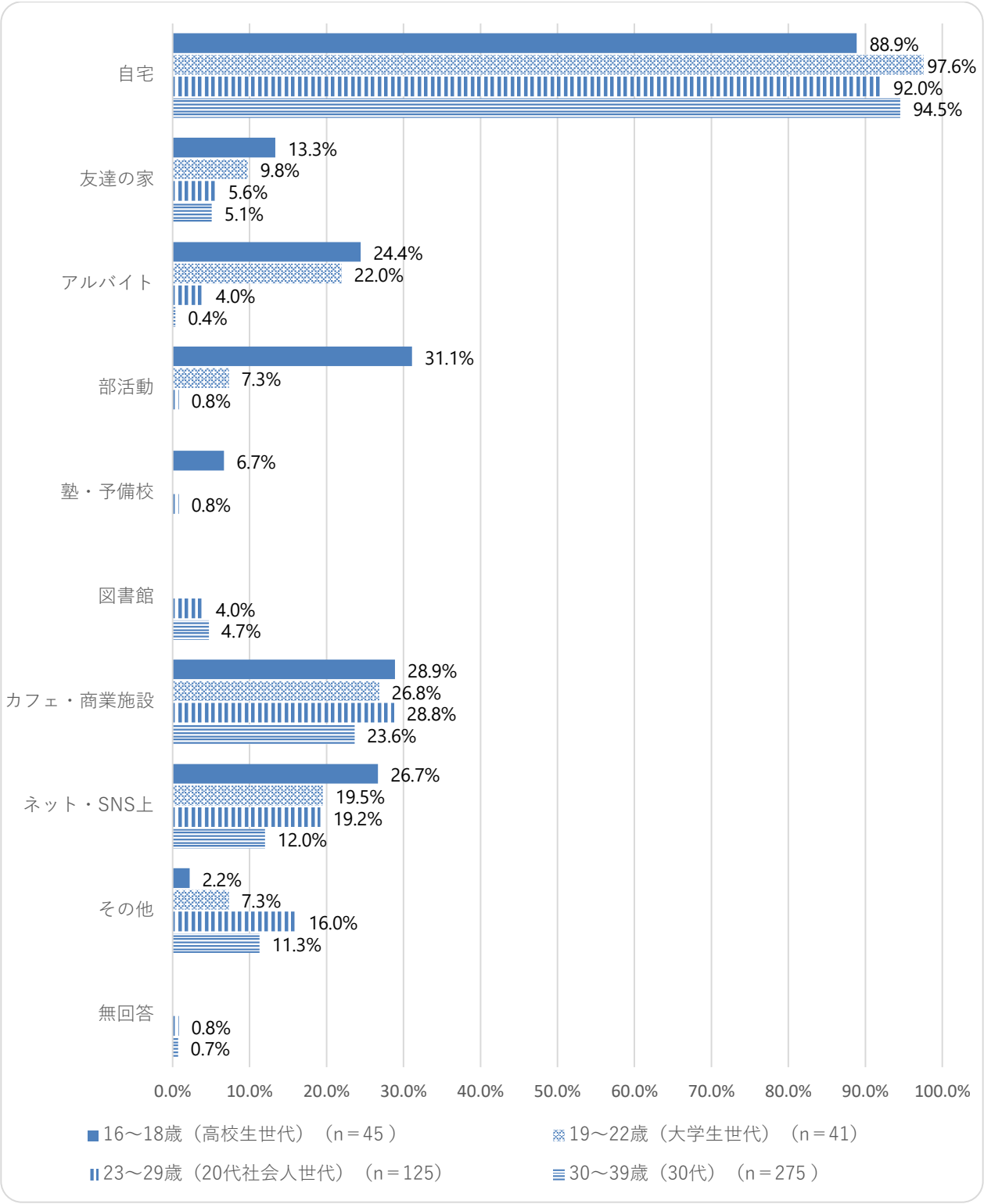
利用状況/子育て費用の負担感	負担感はない	あまり負担だと思わない	やや負担感がある	負担が大きい	非常に負担が大きい	無回答
利用中	4.0%	0.0%	1.6%	1.0%	2.0%	0.0%
利用したことがある	12.0%	12.3%	15.9%	11.5%	11.8%	0.0%
知っているが未利用	52.0%	73.0%	66.7%	77.9%	66.7%	66.7%
利用したい	4.0%	0.0%	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%
知らない	28.0%	14.8%	15.3%	8.7%	19.6%	33.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図Ⅵ-2-8　子ども食堂・学習支援・居場所事業の利用状況と子育て費用の負担感（中学 2 年生保護者）

≪若者が放課後・終業後・休日に過ごす場所≫

【16 歳から 39 歳／問 28 複数回答】
（特に当てはまるものを 3 つまで選ぶ設問である。）

○放課後・終業後・休日に過ごす場所は、16～39 歳の全世代で「自宅」の割合が最も高く、次いで「カフェ・商業施設」となっている。

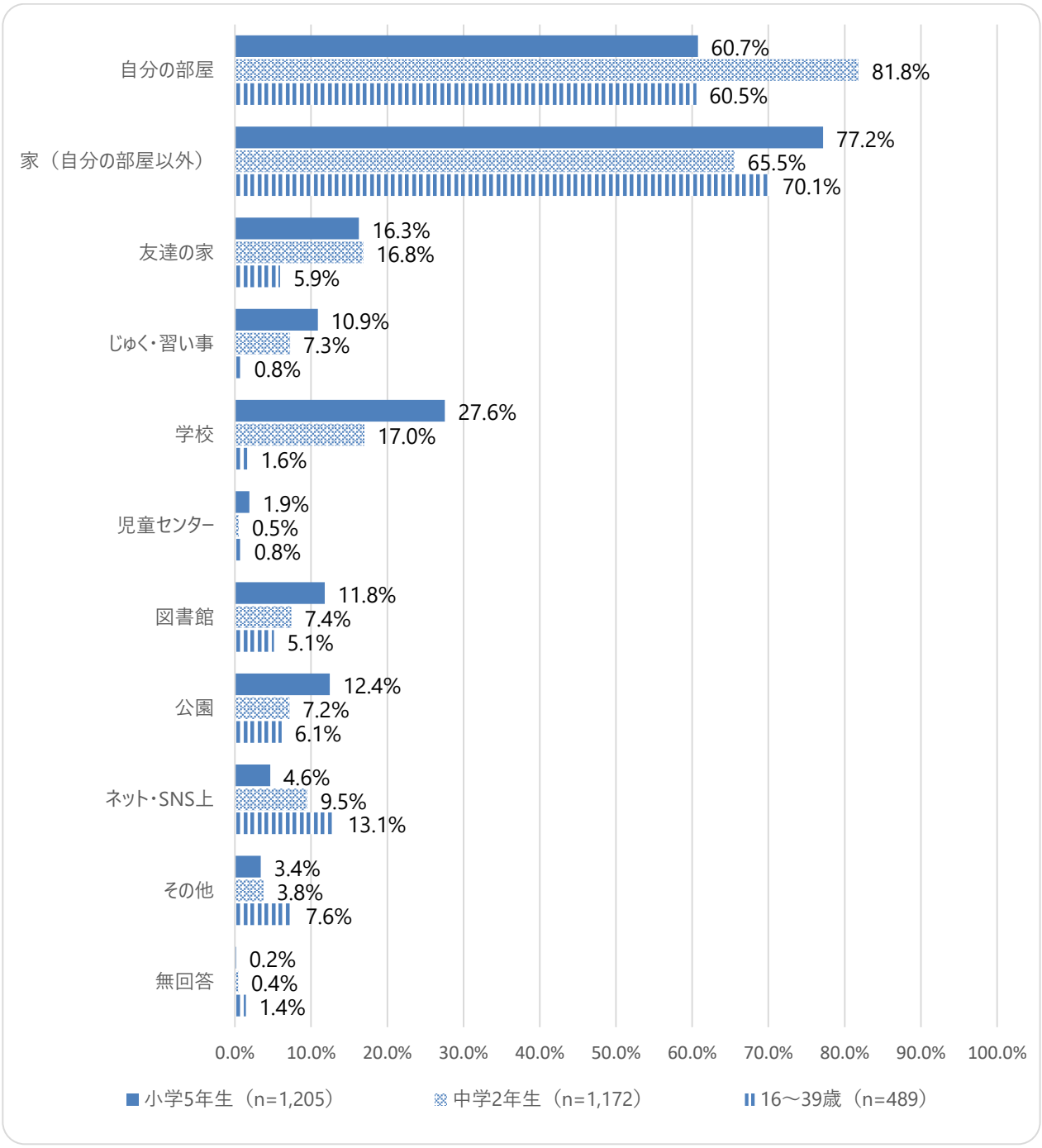


図Ⅵ-2-9　放課後・終業後・休日に過ごす場所

≪ホッとできる・安心できる場所≫

【小学 5 年生／問 32 複数回答、中学 2 年生／問 34 複数回答、こども・若者／問 30 複数回答】

○ホッとできる・安心できる場所は、全ての対象で、「自分の部屋」「家（自分の部屋以外）」が多くなっている。



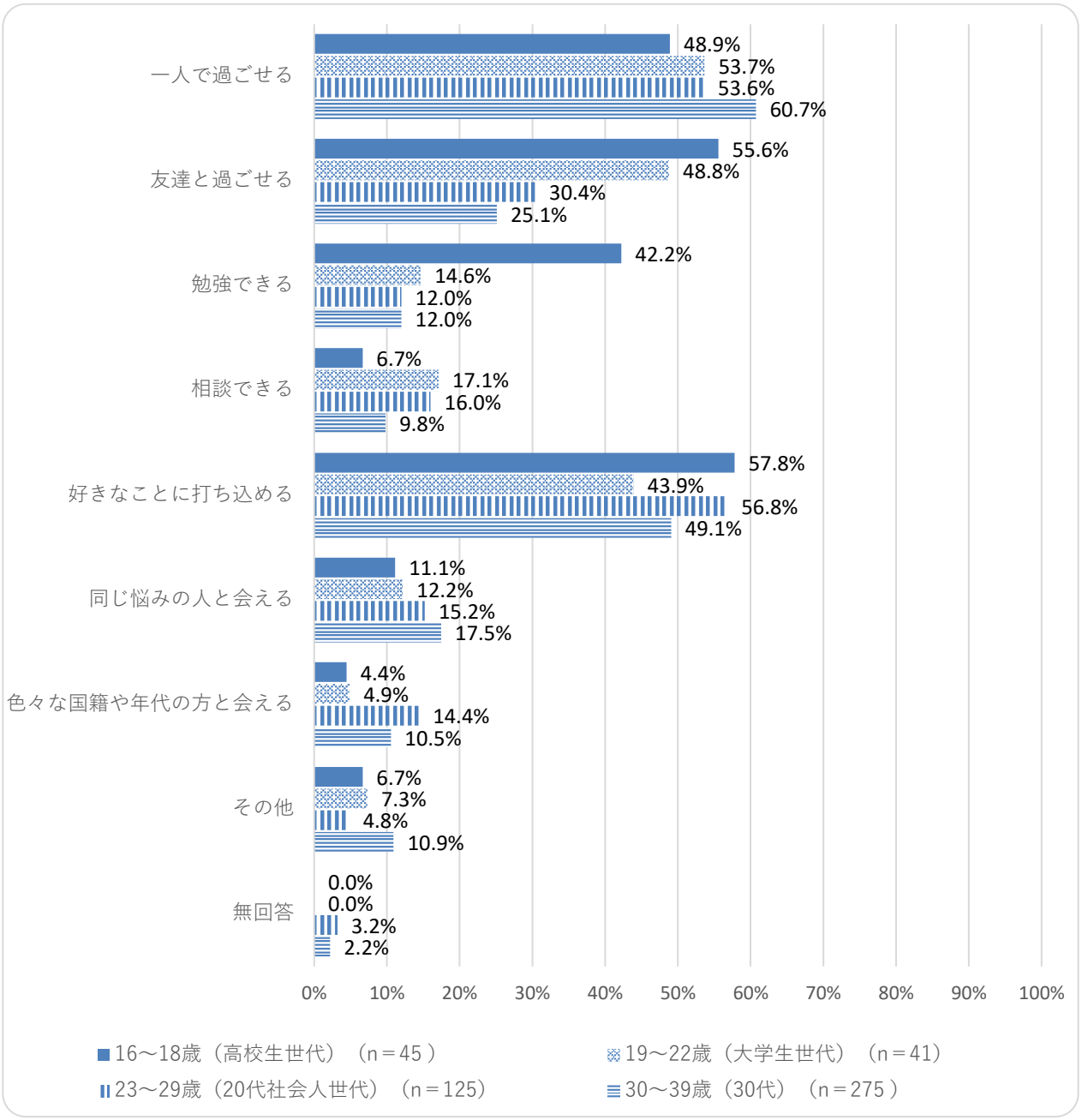
図VI-2-10　ホッとできる・安心できる場所

3 望まれている居場所

≪あったらよいと思う居場所≫

【16 歳から 39 歳／問 29 複数回答】
（特に当てはまるものを 3 つまで選ぶ設問である。）

○あったらよいと思う居場所は、すべての世代において「好きなことに打ち込める」「一人で過ごせる」場所が多く、16～18 歳は加えて「友達と過ごせる」「勉強できる」居場所が多くなっている。

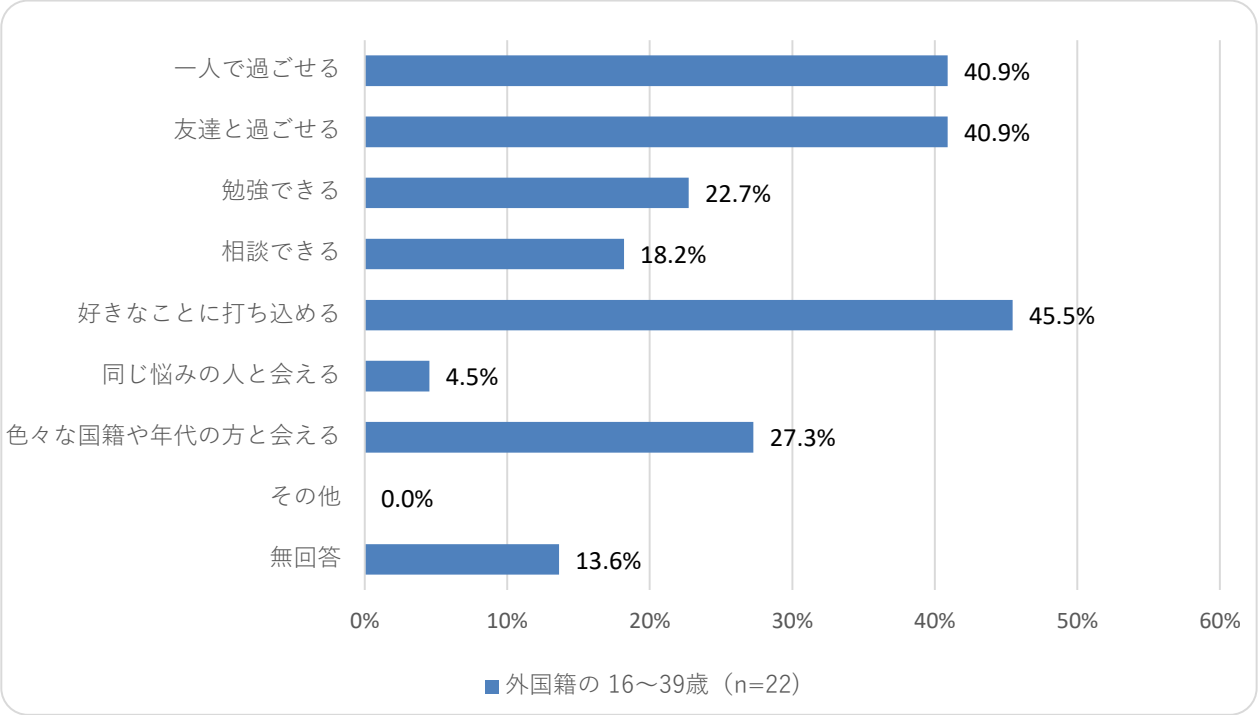


図VI-3　あったらよいと思う居場所

≪外国籍の若者が望む居場所≫

【16 歳から 39 歳／問 29 複数回答（問 4 で日本以外）】

○外国籍の若者が望む居場所は、「好きなことに打ち込める」が最も多く、次いで「一人で過ごせる」と「友達と過ごせる」が多くなっている。



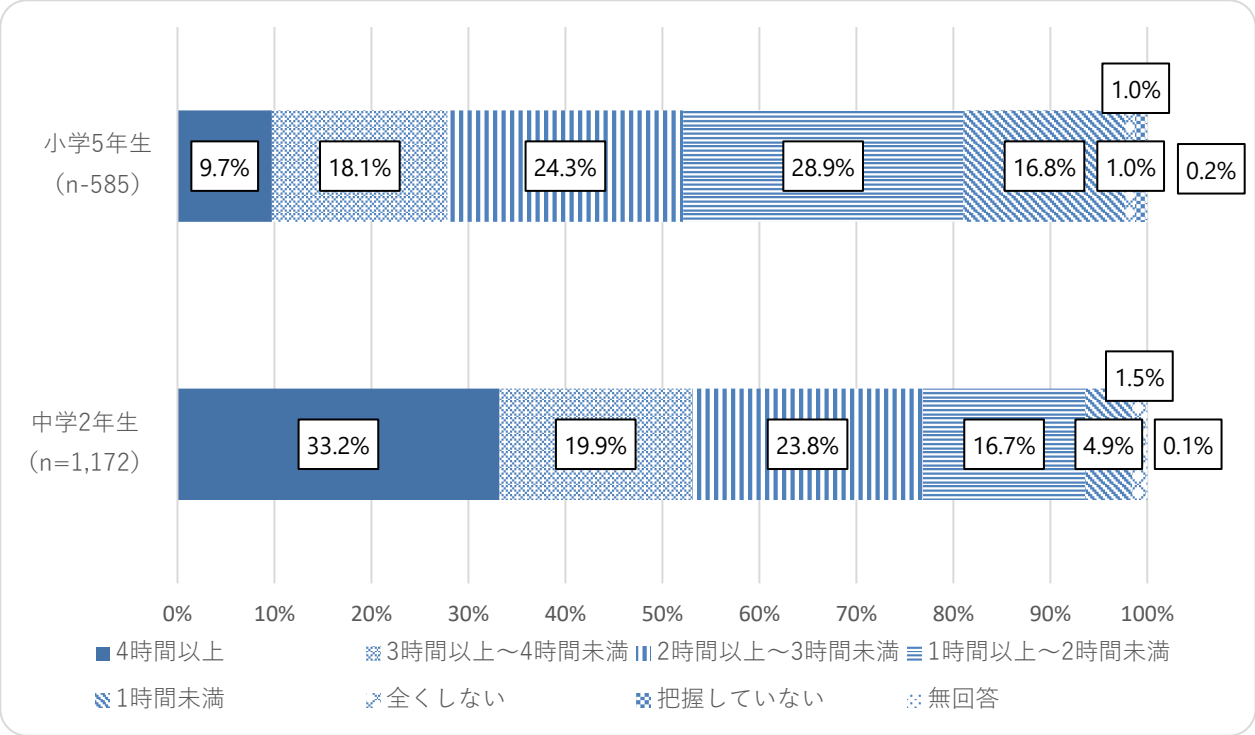
図Ⅵ-3-2　外国籍の若者が望む居場所

Ⅶ SNS のこと

1 平日のスマートフォン・タブレット・ゲームの使用時間

【小学 5 年生保護者／問 29 単数回答、中学 2 年生／問 35 単数回答】
（小学 5 年生については、保護者アンケートの回答結果から集計した内容である）

○小学 5 年生は、「1 時間以上～2 時間未満」が 28.9％と最も多く、中学 2 年生は「4 時間以上」が 33.2％と最も多くなっている。



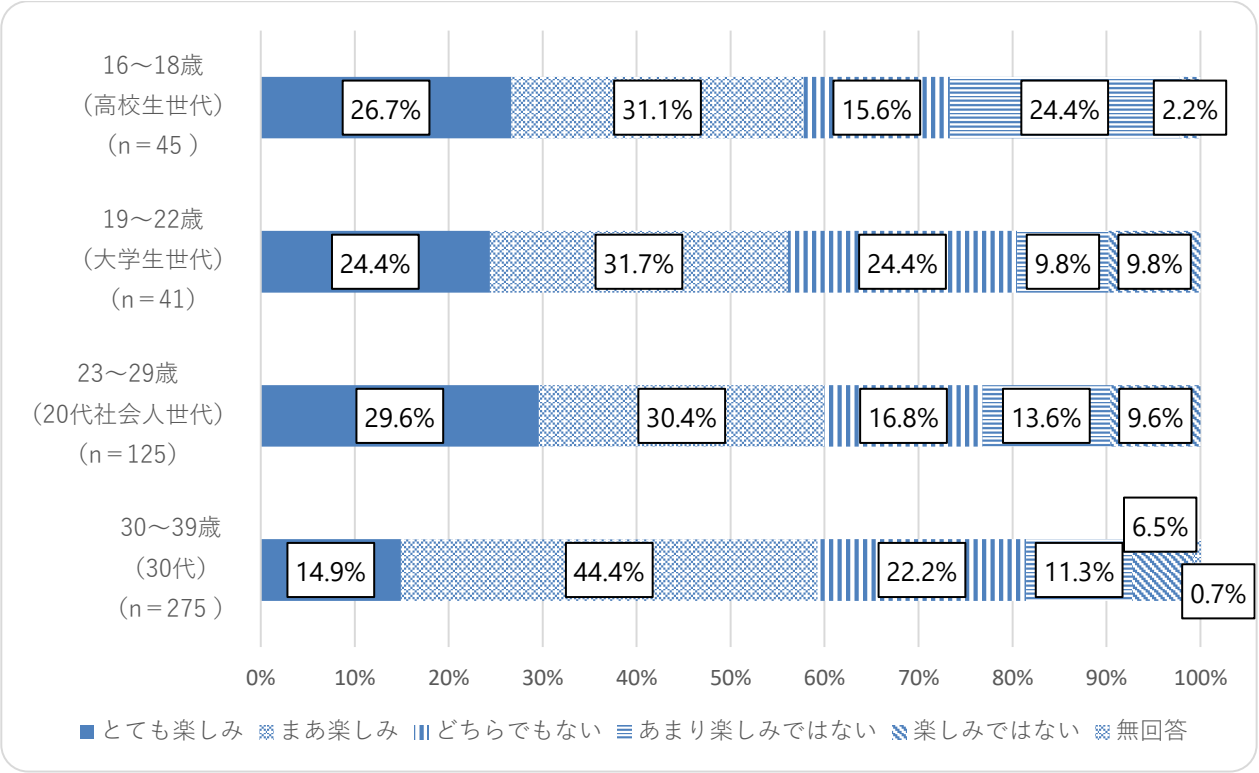
図Ⅶ-1　平日のスマートフォン・タブレット・ゲームの使用時間

Ⅷ 将来のこと

1 将来が楽しみか

【16 歳から 39 歳／問 24 単数回答】

○将来の期待感は、「とても楽しみ」「まあ楽しみ」を合わせると、すべての年代で、約 50%が「楽しみ」と回答している。



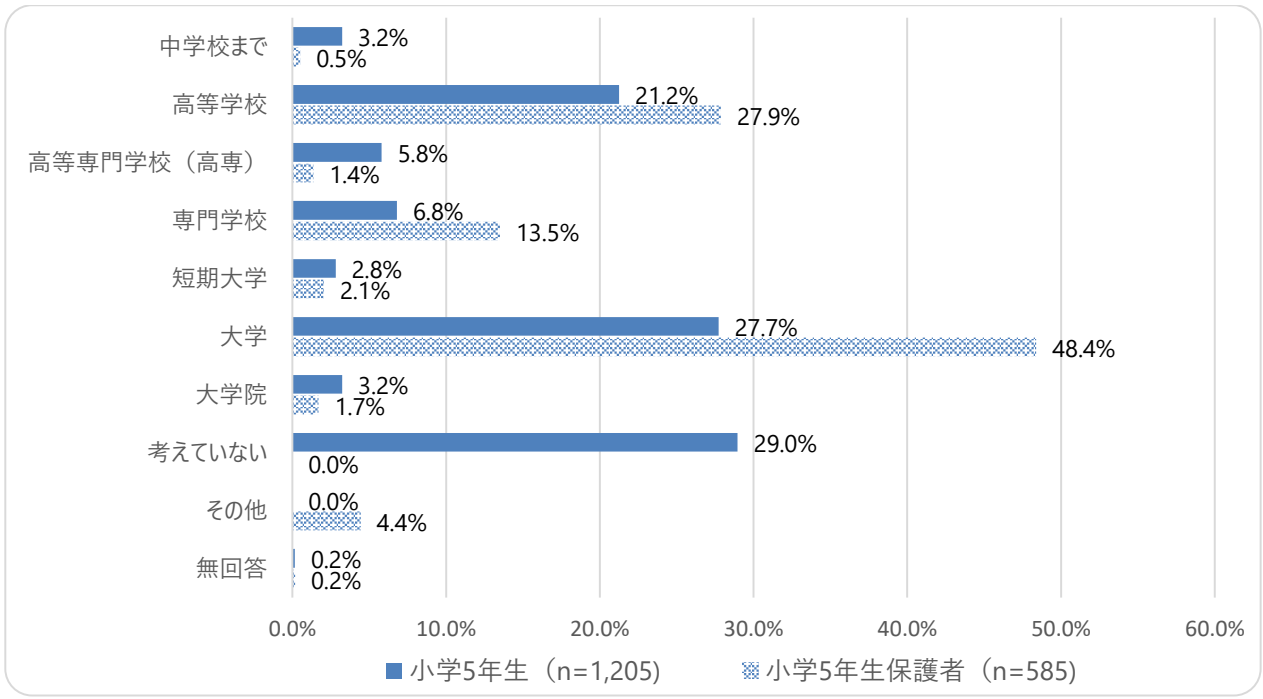
図Ⅷ-1　将来が楽しみか

2 進路・進学

≪希望する進学段階≫

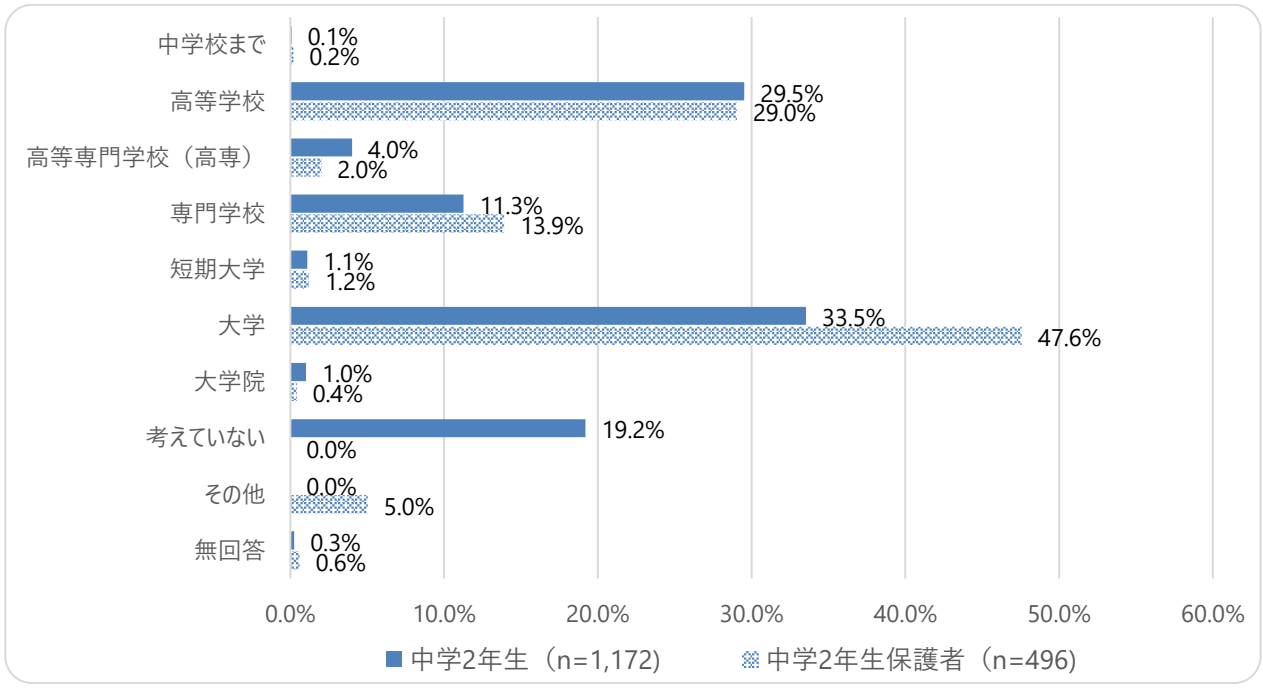
【小学 5 年生／問 33 単数回答、小学 5 年生保護者／問 32 単数回答、中学 2 年生／問 38 単数回答、中学 2 年生保護者／問 31 単数回答】

○希望する進学段階は、小学 5 年生は「考えていない」「大学」「高等学校」の順で多く、保護者は「大学」「高等学校」「専門学校」の順で多くなっている。



図Ⅷ-2　希望する進学段階　小学 5 年生・小学 5 年生保護者

○中学 2 年生は「大学」「高等学校」「考えていない」の順で多く、保護者は「大学」「高等学校」「専門学校」の順で多くなっている。

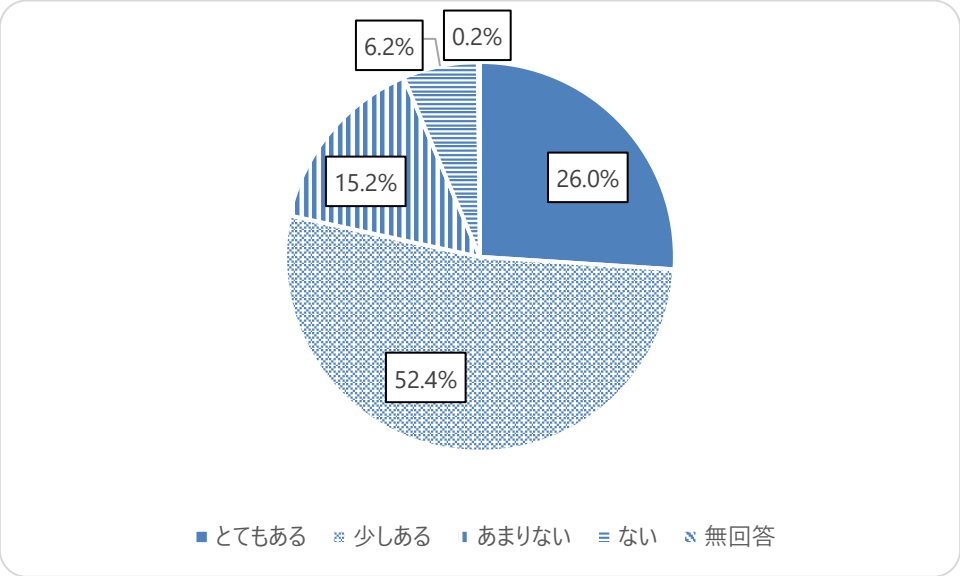


図Ⅷ-2-2　希望する進学段階　中学 2 年生・中学 2 年生保護者

≪進路についての不安≫

【中学 2 年生／問 36 単数回答】

○進路についての不安は、「とてもある」「少しある」を合わせると 78.4%となり、中学 2 年生では約 8 割が不安を抱えている。

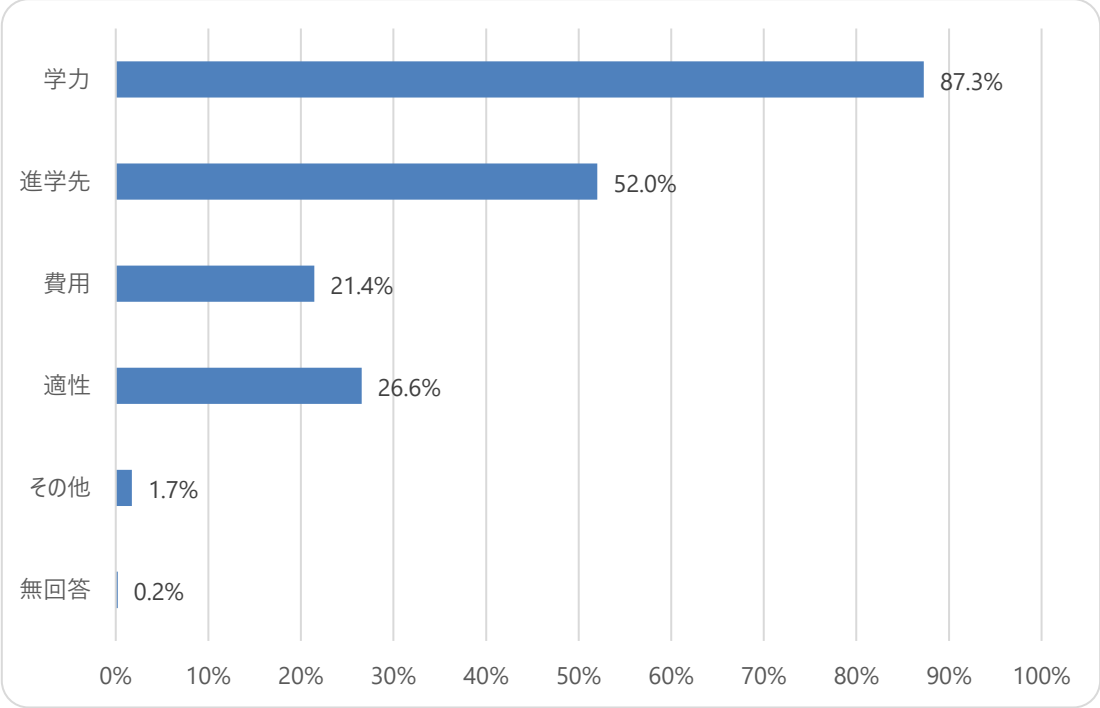


図Ⅷ-2-3　進路についての不安

≪進路についての不安な内容≫

【中学 2 年生／問 37 複数回答（問 36 で不安あり）】

○進路についての不安な内容は、「学力」が 87.3%と最も多く、次いで「進学先」となっている。



中学 2 年生（n=919）

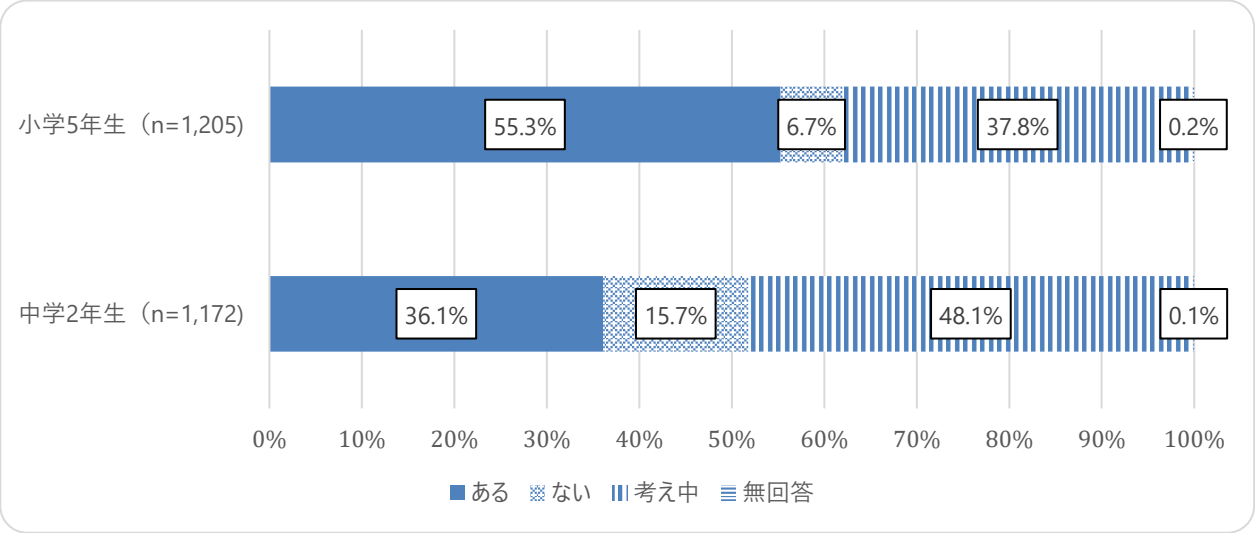
図Ⅷ-2-4　進路について不安な内容

3 就労・職業観

≪やってみたい・なりたい仕事の有無≫

【小学 5 年生／問 34 単数回答、中学 2 年生／問 39 単数回答】

○やってみたい・なりたい仕事については、小学 5 年生では「ある」が最も多く、中学 2 年生では「考え中」が最も多くなっている。



図Ⅷ-3　やってみたい・なりたい仕事の有無

≪やってみたい・なりたい仕事の具体的内容≫

【小学 5 年生／問 35 自由記述、中学 2 年生／問 35 自由記述】　各対象者の自由記述内容を職業分類※2に基づき集計。

○具体的な仕事内容は、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれも、「教師」「YouTuber」「看護師」「保育士」といった専門的・技術的職業や、「美容師」「パティシエ」「パン屋」といったサービス業が多くなっている。

頻出順位	小学 5 年生	回答数	中学 2 年生	回答数
1	教師	50	教師	28
2	YouTuber	31	看護師	27
3	看護師	30	美容師	24
4	美容師	24	保育士	19
5	保育士	22	イラストレーター	14
6	パティシエ	21	警察官	12
7	サッカー選手	19	パティシエ	11
8	イラストレーター	17	サッカー選手	10
9	プロ野球選手	17	プロ野球選手	9
10	警察官	17	料理	9

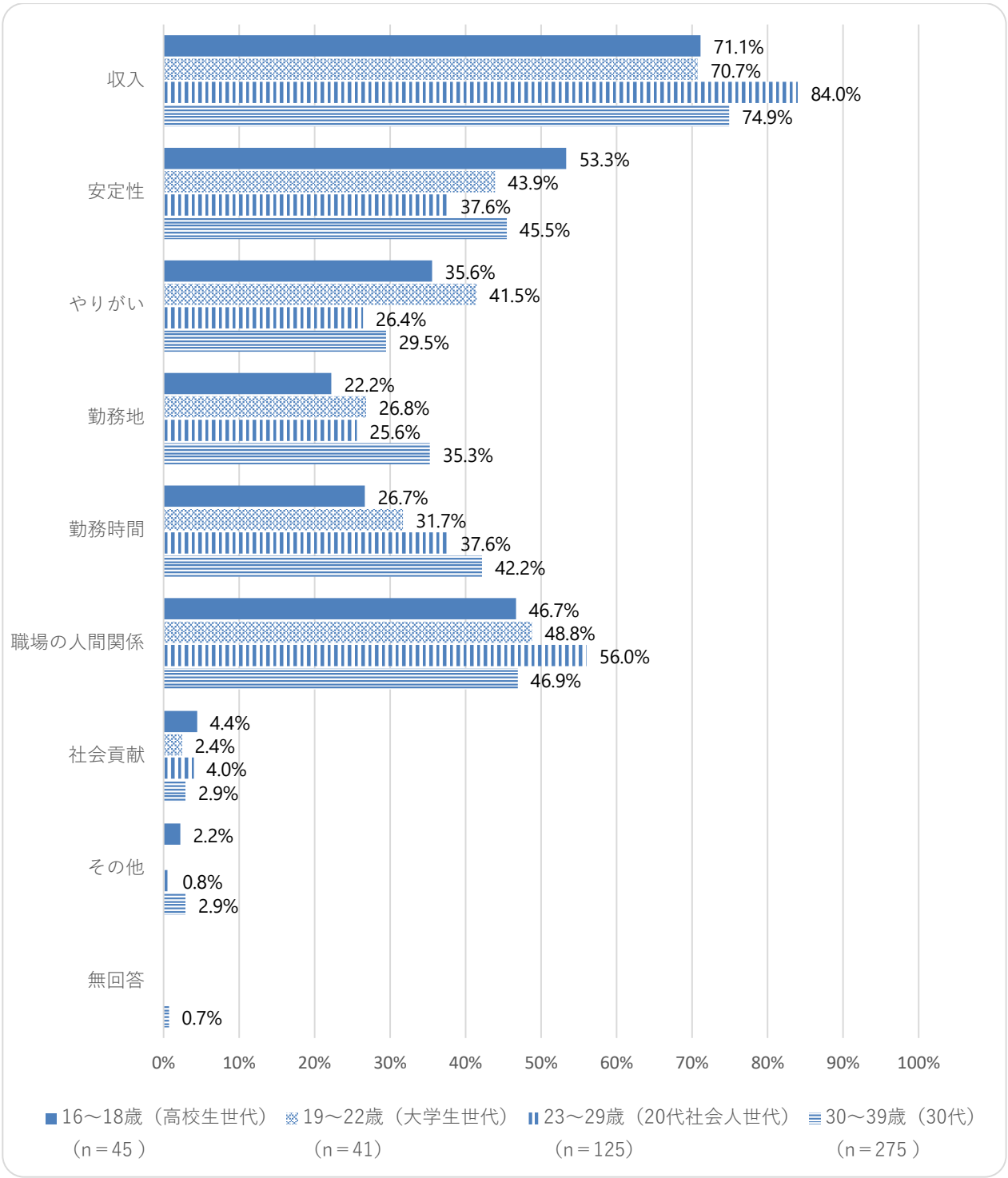
図Ⅷ-3-2　やってみたい・なりたい仕事（上位 10 件）

※2：総務省. 日本標準職業分類（平成 21 年 12 月告示）. 一般原則
（総務省｜統計基準等｜一般原則）

≪将来の仕事を選ぶ際に重視する点≫

【16 歳から 39 歳／問 25 複数回答】

○将来の仕事を選ぶ際に重視する点は、全ての年代で「収入」が最も多く、次いで 16～18 歳では「安定性」、19 歳以上では「職場の人間関係」の割合が高くなっている。

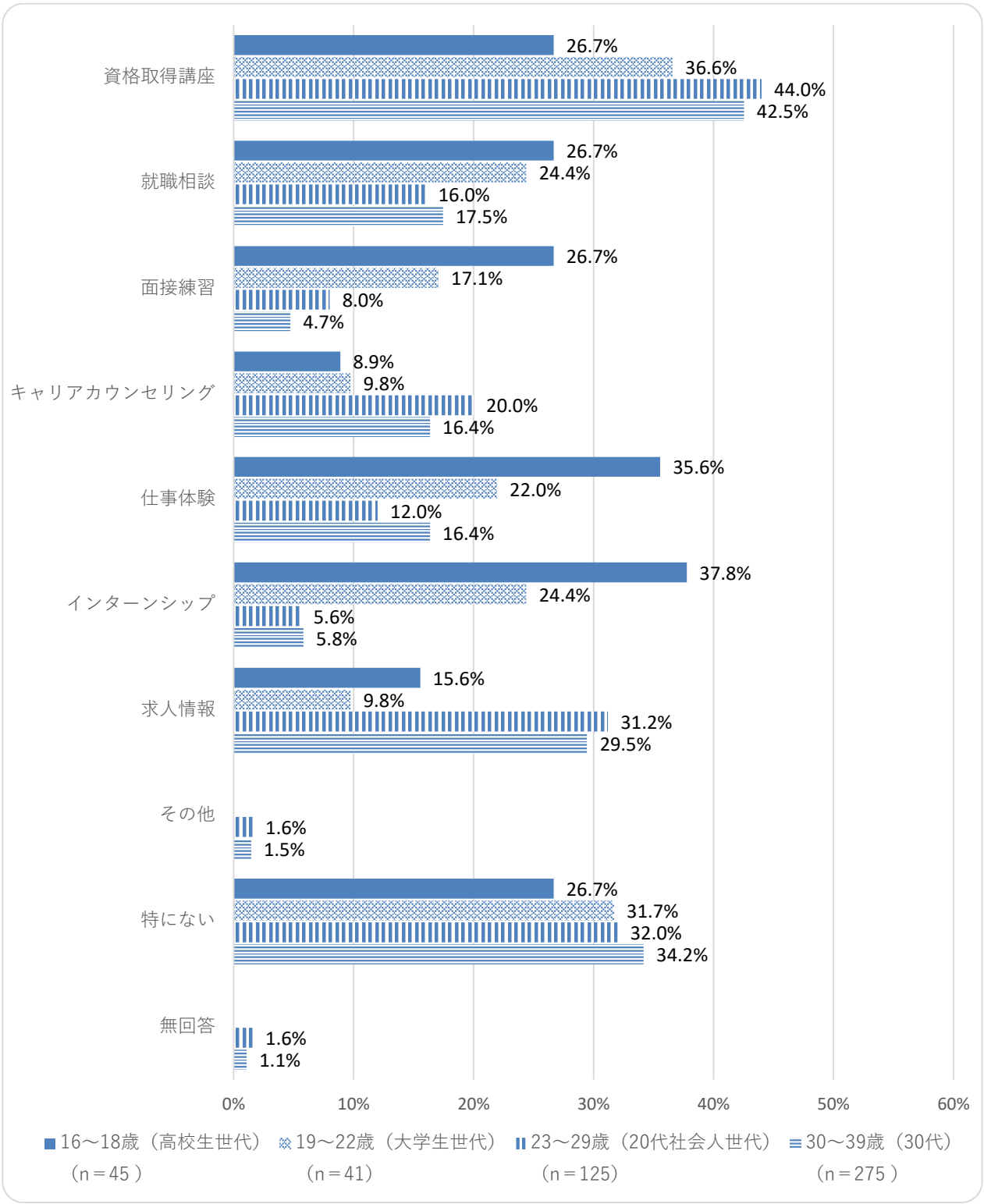


図Ⅷ-3-3　将来の仕事を選ぶ際に重視する点

≪就労に関して利用してみたい支援≫

【16 歳から 39 歳／問 26 複数回答】

○就労に関して利用してみたい支援は、16～18 歳では「インターンシップ」「仕事体験」の順で多く、19 歳以上では「資格取得講座」が最も多くなっている。



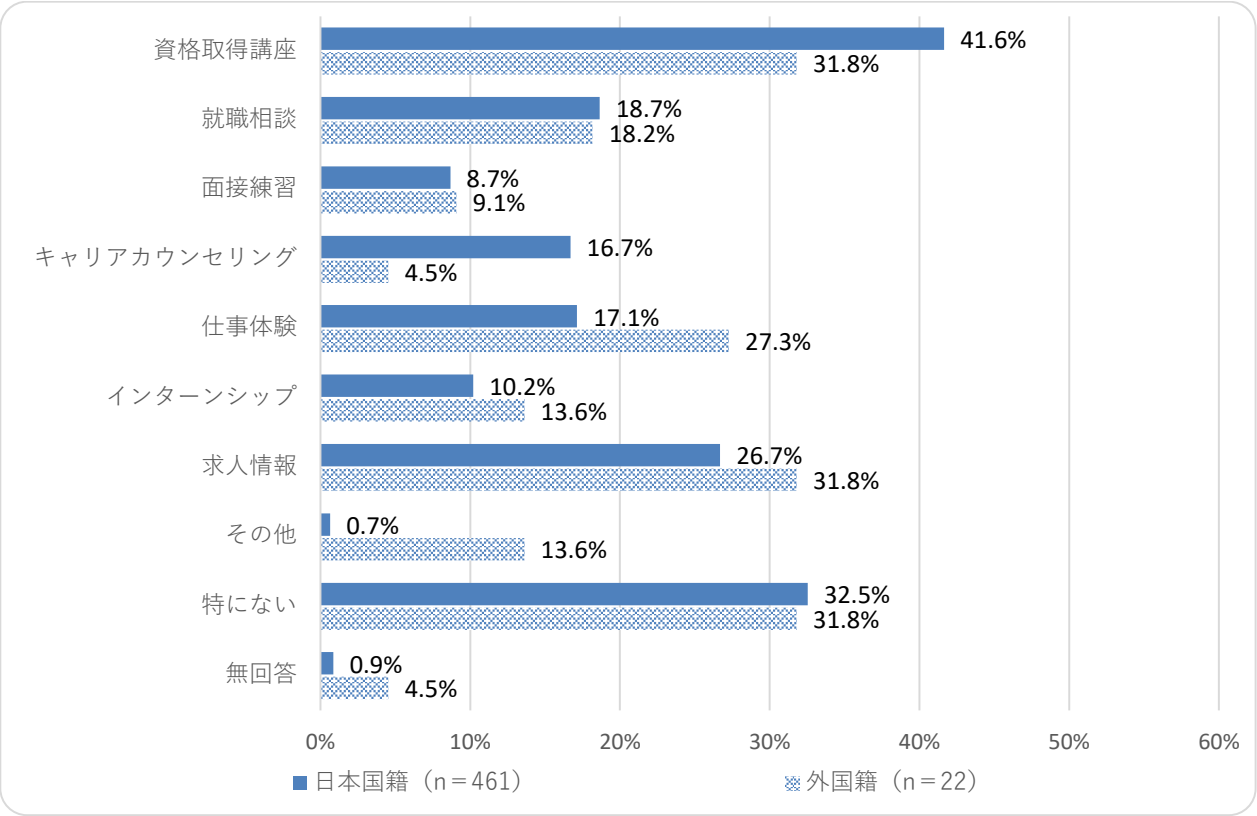
図Ⅷ-3-4　就労に関して利用してみたい支援

≪日本国籍と外国籍の若者が利用したい就労支援≫

【16 歳から 39 歳／問 26 複数回答（問 4 で日本以外）】

○若者が利用したい就労支援として、日本国籍の若者は「資格取得講座」「求人情報」「就職相談」の順で多くなっている。

○外国籍の若者は「資格取得講座」「求人情報」「仕事体験」の順で多くなっている。その他の内容は「日本語学習」に関する内容であった。

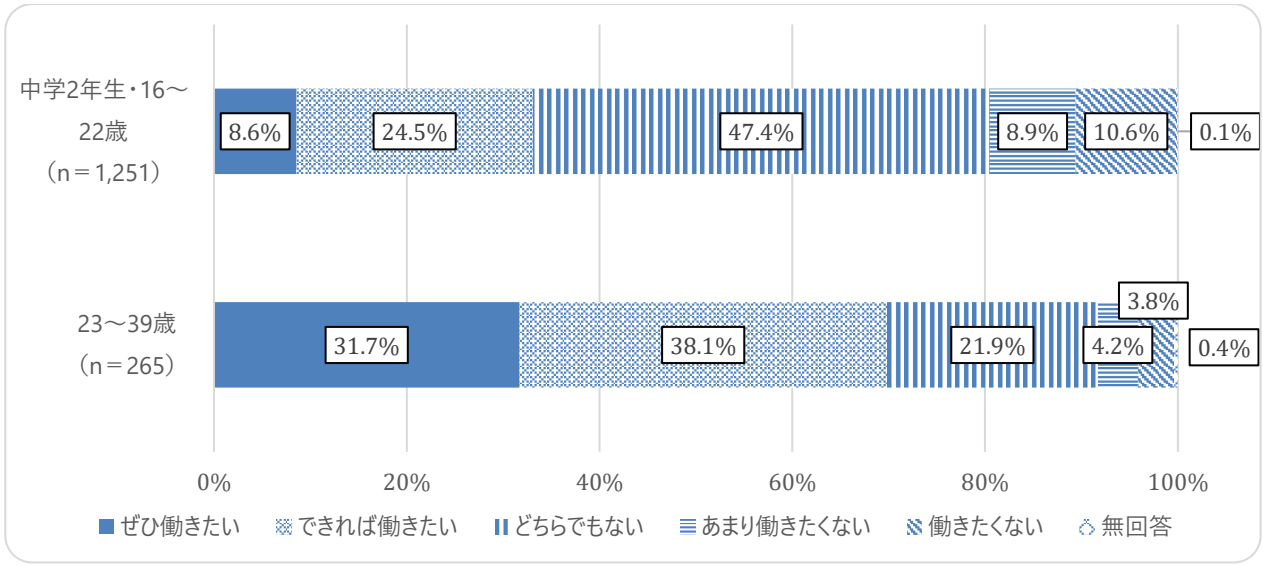


図Ⅷ-3-5　日本国籍と外国籍の若者が利用したい就労支援

≪苫小牧市内で働きたいか≫

【中学 2 年生／問 41 単数回答、16 歳から 39 歳／問 27 単数回答】

○既就業者を除いた苫小牧市内での就職希望については、「ぜひ働きたい」「できれば働きたい」を合わせると、中学 2 年生と 16 歳～22 歳は 33.1％、23 歳～39 歳が 69.8％となっている。



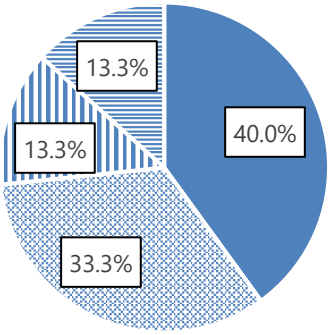
図Ⅷ-3-6　苫小牧市内で働きたいか　中学 2 年生～22 歳　23～39 歳（既就業者除く）

4 結婚に対する考え方

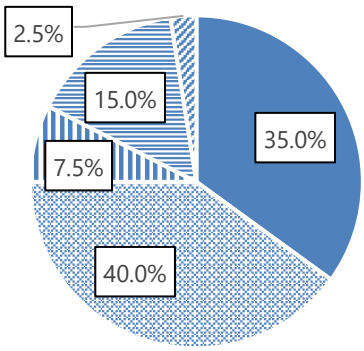
≪将来の結婚意向≫

【16 歳から 39 歳／問 35 単数回答】
（分析の主旨により「既に結婚している」という回答を除いた結果を表示している）

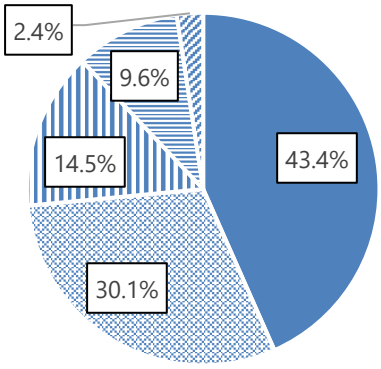
○将来の結婚意向については、20 代までは「結婚したい」「どちらかといえば結婚したい」が約 7 割を占めているが、30 代では約 5 割に減少している。



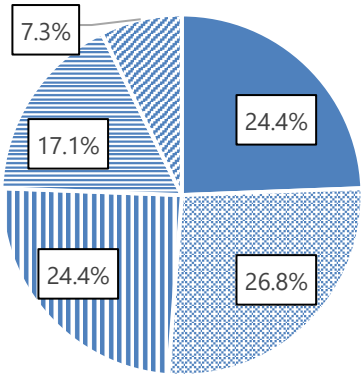
図Ⅷ-4　将来の結婚意向（既婚者を除く）
16～18 歳（高校生世代）（n＝45 ）



図Ⅷ-4-2　将来の結婚意向（既婚者を除く）
19～22 歳（大学生世代）（n＝40）



図Ⅷ-4-3　将来の結婚意向（既婚者を除く）
23～29 歳（20 代社会人世代）（n＝83）



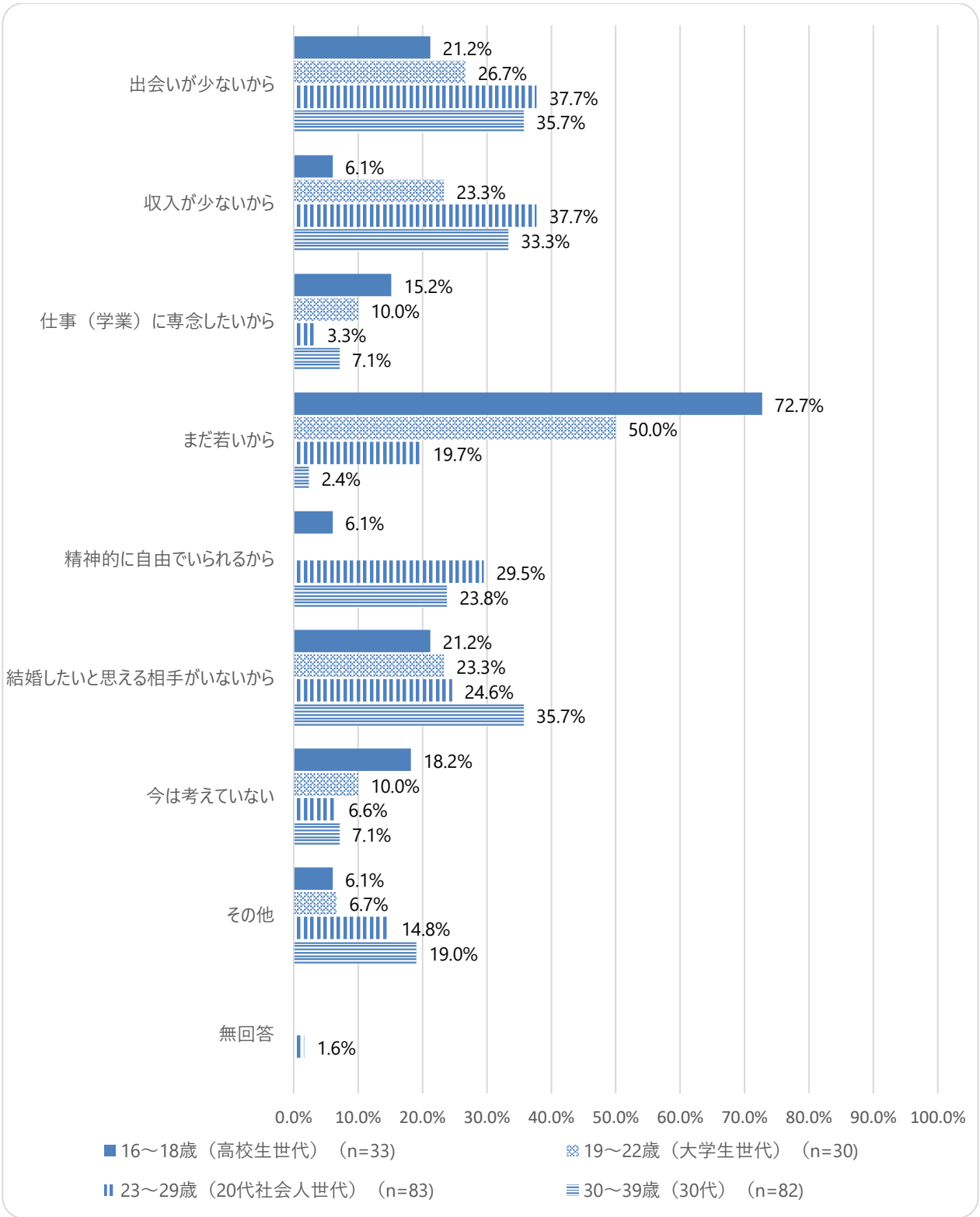
図Ⅷ-4-4　将来の結婚意向（既婚者を除く）

■結婚したい　▒どちらかといえば結婚したい　▥どちらかといえば結婚したくない　▤結婚したくない　▨無回答

≪結婚に至っていない理由≫

【16 歳から 39 歳／問 36 複数回答（問 35 で結婚意向あり）】

○結婚に至っていない理由は、16～22 歳においては「まだ若いから」が最も多く、23～29 歳では「収入が少ない」と「出会いが少ないから」、30～39 歳では「出会いが少ないから」と「結婚したいと思える相手がいないから」が多くなっている。

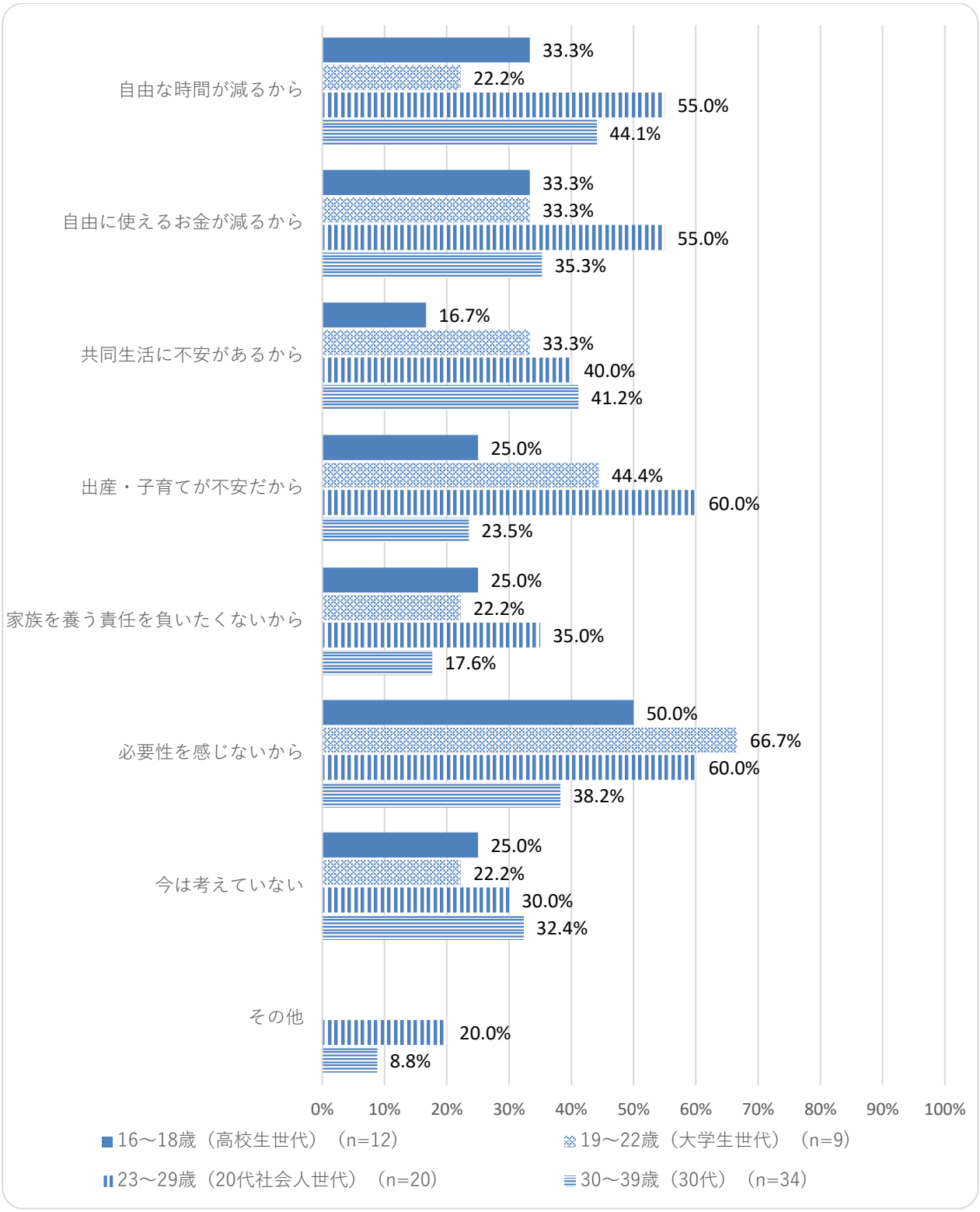


図Ⅷ-4-5　結婚に至っていない理由

≪結婚したくない理由≫

【16 歳から 39 歳／問 37 複数回答（問 35 で結婚意向なし）】

○16～22 歳は「必要性を感じない」が最も多く、23～29 歳では「出産・子育ての不安」「必要性を感じない」が多く、30 代では「自由な時間が減る」「共同生活への不安」「必要性を感じない」の順で多くなっている。



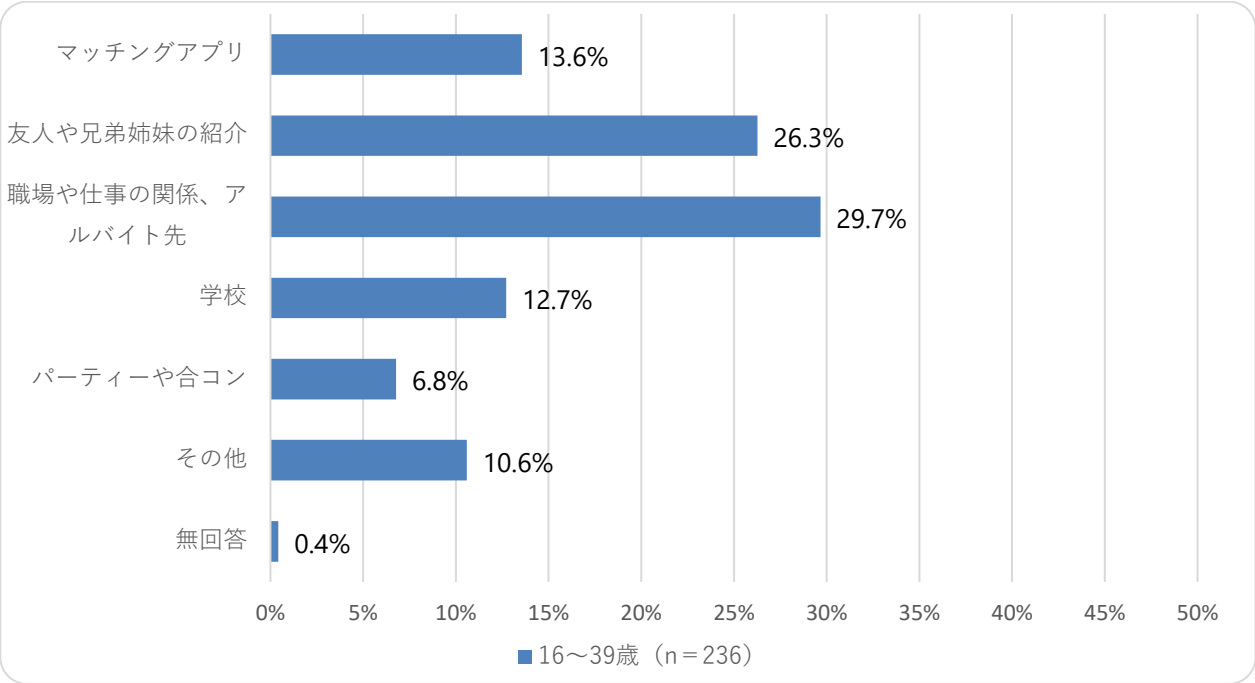
図Ⅷ-4-6　結婚したくない理由

≪既婚者の出会いのきっかけ≫

【16 歳から 39 歳／問 38 単数回答（既婚者）】

○16～39 歳のうち既婚者の出会いのきっかけは、「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も多く、次いで「友人や兄弟の紹介」が多くなっている。

○その他の内容は、「SNS・オンラインゲーム」「趣味の仲間」や「友人の結婚式」などの回答があった。



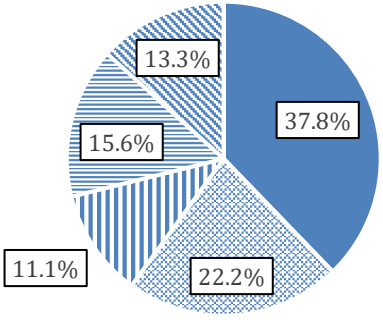
図Ⅷ-4-7　既婚者の出会いのきっかけ

5 子育てに対する考え方

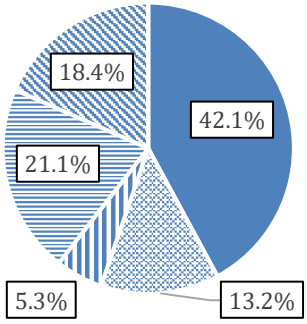
≪将来のこどもを持つ意向≫

【16 歳から 39 歳／問 39 単数回答】

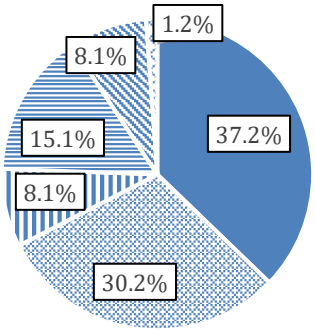
○「既に子どもがいる」方を除き、「持ちたい」「どちらかといえば持ちたい」を合わせると、16～18 歳は 60.0%、19～22 歳は 55.3%、23～29 歳は 67.4%、30～39 歳は 51.4%となっているが、30～39 歳では「どちらかと言えば持ちたくない」と「持ちたくない」の合計が 30.9%と他の年代よりも多くなっている。



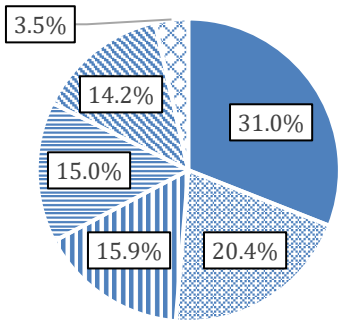
図Ⅷ-5-2　将来のこどもを持つ意向（こどもがいる対象者を除く）
16～18 歳（高校生世代）（n=45）



図Ⅷ-5-3　将来のこどもを持つ意向（こどもがいる対象者を除く）
19～22 歳（大学生世代）（n=38）



図Ⅷ-5-4　将来のこどもを持つ意向（こどもがいる対象者を除く）
23～29 歳（20 代社会人世代）（n=86）



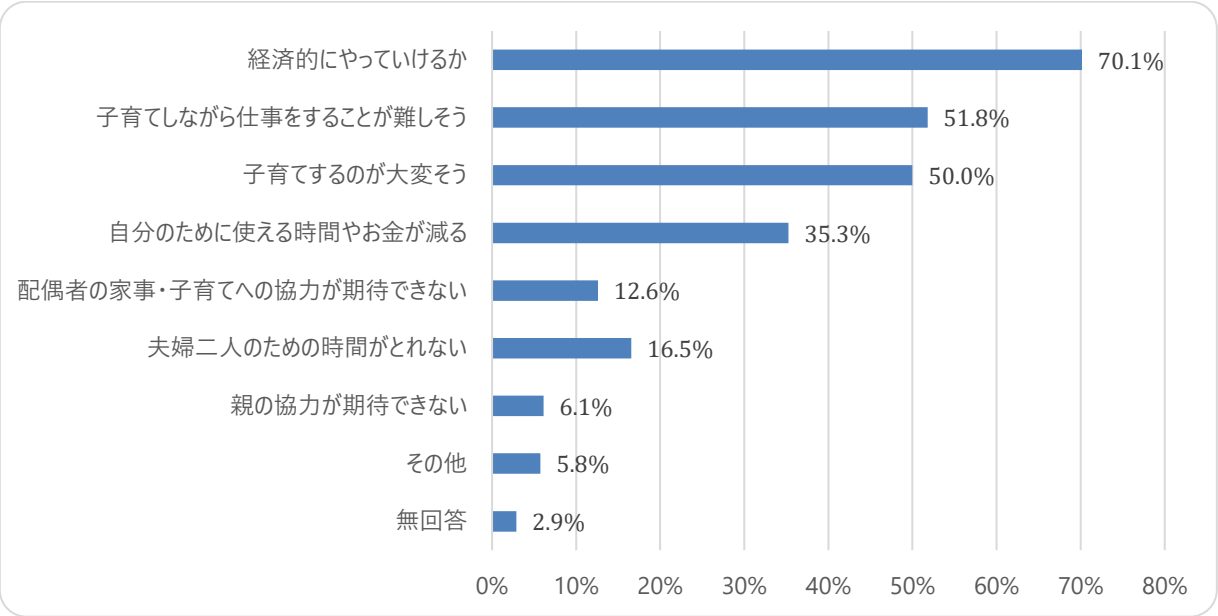
図Ⅷ-5-5　将来のこどもを持つ意向（こどもがいる対象者を除く）
30～39 歳（30 代）（n=113）

■ 持ちたい　▒ どちらかといえば持ちたい　▥ どちらかといえば持ちたくない
▤ 持ちたくない　▨ 考えたことがない　▩ 無回答

≪将来子育てをする上で不安なこと≫

【16 歳から 39 歳／問 40 複数回答】

○将来子育てをする上で不安なことは、「経済的にやっていけるか」が最も多く、次いで「子育てしながら仕事をすることが難しそう」「子育てするのが大変そう」が多くなっている。



16 歳～39 歳（n=278）

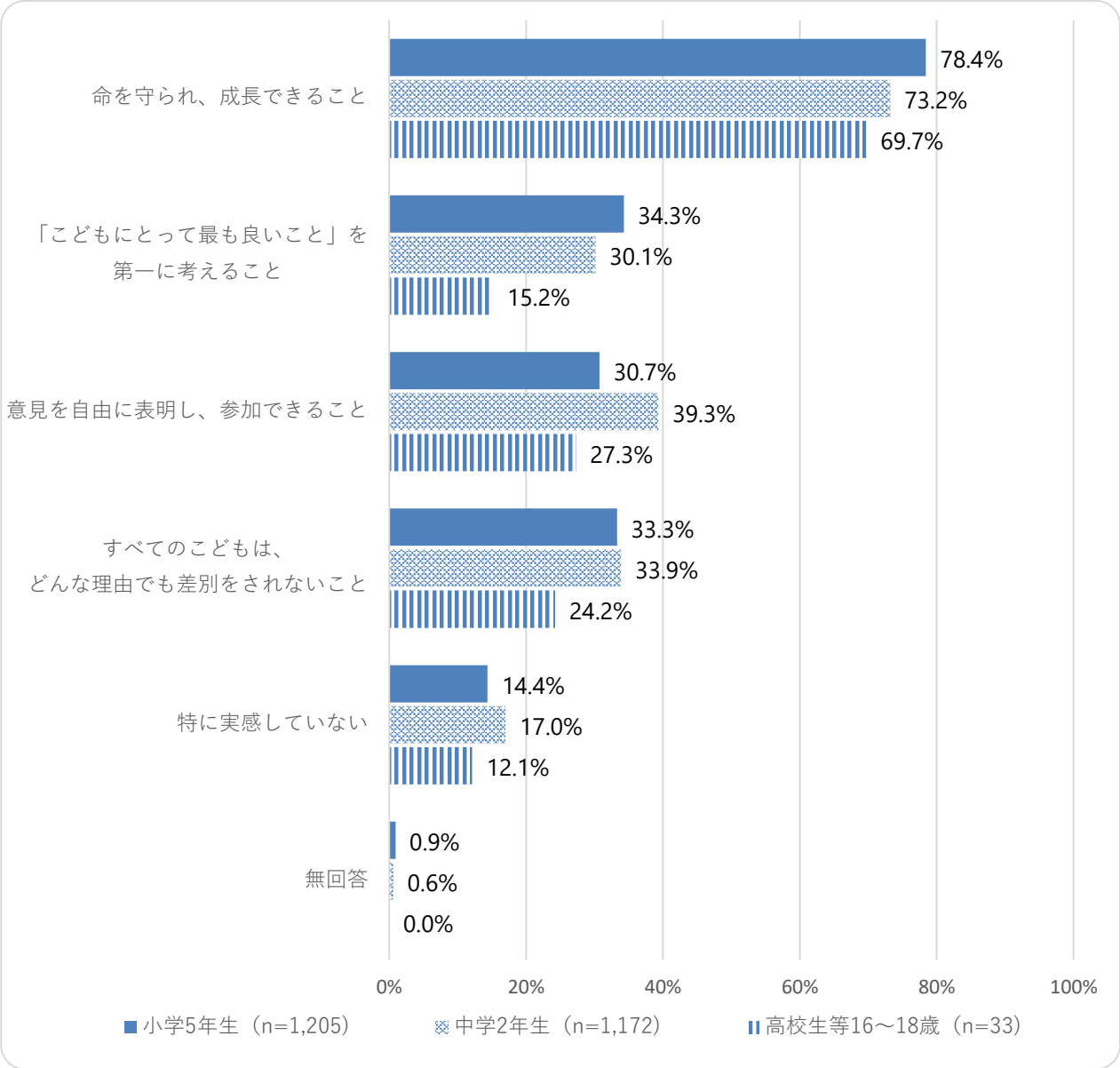
図Ⅷ-5-6　将来子育てをする上で不安なこと

IX こどもの権利のこと

1 こどもの権利の実感

【小学 5 年生／問 38 複数回答、中学 2 年生／問 44 複数回答、16～18 歳の学生／問 45 複数回答】
※16 歳から 39 歳調査は、「学生（高校生等の 16～18 歳）」と回答した人を集計対象としています。

○こどもの権利の実感については、「命を守られ、成長できること」は全対象で多くなっているが、その他の項目に関する実感は約 3～4 割と低い傾向にある。

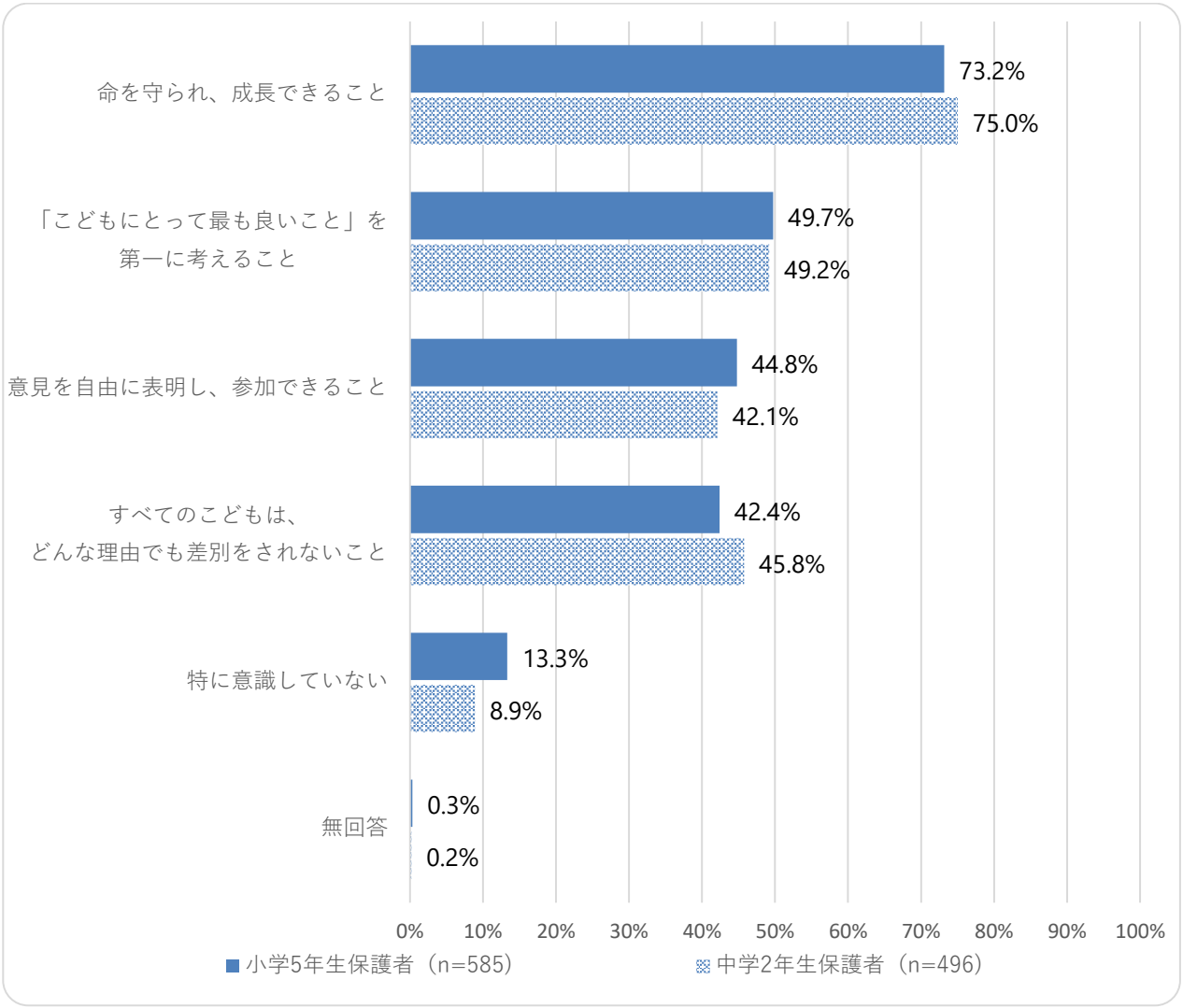


図IX-1　こどもの権利の実感

2 保護者が意識していることもの権利

【小学 5 年生保護者／問 30 複数回答、中学 2 年生保護者／問 29 複数回答】

○保護者が意識していることもの権利は、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者ともに、「命を守られ、成長できること」が最も多いが、その他の項目は約 4～5 割と低い傾向にある。

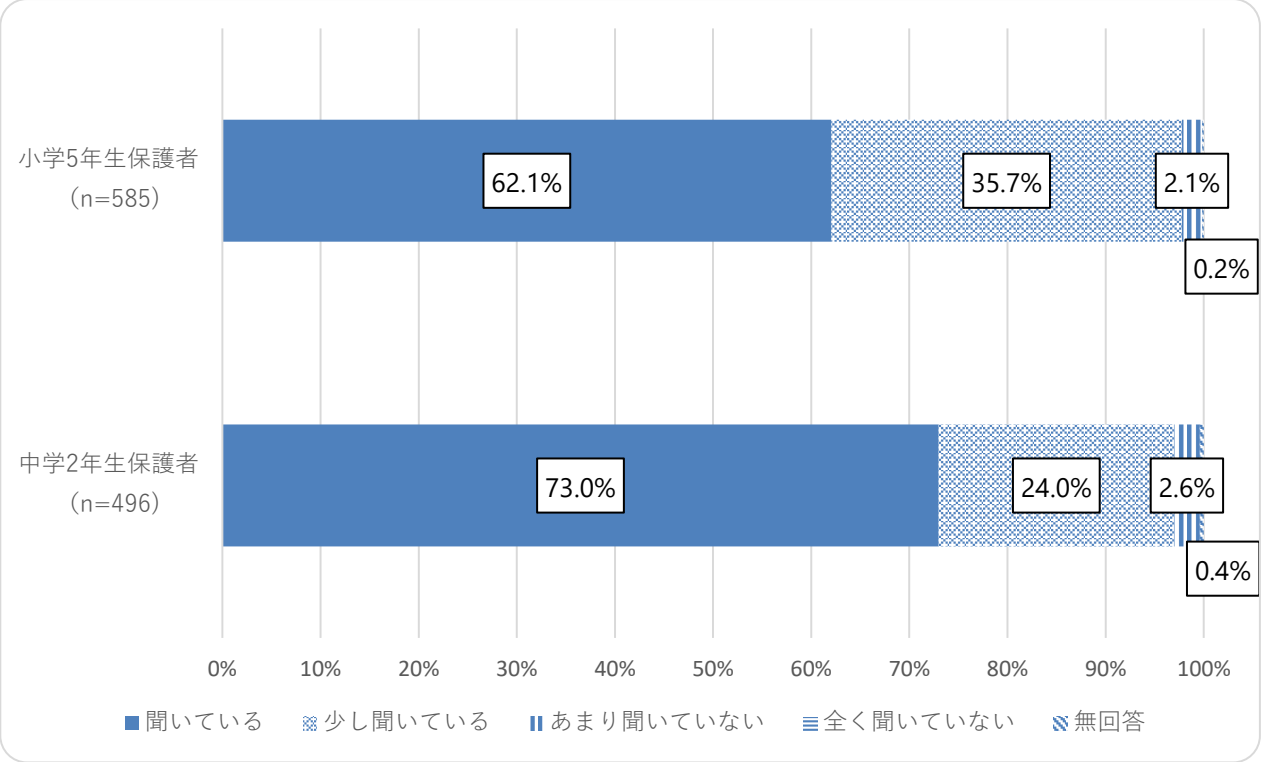


図IX-2　保護者が意識していることもの権利

3 家庭内でのこどもの意見尊重

【小学 5 年生保護者／問 31 単数回答、中学 2 年生保護者／問 30 単数回答】

○家庭内でこどもの意見を「聞いている」と回答した割合は、小学 5 年生保護者が 62.1%、中学 2 年生保護者は 73.0%となっている。



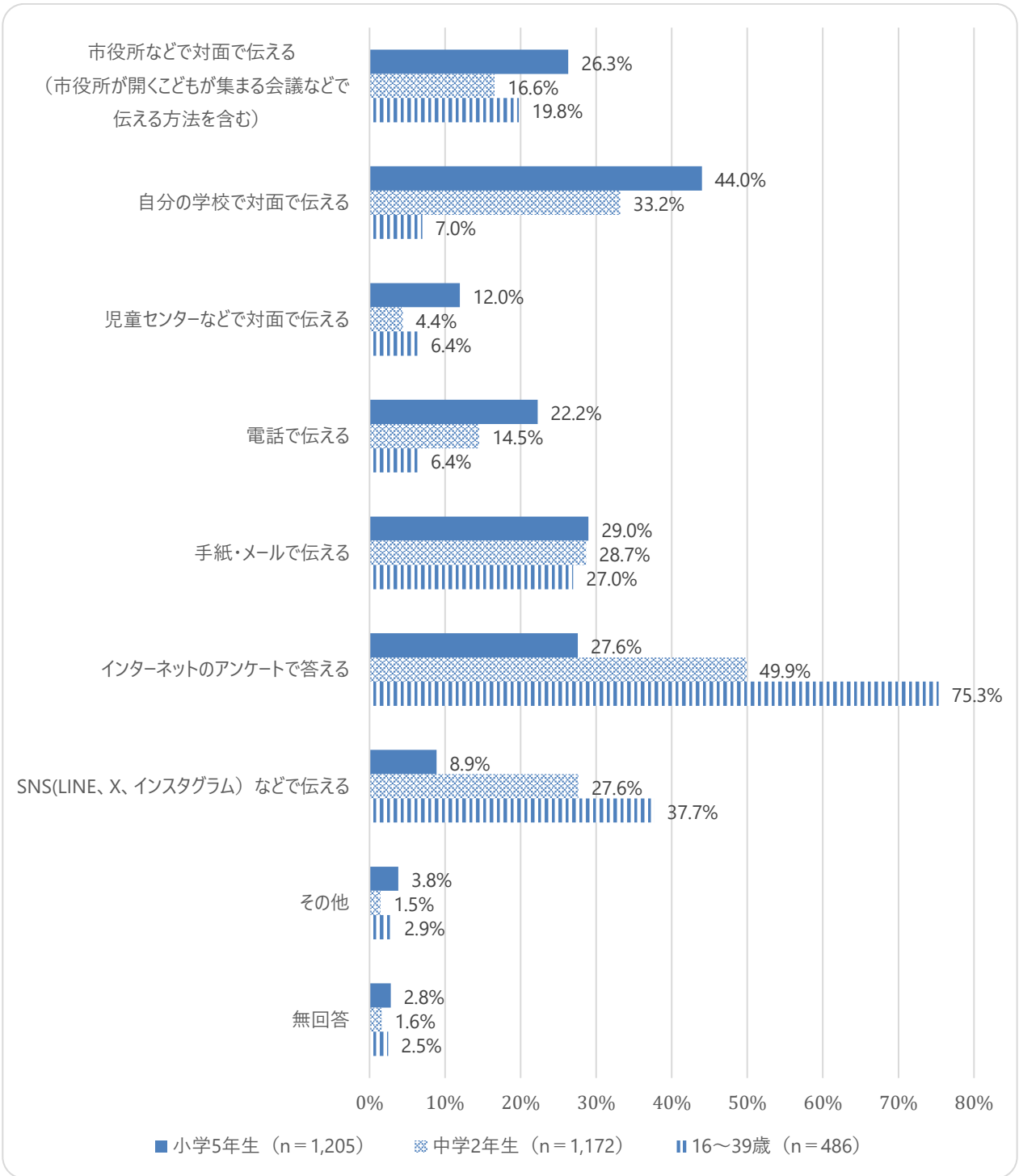
図IX-3　家庭内でこどもの意見を聞き、尊重しているか

4 苫小牧市に意見を伝えやすい方法

【小学 5 年生／問 39 複数回答、中学 2 年生／問 45 複数回答、16 歳から 39 歳／問 46 複数回答】
（割合は各設問の集計対象者数を分母として算出しています。特に当てはまるものを 3 つまで選ぶ設問です。）

○苫小牧市に意見を伝えやすい方法については、小学 5 年生では「自分の学校で対面で伝える」が最も多く、中学 2 年生および 16～39 歳では「インターネットのアンケートで答える」が最も多くなっている。

○年齢が上がるほど、非対面での方法を選択する傾向がある。



図Ⅸ-4　苫小牧市に意見を伝えやすい方法

X 苫小牧市のこと

1 市への思い

≪苫小牧市のまちが好きか≫

【小学 5 年生／問 36 単数回答、中学 2 年生／問 42 単数回答、16 歳から 39 歳／問 41 単数回答】

○苫小牧市への愛着については、「とても好き」「まあ好き」を合わせると、小学 5 年生では 91.6%となっており、他の世代においては約 7 割となっている。

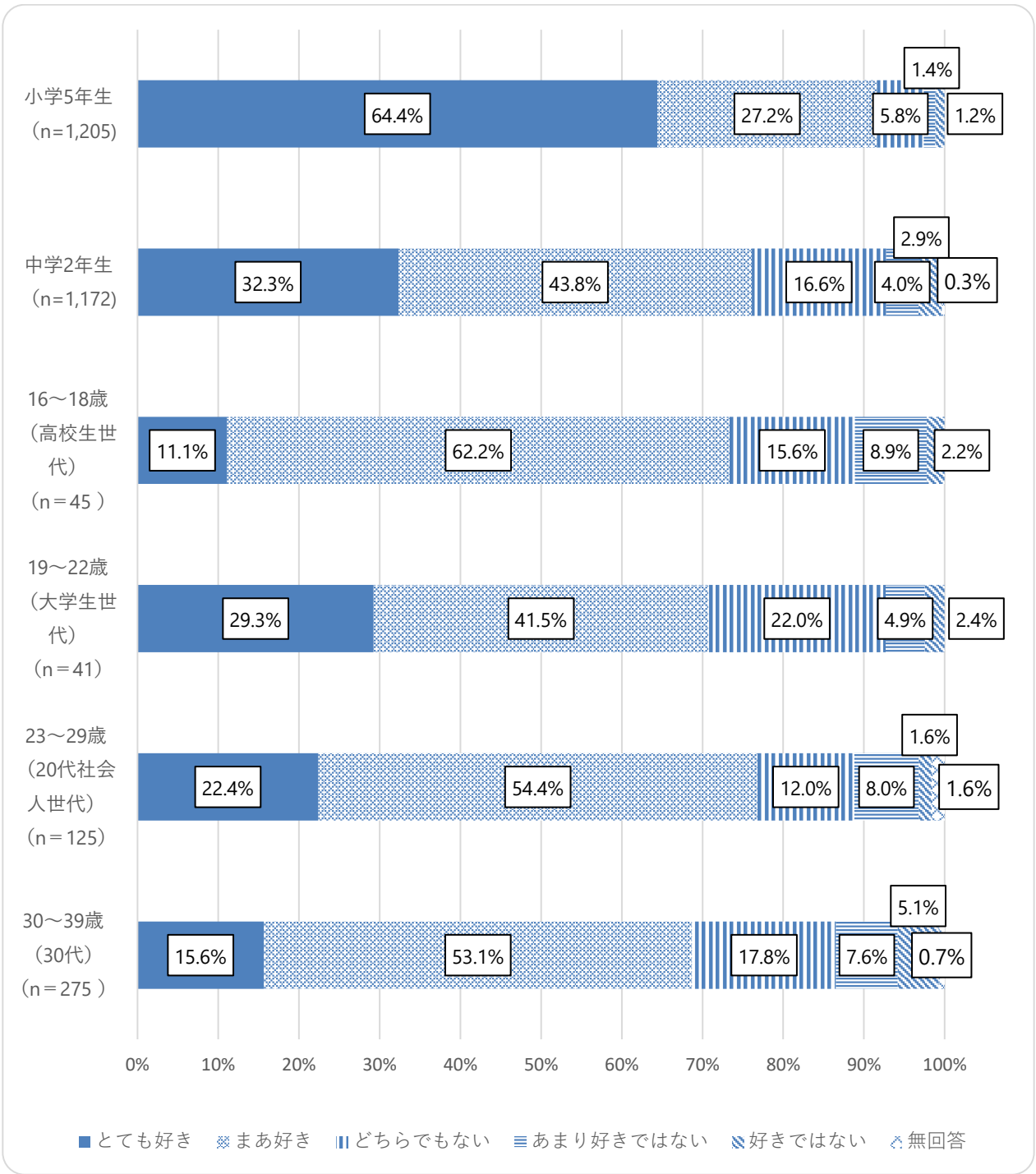
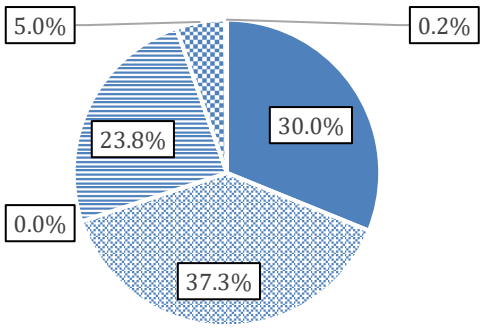


図 X-1　苫小牧市のまちが好きか

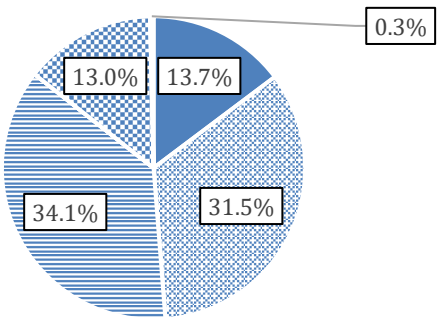
≪今後も苫小牧市に住み続けたいか≫

【小学 5 年生／問 37 単数回答、小学 5 年生保護者／問 37 単数回答、中学 2 年生／問 43 単数回答、中学 2 年生保護者／問 36 単数回答、16 歳から 39 歳／問 42 単数回答】
（選択肢のうち、「いったん進学・就職等で離れても戻りたい」及び「わからない」は⑤16 歳～39 歳のみ、「迷っている」は①小学 5 年生と③中学 2 年生のみ、「どちらでもない」は②小学 5 年生保護者と④中学 2 年生保護者にそれぞれ限定して設定）

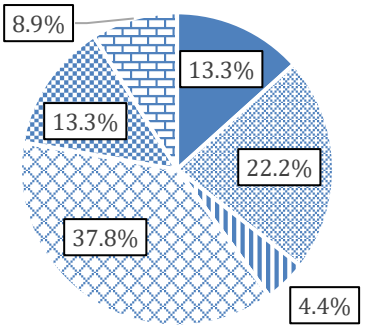
○苫小牧市への在住希望については、「住みたい」「できれば住みたい」を合わせると、小学 5 年生で 67.3%と最も多く、中学 2 年生で 45.2%、16～18 歳で 35.5%、19 歳～22 歳で 51.2%となっている。



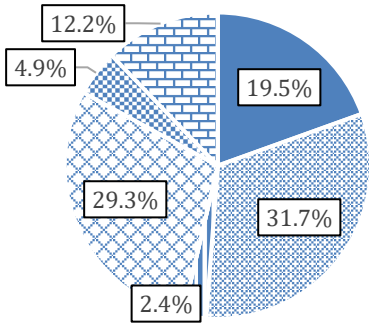
図Ⅹ-1-2　今後も苫小牧市に住み続けたいか
小学 5 年生（n=1,205）



図Ⅹ-1-3　今後も苫小牧市に住み続けたいか
中学 2 年生（n=1,172）



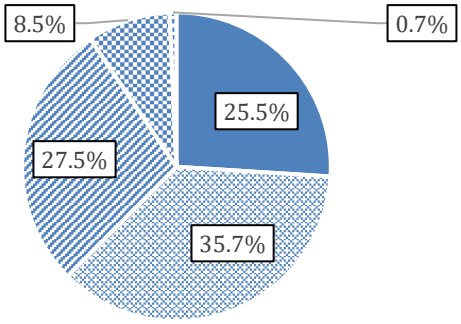
図Ⅹ-1-4　今後も苫小牧市に住み続けたいか
16～18 歳（高校生世代）（n=45）



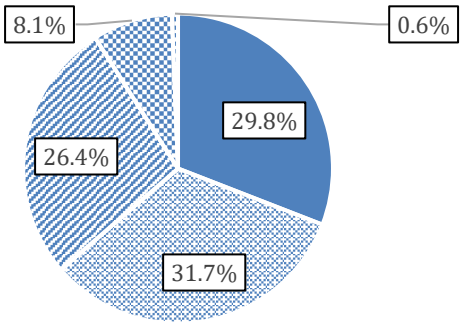
図Ⅹ-1-5　今後も苫小牧市に住み続けたいか
19～22 歳（大学生世代）（n=41）

■ 住みたい
■ いったん進学・就職等で離れても戻りたい
■ どちらでもない
■ あまり住みたくない
■ 無回答
■ できれば住みたい
■ 迷っている
■ わからない
■ 住みたくない

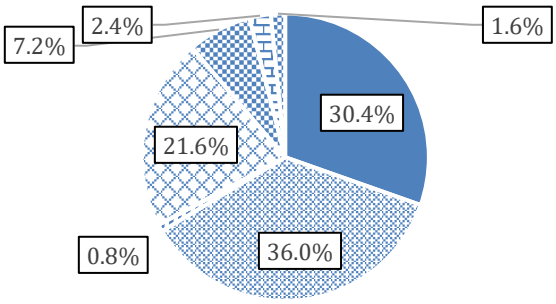
○苫小牧市への在住希望について、「住みたい」「できれば住みたい」を合わせると、小学 5 年生保護者で 61.2%、中学 2 年生保護者で 61.5%、23～29 歳で 66.4%、30～39 歳で 68.3%となっている。



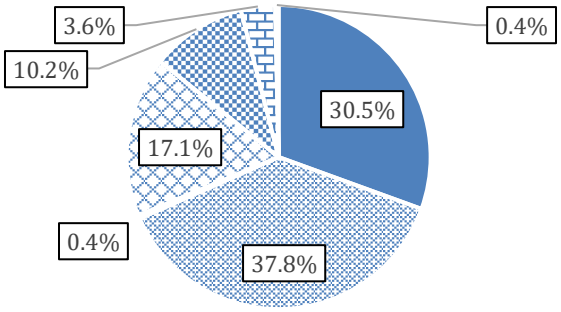
図Ⅹ-1-6　今後も苫小牧市に住み続けたいか
小学 5 年生保護者（n=585）



図Ⅹ-1-7　今後も苫小牧市に住み続けたいか
中学 2 年生保護者（n=496）



図Ⅹ-1-8　今後も苫小牧市に住み続けたいか
23～29 歳（20 代社会人世代）（n=125）



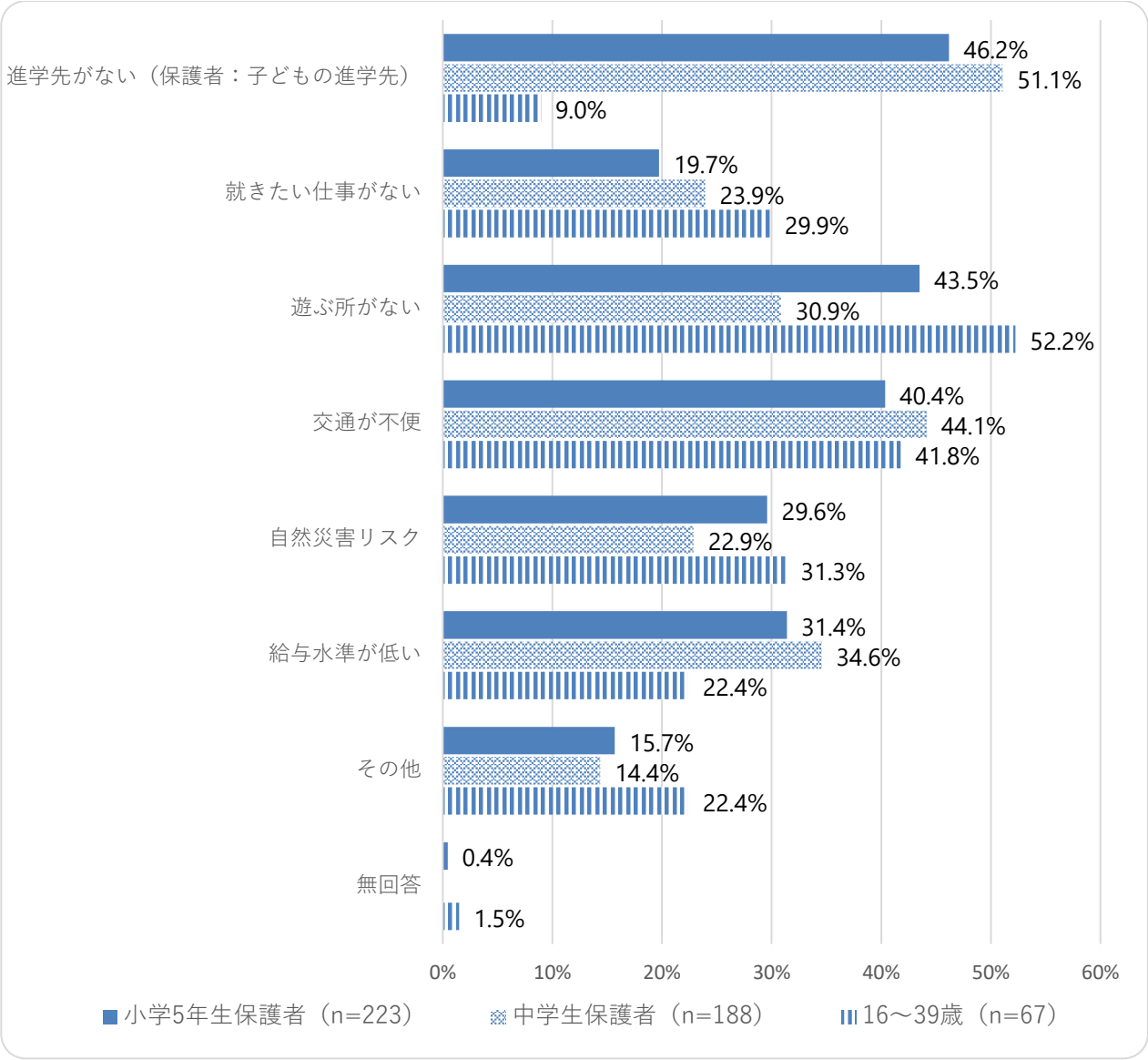
図Ⅹ-1-9　今後も苫小牧市に住み続けたいか
30～39 歳（30 代社会人世代）（n=275）

■ 住みたい
▮ いったん進学・就職等で離れても戻りたい
▨ どちらでもない
▩ あまり住みたくない
▩ 無回答
▩ できれば住みたい
≡ 迷っている
▨ わからない
▭ 住みたくない

≪苫小牧市に住み続けたくない理由≫

【小学 5 年生保護者／問 38 複数回答（問 37 で非定住意向）、中学 2 年生保護者／問 37 複数回答（問 36 で非定住意向）、16 歳から 39 歳／問 43 複数回答（問 42 で非定住意向）】
※割合は各設問の集計対象者数を分母として算出しています。特に当てはまるものを 3 つまで選ぶ設問です。

○苫小牧市に住み続けたくない理由としては、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者いずれも「子どもの進学先がない」が最も多く、16～39 歳では「遊ぶ所がない」が最も多くなっている。



図Ⅹ-1-10　苫小牧市に住み続けたくない理由

○16～39 歳の若者の回答を年代別に比較したところ、全年代で「遊ぶ所がない」が多い結果となった。16～22 歳まではそれ以上の年代と比較して「就きたい仕事がない」の割合が高く、23 歳以上になると「自然災害リスク」が選択されている。

回答項目	16～18 歳（高校生世代）	19～22 歳（大学生世代）	23～29 歳（20 代社会人世代）	30～39 歳（30 代）
進学先がない	40.0%	14.3%	0.0%	2.6%
就きたい仕事がない	40.0%	42.9%	16.7%	28.9%
遊ぶ所がない	50.0%	71.4%	50.0%	50.0%
交通が不便	50.0%	42.9%	25.0%	44.7%
自然災害リスク	0.0%	0.0%	58.3%	36.8%
給与水準が低い	10.0%	28.6%	25.0%	23.7%
その他	0.0%	0.0%	33.3%	28.9%
無回答	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%

16～18 歳（高校生世代）（n=10）
19～22 歳（大学生世代）（n=7）
23～29 歳（20 代社会人世代）（n=12）
30～39 歳（30 代）（n=38）

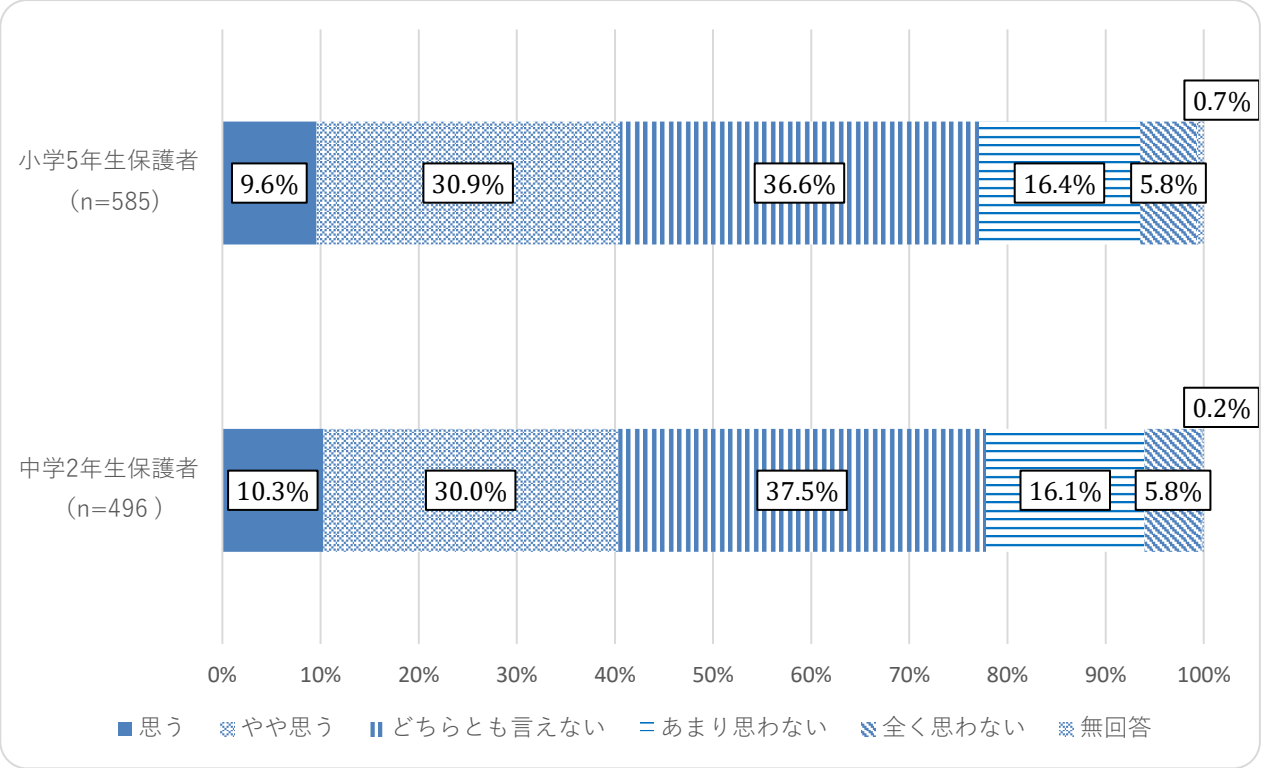
図Ⅹ-1-11　苫小牧市に住み続けたくない理由（16～39 歳年代別）

2 苫小牧市での子育て

≪苫小牧市は子育てしやすい街だと思うか≫

【小学 5 年生保護者／問 35 単数回答、中学 2 年生保護者／問 34 単数回答】

○苫小牧市は子育てしやすい街かどうかについては、「子育てしやすいと思う」「やや思う」と回答した小学 5 年生保護者は 40.5%、中学 2 年生保護者は 40.3%となっている。

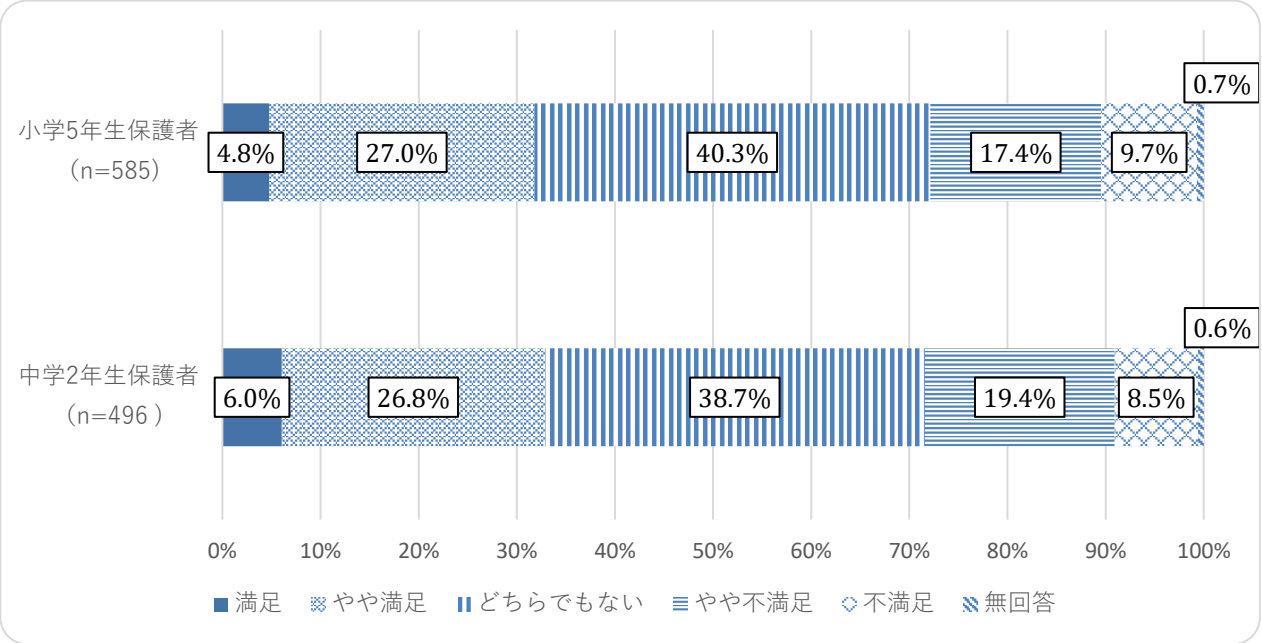


図Ⅹ-2　苫小牧市は子育てしやすい街だと思うか

≪子育て支援・教育環境への満足度≫

【小学 5 年生保護者／問 36 単数回答、中学 2 年生保護者／問 35 単数回答】

○苫小牧市の子育て支援・教育環境への満足度については、「満足」「やや満足」と回答した小学 5 年生保護者は 31.8%、中学 2 年生保護者は 32.8%となっている。



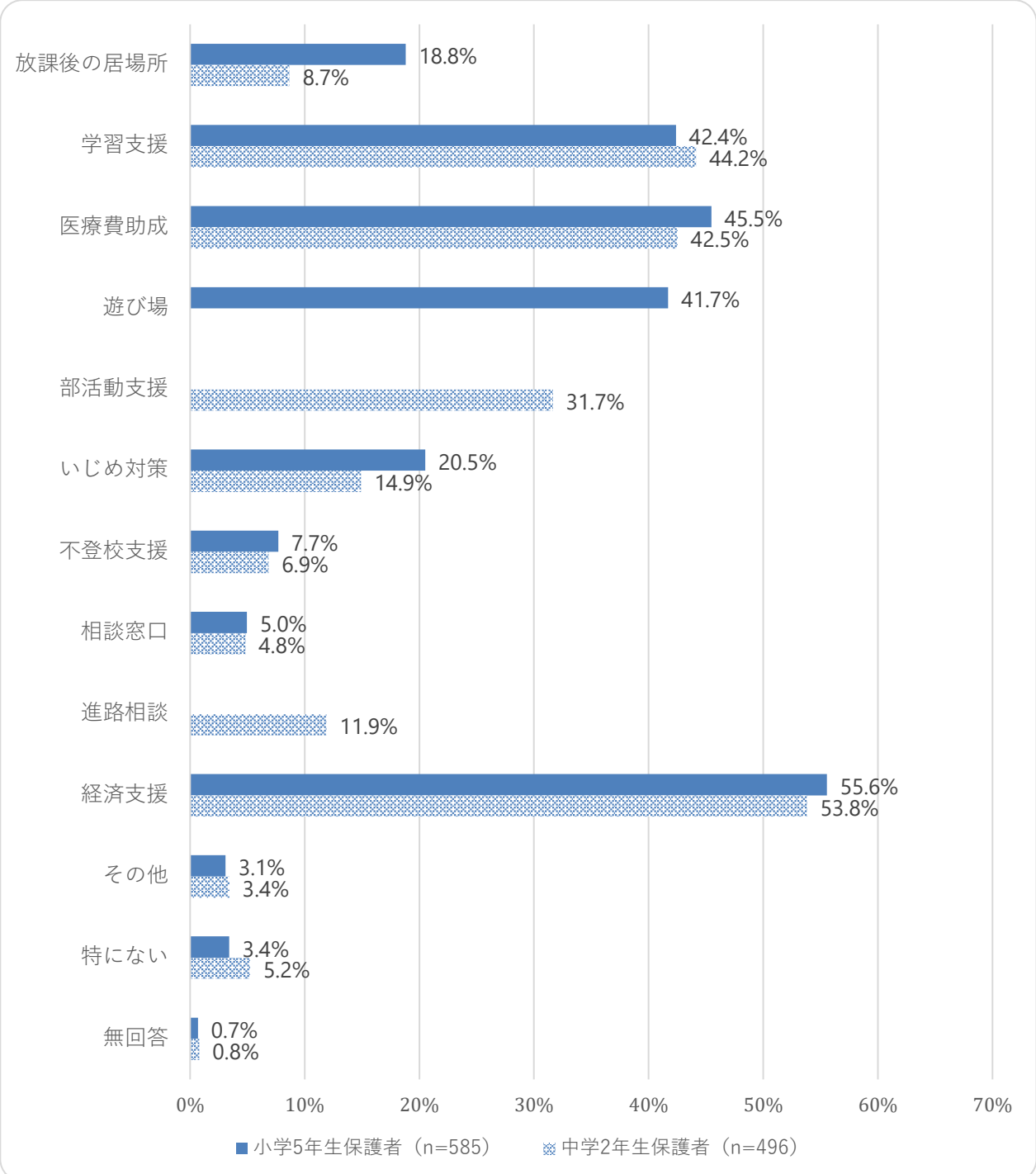
図Ⅹ-2-2　子育て支援・教育環境への満足度

≪苫小牧市に望む子育て支援≫

【小学 5 年生保護者／問 39 複数回答、中学 2 年生保護者／問 38 複数回答】

小学 5 年生の選択肢には「部活動支援」と「進路相談」はなし、中学 2 年生の選択肢には「遊び場」はなし。

○苫小牧市に望む子育て支援の内容については、小学 5 年生保護者は、「経済支援」「医療費助成」「学習支援」の順で多くなっており、中学 2 年生保護者は、「経済支援」「学習支援」「医療費助成」の順で多くなっている。

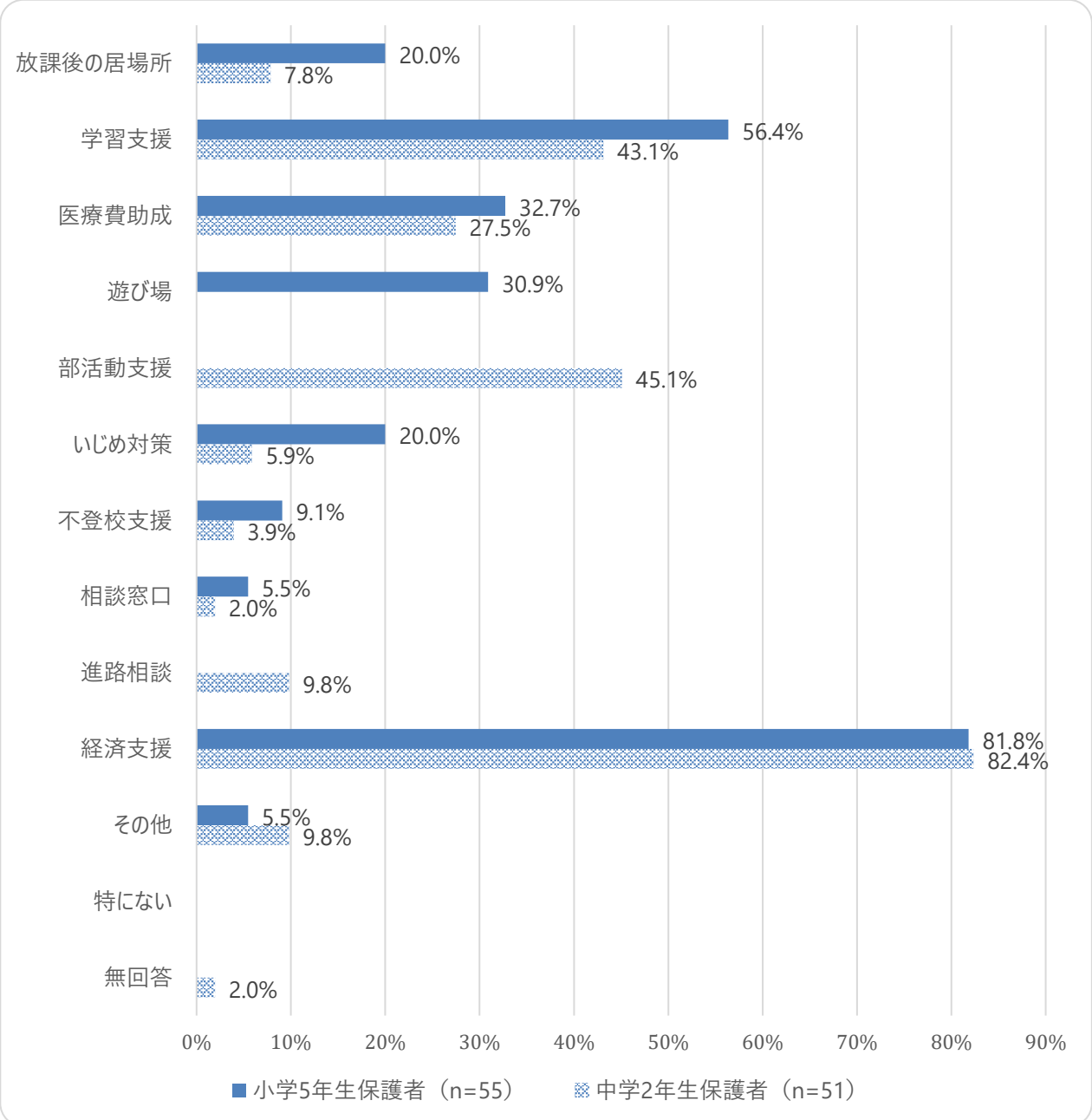


図Ⅹ-2-3　苫小牧市に望む子育て支援

≪経済的負担が非常に大きい世帯が望む子育て支援≫

【小学 5 年生保護者／問 39 複数回答（問 26 で非常に負担が大きい）、中学 2 年生保護者／問 38 複数回答（問 27 で非常に負担が大きい）】

○経済的負担が非常に大きい世帯が望む子育て支援としては、小学 5 年生保護者は、「経済支援」「学習支援」「医療費助成」の順で多くなっており、中学 2 年生保護者は、「経済支援」「部活動支援」「学習支援」の順で多くなっている。

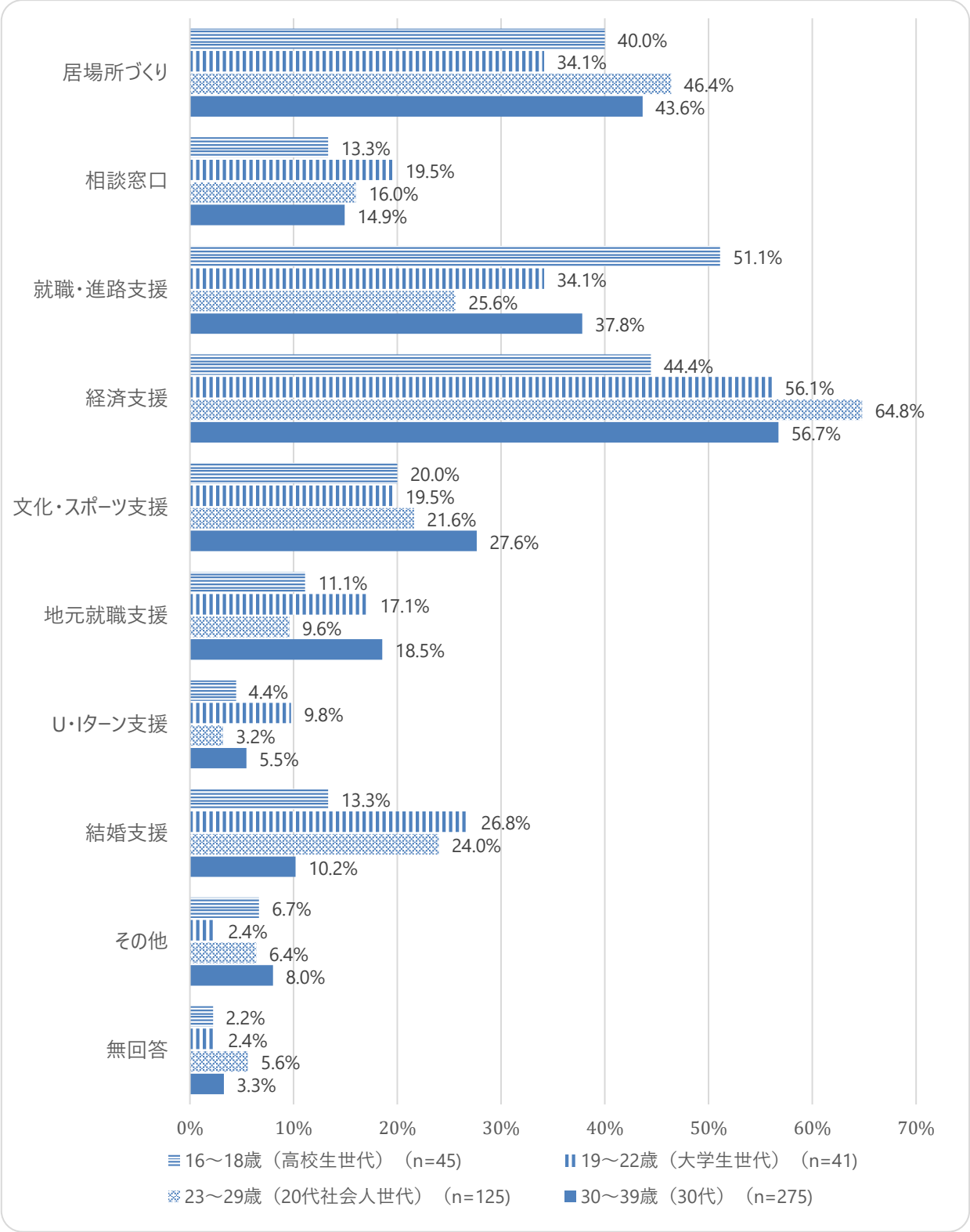


図Ⅹ-2-4　経済的負担が非常に大きい世帯が望む子育て支援

≪こども・若者向け支援として充実してほしいこと≫

【16 歳から 39 歳／問 44 複数回答】

○こども・若者向け支援として充実してほしい内容については、19～22 歳（大学生世代）、23～29 歳（20 代社会人世代）、30～39 歳（30 代）は「経済支援」が最も多く、16～18 歳（高校生世代）は「就職・進路支援」が最も多くなっている。



図Ⅹ-2-5　こども・若者向け支援として充実してほしいこと

3 苫小牧市への意見

【小学 5 年生／問 40 自由記述、小学 5 年生保護者／問 40 自由記述、中学 2 年生／問 46 自由記述、中学 2 年生保護者／問 39 自由記述、16 歳から 39 歳／問 47 自由記述】

苫小牧市への意見について、記述状況と主なテーマを調査対象別に整理した。

＜具体的な意見（抜粋）＞

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
1	【公園・遊具・室内遊び場・居場所】	小学 5 年生 中学 2 年生 小学 5 年生保護者 中学 2 年生保護者	・どこの公園でもボールを使えるようにしてほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・公園の遊具をへらさないでほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生 16～39 歳	・公園の遊具が使えなくなっているから使えるようにして欲しい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・交通公園（千歳市にあるような信号などがあり交通ルールを学べる公園）を造ってほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生 16～39 歳 小学 5 年生保護者 中学 2 年生保護者	・屋内施設を作って欲しいです。（雨や雪でも遊べる、勉強できる）
		小学 5 年生 中学 2 年生 小学 5 年生保護者 中学 2 年生保護者	・勉強できる施設をもっと増やしてほしい
		小学 5 年生保護者	・幼児と小学生が一緒に遊べる室内の遊び場があれば嬉しい
		小学 5 年生保護者	・小学校高学年の放課後の居場所を大人が見守って頂ける場所を提供してほしいです
		中学 2 年生保護者	・もっと皆で話し合いながら勉強できる場所があればいいのになと思いました
		中学 2 年生保護者	・コミセンや図書館のフリースペースのような場所がたくさんあると気軽に自主的に利用することが出来て、行くところがないからという理由で商業施設に出向くことが減るのではと話している親子さんが多いです
		16～39 歳	・支援センターは、日曜、祝日やってないので、子連れで遊ぶ時は、遊び場がなくて困る。
		16～39 歳	・市内で歩行前の子供を遊ばせる場所が少なくて苦労しました

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
2	【ポイ捨て・ゴミ拾い・美化】	小学 5 年生 中学 2 年生	・苫小牧市の町内会みたいなボランティア活動みたいなのを開いてゴミ拾い活動をして欲しいです
		小学 5 年生 中学 2 年生	・もっと街の景観をよくしてほしい(ゴミ拾い)
		小学 5 年生 中学 2 年生	・海の砂浜のゴミ拾いのボランティア活動の、チラシをつくり、砂浜をきれいにしてほしいです。 できれば子どもも、参加できるようにしてほしいです
		小学 5 年生 中学 2 年生 小学 5 年生保護者	・苫小牧の街を歩いていたら、道路などによくたばこの吸い殻や、ペットボトル、ビニール袋などいろいろなゴミが落ちていると感じています。学校ではごみ拾いボランティアなどをして取り組んでいますが、学校だけでは限界があると思うので、苫小牧市全体は無理でも、協力して月に１回ほど(もう少し少なくてもいいです)ゴミ拾いをして、街をきれいにしてほしいと思いました。
		中学 2 年生保護者	・街灯がない暗い道には草がボーボーに茂りかき分けた下はゴミだらけ
		中学 2 年生保護者	・ゴミが有料の袋のせいか、ゴミのポイ捨ても目立つ
3	【いじめ・差別、人権、子ども対応】	小学 5 年生 中学 2 年生	・子ども同士で差別しないでと呼びかけてほしい。
		小学 5 年生 中学 2 年生 小学 5 年生保護者	・いじめに関してもう少し罰について考えてみてほしい ・いじめ問題はもう少し踏み込んでしっかりと加害者側へ対応し被害者の人権を守ることができるようにしていってほしいなと思います
		小学 5 年生 中学 2 年生	・いじめなどなくす取組をしてほしい。学校で今自分がいじりにあっているから、エスカレートしてほしくないという意味で
		小学 5 年生 中学 2 年生	・SNS の事故に入らない子供を育ててください
		16～39 歳	・フリースクールに支援があれば不登校の子供、両親も安心して暮らせると思う
		16～39 歳	・虐めにあって居る生徒も無理に登校させるのではなく、受け皿になる場所が必要です
		16～39 歳	・外国人に対するいじめや差別のないまちになってほしいです
		小学 5 年生保護者	・インクルーシブ教育といった考えですので、誰もがどの環境(場所)であっても差別なく、でも出来る事出来ない事を保護者側も受け入れつつ、どんな子ども達にも平等に教育が受けられる苫小牧市になってほしい

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
		小学５年生保護者 中学２年生保護者	・不登校の子供たちや家族が、孤立しない環境作りをお願いしたいです。
		中学２年生保護者	・教育委員会のいじめ対策ではなく、大阪にある市の取り組みのような、市が独自に運営するいじめなどの対策部署を作ってほしい
4	【学校設備・行事・ルール・給食】	小学５年生 中学２年生 小学５年生保護者 中学２年生保護者	・スポットクーラーと扇風機はあるけれど、それだけでは涼しい風が届かないところがあるので、教室にエアコンをつけてほしいです
		小学５年生 中学２年生	・学校のルールをもっとしっかりと決めてほしい
		小学５年生 中学２年生	・小学校、中学校、高校、大学で外に出て産業などが学べる校外学習で詳しく調べられる時間を作ってほしい
		小学５年生 中学２年生	・中学校と小学校の帰宅時間の差がなさすぎるので中学生の帰宅時間をもう少しだけでも遅くしてもらえれば幸いです
		小学５年生 中学２年生	・生徒調査票（人間関係についてのアンケートなど）を１学期だけからもう少し増やしていただきたい。人間関係は１年で１８０度変わることを理解していただきたいです
		小学５年生 中学２年生	・部活動の地域展開をやめてほしい
		小学５年生 中学２年生	・学校の部活動の種類を増やしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・給食に苫小牧焼きそばをまた出してほしい
		小学５年生 中学２年生	・給食で麺の日をふやしてほしい
		小学５年生 中学２年生 小学５年生保護者 中学２年生保護者	・給食のおかずが少ないです ・給食の品数、量が少ないと感じます。
		16～39 歳	・中学の部活動を減らさないでほしいです
		小学５年生保護者	・親世代に比べて学習内容が難しくなっているので、細やかにサポートできるよう少人数クラスにするなどの配慮があるとより良いと思います。
		小学５年生保護者	・学校の統廃合にかかる校区の再編に関しては子供の負担を増やしてほしくない。
		小学５年生保護者 中学２年生保護者	・給食のあとに歯磨きする時間を作って欲しいです

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
		中学 2 年生保護者	・学校内のネット環境も悪いと聞くので、改善が必要なのでは思っています
		中学 2 年生 中学 2 年生保護者	・夏はジャージ登校が認められているが冬も認めて欲しい
5	【交通安全・防犯・クマ対策】	小学 5 年生 中学 2 年生 16～39 歳	・ほんとにごく一部の人達が信号無視、道路の信号ないところを渡る人がいるからやめてほしい。
		小学 5 年生 中学 2 年生	・子供が見て事故やケガにつながる行動をしないでほしい。車を運転する人にスピードを出しすぎないでほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生 中学 2 年生保護者	・市の明かりを増やしてほしい。車の見通しテストなどもして、安全の上に安全を重ねた街にしてほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・横断歩道を渡らず道路を横切るお年寄りの人が多くてとても心配になる信号機を増やすか横断歩道をもっと増やしてほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・熊の目撃情報がででいるので市役所の人と警察で警戒して熊の目撃情報をなくしてください
		小学 5 年生 中学 2 年生 中学 2 年生保護者	・クマを減らす対策をしてほしい
		16～39 歳 小学 5 年生保護者 中学 2 年生保護者	・治安がかなり悪く感じます ・私自身も不良と呼ばれるような方々に脅されたこともあります
		小学 5 年生保護者	・部活がなくなることによりやることがない子供達がフラフラ遊び回って治安が悪くなるのも心配です
6	【スポーツの振興】	小学 5 年生 中学 2 年生	・アイスホッケーの市だけどやってる人も少なくて知ってる人も少ないからもっとアイスホッケーとの関わりがあってもいいと思う
		小学 5 年生 中学 2 年生	・大会増やしてほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・もっとマイナースポーツに力を入れてほしい
		16～39 歳	・子どもや若者が健康に過ごせるように、気軽に運動できるジムやスポーツ施設が増えるとうれしい
		小学 5 年生保護者	・トマセイのサッカー場、小中学生の使用許可証で無料で練習できるようにしてほしい
		小学 5 年生保護者	・コミセンでフットサル、野球の練習もできるようにしてほしい

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
		小学５年生保護者	・冬期の硬式野球を練習できる場所がないので、個人でも安価で使用できる練習場所を作ってほしい
7	【お祭り・子ども向けイベント】	小学５年生 中学２年生 小学５年生保護者	・友達(子供)だけで行ける移動方法やお祭りイベントをやってほしいです
		小学５年生 中学２年生	・もっと新しくできた市民会館をうまく使えばいいと思う。いろんなイベントを増やす
		小学５年生 中学２年生	・樽前神社のお祭りは２年前のように樽前神社でどうしても行ってほしい
		小学５年生 中学２年生	・こどもキッズタウンを５，６年生も行けるようにしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・子供研修みたいなことをもっと増やしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・苫小牧に観光客がたくさん来る楽しい観光スポットを作ってほしい
		16～39 歳	・異業種交流会なども、ビジネス的な期待やプライベート面での出会いも期待出来ると思われるので開催してもいいと思う
		中学２年生保護者	・フェスなどいろいろとされていますが、子供は無料だったりしますが、結局フェスになると保護者付き添いになった場合親が負担ある
8	【道路舗装・草刈り・景観】	小学５年生 中学２年生	・市外から苫小牧駅に来た人たちに良い市だという印象を持ってもらうために、苫小牧駅を綺麗にしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・遊ぶ場所をたくさんつくってほしい。景色が良い絶景スポットをつくって欲しい。
		小学５年生 中学２年生	・道路や川近くの雑草が伸びすぎている。草刈りしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・歩道の幅が狭いので広くしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・歩道、車道の穴を埋めてほしいです。砂利をなくしてほしい
		小学５年生 中学２年生	・常緑樹を増やしてほしい
		16～39 歳	・歩道や車道がガタガタで自転車で登下校する時に不便と感じる
		小学５年生保護者	・歩道整備に関しては早急に対応していただきたいです。
		中学２年生保護者	・冬道、通学路の除雪、アイスバーンへの対応がなく、どんなに気をつけてても危険があるので、対応をお願いしたい

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
9	【津波・災害対策】	小学 5 年生 中学 2 年生	・自然災害などで避難したとき安心できる施設などを増やしてほしい
		小学 5 年生 中学 2 年生	・噴火津波に備えた施設が欲しい
		小学 5 年生 中学 2 年生 小学 5 年生保護者	・避難所を増やしてほしい
		16～39 歳	・冬の道路が凍結してて逃げ遅れないように津波タワーを何ヶ所か設置してほしい
		小学 5 年生保護者	・津波警報時に逃げる場所（高台）がない為車での移動に偏り渋滞になっている
10	【交通網改善・土地利用】	小学 5 年生 中学 2 年生	・もっと市の範囲と人が住める土地を作ってほしい。（空き地が少ない）
		小学 5 年生 中学 2 年生	・祭りなどの行事があるとバスが込み合って大変なのでバスの運行をその期間だけ増やしてほしい。
		小学 5 年生 中学 2 年生	・交通の利便性がもう少し上がればお年寄りとかも移動しやすくなる
		小学 5 年生 中学 2 年生 中学 2 年生保護者	・JR の本数を増やしてほしい
		16～39 歳	・中央で遊んでも帰りの足がない方が多いので交通機関の面ももっと充実すればいいのではないかなと思います
		小学 5 年生保護者 中学 2 年生保護者	・バスを増やして欲しい。
		中学 2 年生保護者	・送迎バス等があれば非常に助かる
11	【商業施設・店舗の誘致】	小学 5 年生 中学 2 年生	・施設を作ること、苫小牧駅の目の前にある大きな建物をショッピングモールなど、様々な公共施設にすること
		小学 5 年生 中学 2 年生	・苫小牧市にまだないお店をどんどん進出させてほしい。市役所や駅周辺をもっと発展させてほしい。
		小学 5 年生 中学 2 年生	・とまちょっぷの相棒キャラをつくってほしい
		16～39 歳	・駅前にもっと若者が集まれるような、ショッピングや勉強ラウンジなどといった場所があれば若者が自然と町の中央に集まってくるのではと思っていますがどうでしょうか。
		16～39 歳	・西側には小児科や産婦人科、子供用品専門店がなく子育て世代にはとても不便に感じます
		小学 5 年生保護者	・書店が少ないと感じる

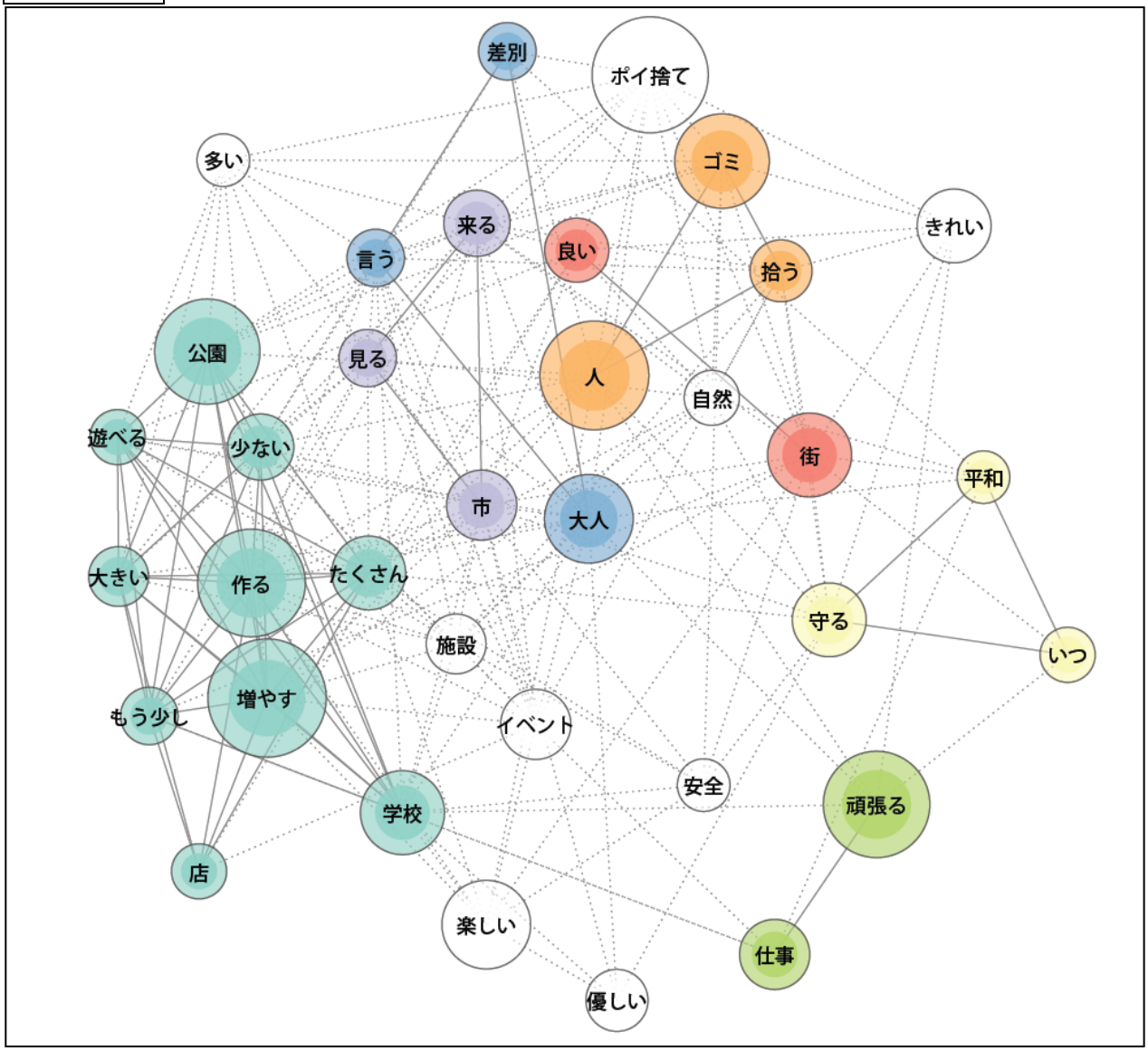
No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
		中学２年生保護者	・もっと他府県などから住みたいと思える活気のある自慢できる町になってほしい
12	【受動喫煙】	小学５年生 中学２年生	・タバコを吸うのをやめてほしい
13	【こどもの社会参加】	小学５年生 中学２年生	・中学生が政治に参加できるイベントなどしたら、みんな意見を言えるからいいと思う
		小学５年生保護者	・課外授業を増やして社会との繋がりを深めて欲しい。
		小学５年生保護者	・3・4 年生でお仕事体験イベントに参加させていただきましたが、5 年生以降もとても大切だと感じます
14	【経済的支援】	小学５年生 中学２年生 小学５年生保護者 中学２年生保護者	・給食費を減らしてほしい ・中学生まで給食費の無償化をぜひ実現していただきたいです
		小学５年生 中学２年生 16～39 歳 小学５年生保護者 中学２年生保護者	・物価高対策をしてほしい
		中学２年生	・もう少し子供が多い家庭への支援金などがあれば嬉しいです
		中学２年生 小学５年生保護者	・高校や大学の無償化
		16～39 歳 小学５年生保護者 中学２年生保護者	・シングルやニ人親関係なく、子供は分け隔てなくしてもらいたい
		小学５年生保護者 中学２年生保護者	・就学前より就学後からのがお金かかるなって思ったので、大きくなってからの方が支援を増やして欲しい
		小学５年生保護者 中学２年生保護者	・子供の医療費は無償にしていただきたい
15	【教育内容・教育環境・進路】	小学５年生	・小学校、中学校、高校、大学で外に出て産業などが学べる校外学習で詳しく調べられる時間を作ってほしい
		16～39 歳	・未成年者の充実した教育（道徳心も含めて）をより強化しなければいけないのではないかと考えます
		16～39 歳	・苫小牧にも養護高等学校を作って欲しい
		小学５年生保護者	・塾に行かなくても済むような教育システムにしてください
		中学２年生保護者	・国際バカロレア（IB）教育の導入

No.	テーマ	調査対象	こども・若者及び保護者の意見
		中学２年生保護者	・東西の教育環境に大きな差が出てきており、西地区は全く塾が無い
		中学２年生保護者	・進学先（高校・大学等）の選択肢が少ない
		中学２年生保護者	・習熟度別授業を取り入れたり、外部講座や文化的な公演を観に行く機会を取り入れて欲しい

図Ｘ-3　苫小牧市への意見（抜粋）

＜テキストマイニング分析＞

①小学５年生



図Ｘ-4　テキストマイニング（小学５年生）

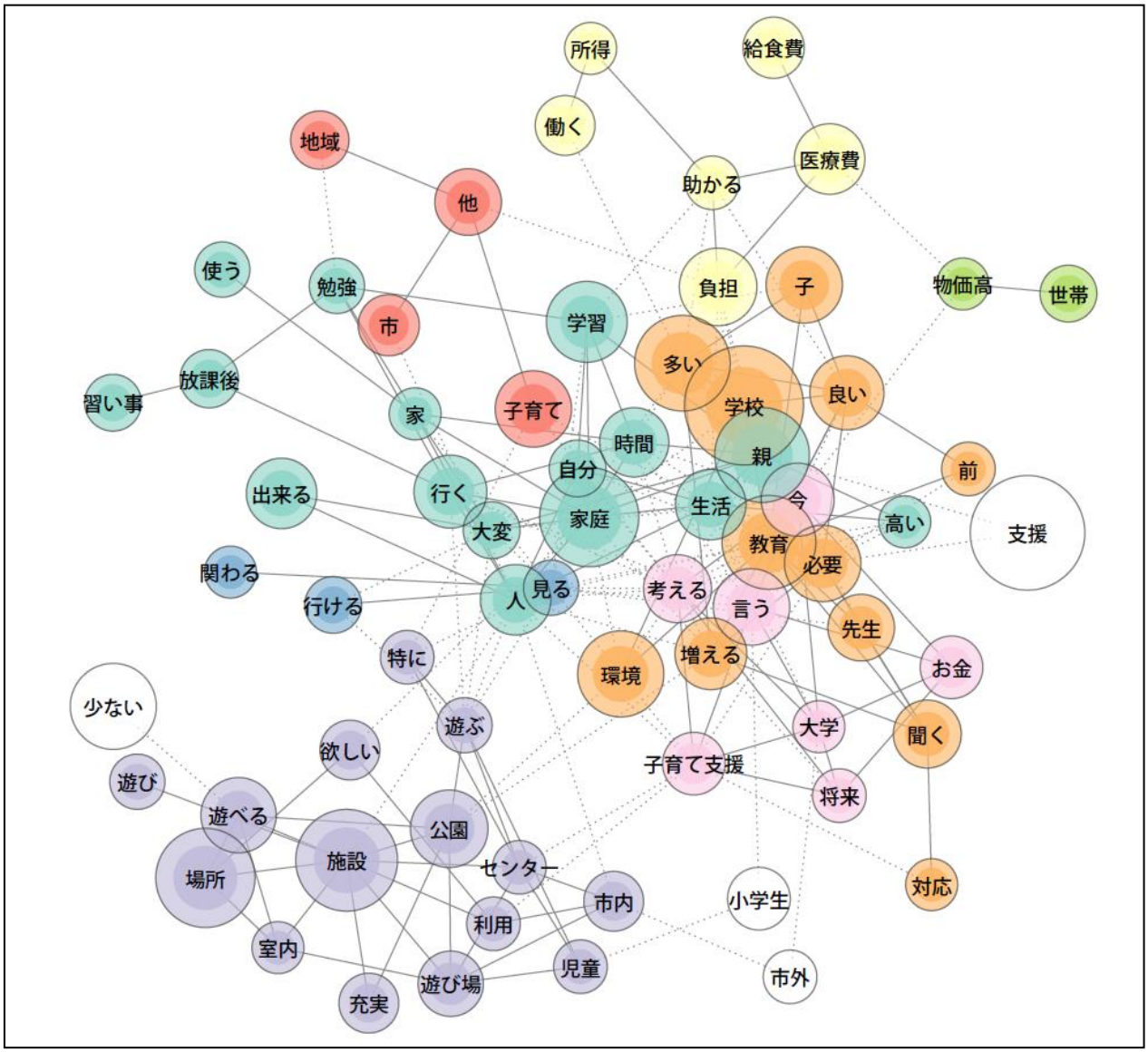
○テキストマイニングで読み取れること

・「ゴミ」「人」「拾う」が強く結びついており、「ポイ捨て」「きれい」と合わせて町の美化に関する意見が多いことが読み取れる。
・「公園」「作る」「増やす」を中心に多くの言葉が強く結びついており、公園施設に関する意見が多いことが読み取れる。

○具体的な意見（抜粋）

【ポイ捨て・ゴミ拾い・美化】
・苫小牧市にはお菓子のゴミやペットボトルが落ちているからごみひろいをすればいいとおもう。
【公園・遊具・室内遊び場・居場所】
・ボールで遊べる公園などを増やしてほしいです。

②小学５年生保護者



図Ｘ-5　テキストマイニング（小学５年生保護者）

○テキストマイニングで読み取れること

・「学校」「教育」「環境」を中心に多くの言葉が強く結びついており、学校施設や教育環境に関する意見が多いことが読み取れる。

・「公園」「施設」「場所」を中心に多くの言葉が強く結びついており、公園やこどもの居場所に関する意見が多いことが読み取れる。

○具体的な意見（抜粋）

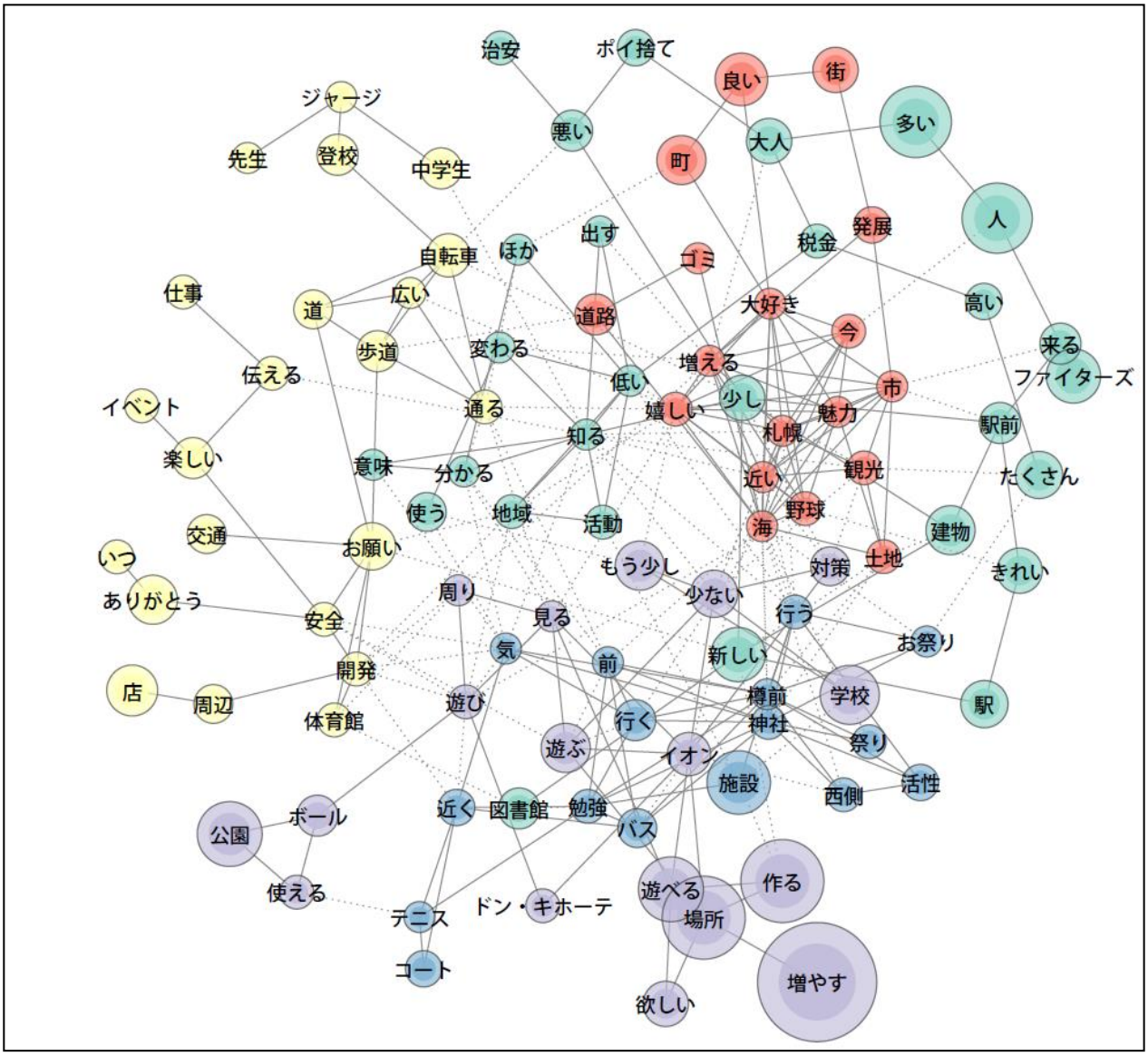
【学校設備・行事・ルール・給食】

・各教室の早期のエアコンの設置を強く望みます。

【公園・遊具・室内遊び場・居場所】

・室内の遊び場やスポーツのできる場所を増やして欲しい。

③中学２年生



図Ｘ-6　テキストマイニング（中学２年生）

○テキストマイニングで読み取れること

・「遊べる」「場所」「増やす」「作る」を中心に多くの言葉が強く結びついており、こどもの遊び場に関する意見が多いことが読み取れる。

・その他、多種多様な言葉が同程度の頻度で確認でき、意見の幅が広いことが読み取れる。

○具体的な意見（抜粋）

【公園・遊具・室内遊び場・居場所】

・何か子供がたくさん楽しめるような施設などや公園などを作ってほしい。

・勉強できる施設をもっと増やしてほしい。

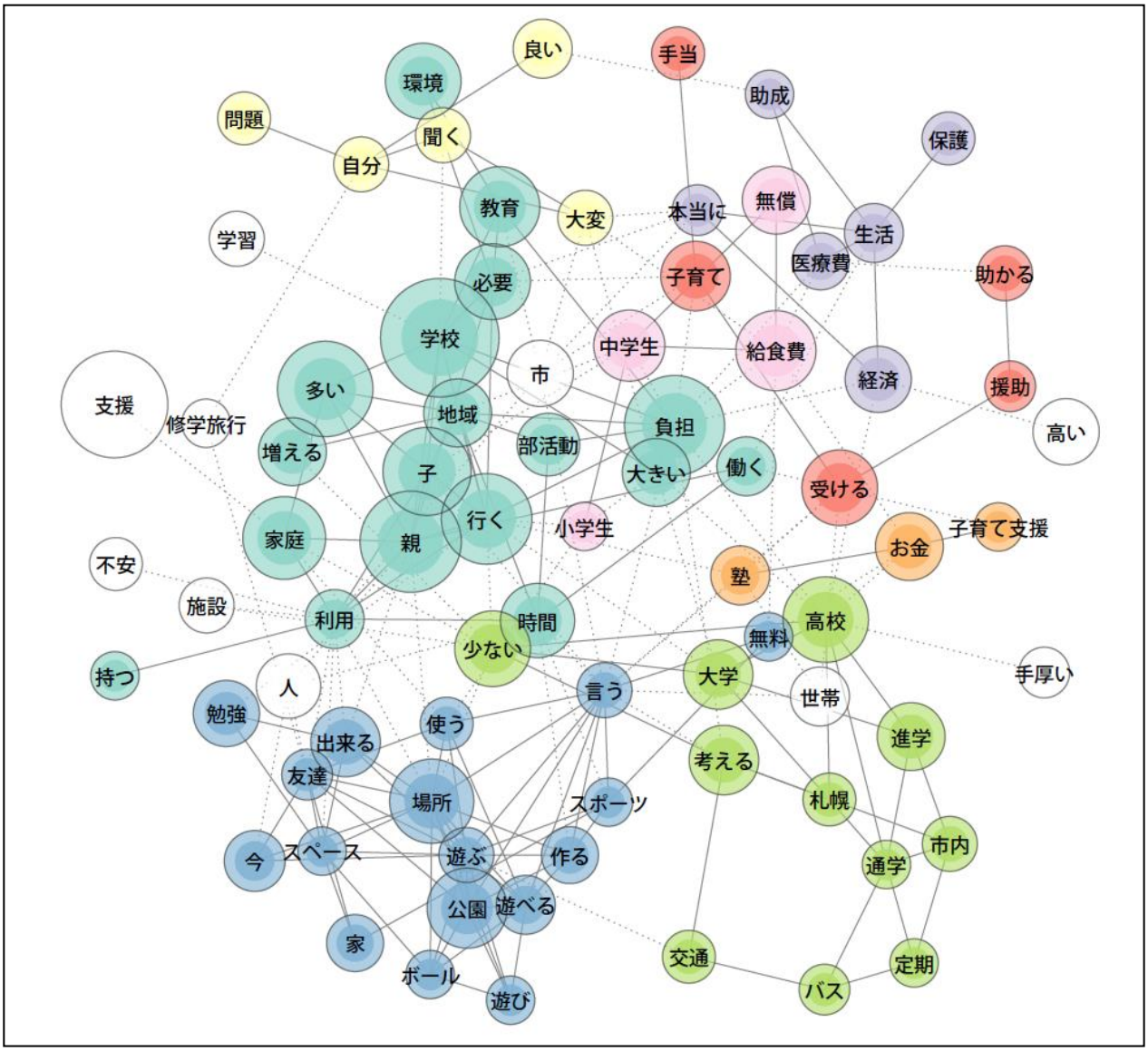
【商業施設・店舗の誘致】

・市役所や駅周辺をもっと発展させてほしい。

【学校設備・行事・ルール・給食】

・夏はジャージ登校が認められているが冬も認めて欲しい。

④中学２年生保護者



図Ｘ-7　テキストマイニング（中学２年生保護者）

○テキストマイニングで読み取れること

・「学校」「負担」「親」「行く」を中心に多くの言葉が強く結びついており、学校に関する意見が多いことが読み取れる。

・「場所」「公園」「出来る」を中心に多くの言葉が強く結びついており、こどもの遊び場に関する意見が多いことが読み取れる。

○具体的な意見（抜粋）

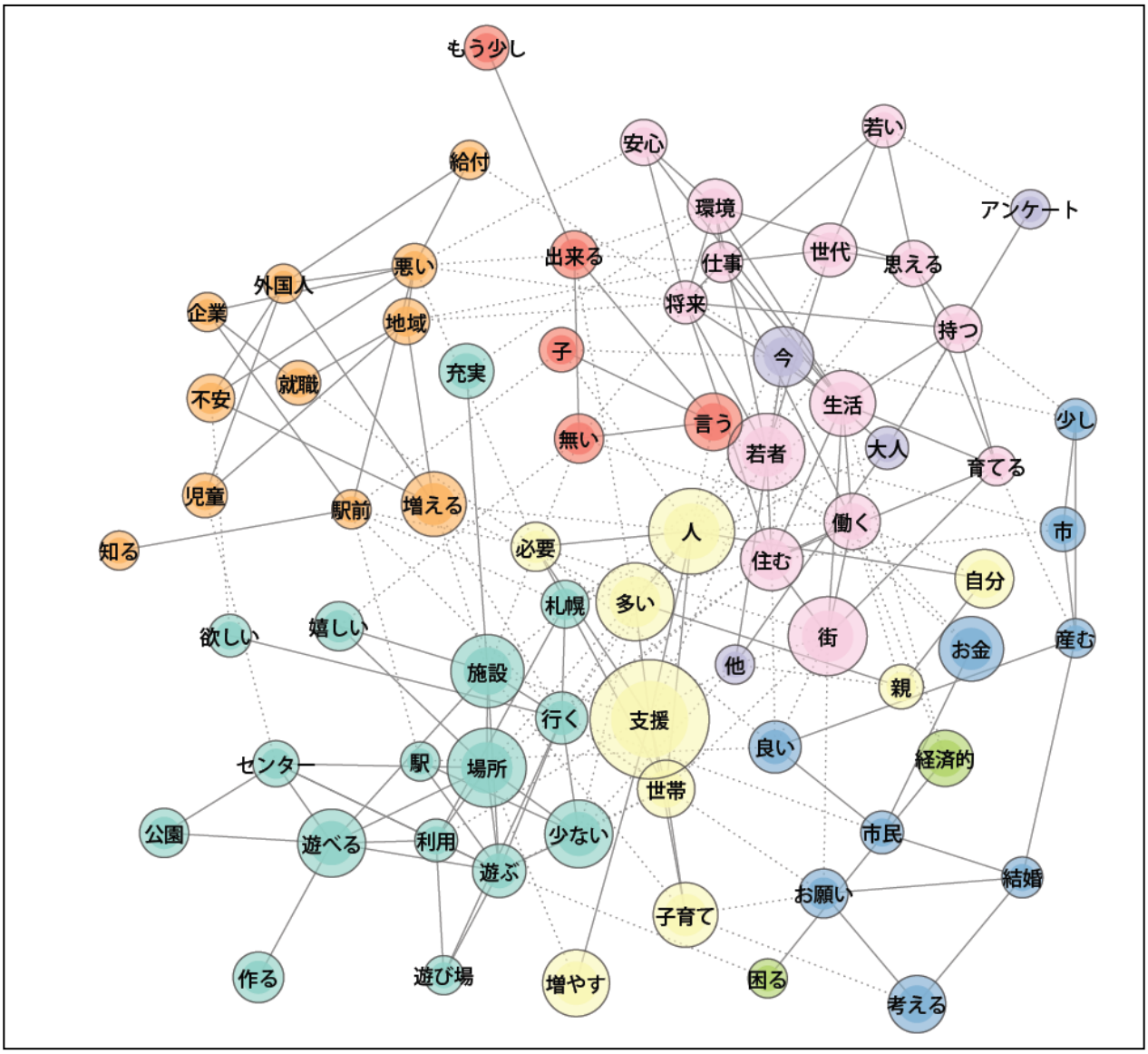
【学校設備・行事・ルール・給食】

・徒歩では危なくて行けない遠い学校に行かせることは子育て世代の親にとって、負担感が増し、辛いことではないのか。

【公園・遊具・室内遊び場・居場所】

・もっと皆で話し合いながら勉強できる場所があればいいのになと思いました

⑤16 歳から 39 歳



図Ｘ-8　テキストマイニング（16 歳から 39 歳）

○テキストマイニングで読み取れること

・「支援」「多い」「人」が強く結びついており、子育て支援に関する意見が多いことが読み取れる。

・「若者」「街」「住む」を中心に多くの言葉が強く結びついており、若者の定住に関する意見が多いことが読み取れる。

○具体的な意見（抜粋）

【いじめ・差別、人権、子ども対応】

・フリースクールに支援があれば不登校の子供、両親も安心して暮らせると思う。

【商業施設・店舗の誘致】

・駅前にもっと若者が集まれるような、ショッピングや勉強ラウンジなどといった場所があれば若者が自然と町の中央に集まってくるのではと思っています。

XI 集計・分析結果からわかること

本調査の各対象の集計結果を横断的に見た結果、主な傾向は次のとおりである。

1 こども・若者の幸福感は高い一方、自己肯定感の向上が課題

「今、幸せだと思う」と回答した割合は、小学 5 年生 86.7%、中学 2 年生 83.8%、16～39 歳 75.9%となっており、いずれの対象でも肯定的な回答が多数を占めている。学校生活についても、「楽しい」と回答した割合は、小学 5 年生 87.5%、中学 2 年生 87.6%と高く、日常生活を前向きに捉えているこどもが多い。（P31、P50）

一方、「自分のことが好き」と回答した割合は、小学 5 年生 55.4%、中学 2 年生 46.4%、16～39 歳は 56.8%で、中学 2 年生はやや低い傾向があり、小学 5 年生と比較して「勉強・受験」「将来のこと」が悩みとして多くなる上、孤独感についても、43.3%と高い傾向がみられる。（P32、P39、P48）

16～39 歳の若者世代では、自己肯定感は高いものの、孤独を感じることがあると回答した割合は 48.5%と更に高くなっている。（P48）

2 長時間にわたる家族の世話が学校生活へ与える影響

家族のお世話をしている割合は、小学 5 年生 34.9%※3、中学 2 年生 17.1%、16～18 歳では 8.9%となっているが、小学 5 年生、中学 2 年生ではお世話の時間が「1 時間未満」が最も多く、日常的な手伝いや兄弟姉妹の世話を含む回答が多くなっている。本調査では、ヤングケアラーの深刻度を一概に判断できるものではないため、世話の内容、頻度、本人の負担感を踏まえて対応する必要がある。（P15、P18～P22）

保護者のヤングケアラーに対する認知度は高く、小学 5 年生保護者で 89.4%、中学 2 年生で 91.1%となっており、自身の子が家族のケアをしていると回答した保護者は、小学 5 年生保護者で 3.4%、中学 2 年生保護者で 4.0%となっている。（P14）

一方で、お世話による学業への影響については、小学 5 年生保護者の 7 割、中学 2 年生保護者の 9 割が、「影響はない」と回答しているが、中学 2 年生で 3 時間以上お世話している生徒は、忘れ物、欠席、遅刻など学校生活に影響が出ており、こどもの実態と保護者の認識に乖離がある。（P23～P24）

※3　全国調査の平均は小学 6 年生で 6.5%

株式会社日本総合研究所.（令和 4 年 3 月）.ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102439）

3 食生活は概ね安定しているが、生活リズムへの対応が必要

朝食を毎日食べる割合は、小学 5 年生が 82.9%、中学 2 年生が 76.3%となっているが、「週 1～2 回・ほとんど食べない」と回答した児童生徒が一定数いる。また、夕食、長期休暇等の昼食を毎日食べる割合と比較すると低くなっており、食事を十分にとらない理由として「時間がない」「おなかがすいていない」が上位となっている（P34～P35）

朝食を毎日食べる小学 5 年生、中学 2 年生は、学習の理解度も高まる傾向があり、食事の頻度と学習の理解度に相関関係があることがわかる。（P36）

16～18 歳では、朝食を毎日食べる割合は 60.6%と更に低くなっている。（P34）

睡眠時間について、6 時間以上の睡眠をとる割合は、小学 5 年生で 99.7%、中学 2 年生で 86.8%となっているが、16～18 歳では 69.7%と低くなっている。（P38）

4 相談先は家族・友人が中心であり、相談につながらない層への接点が必要

こども・若者の相談先は家族、友人、先生が中心であり、保護者の子育て相談も家族・親族、知人・友人が中心である。一方、公的機関や専門職への相談は限定的で、本人・保護者の双方が身近な人間関係に依存している。（P40、P47）

また、「相談したくても相手がいない」及び「相談したくない」を合わせた相談せず一人で抱え込んでしまう層が、小学 5 年生及び中学 2 年生では約 10%、19 歳以上の各年代では 15%以上いることも判明した。（P40）

相談しやすい方法としては、小学 5 年生、中学 2 年生、30 代は「同じ悩みを持っている人に相談」が最も多く、16～29 歳の若者世代においては、LINE やチャットでの相談が多くなっている。（P41）

こどもにとって学校が重要な相談資源である一方、保護者側では学校の相談機能が十分に認識・利用されていない可能性がある。（P40、P47）

5 放課後や地域における、多様で安心できる居場所の充実

こどもが放課後に過ごす場所は、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者の回答から、いずれも「自宅」が最も多く、16～39 歳の若者世代においても同様である。（P57、P61）

小学 5 年生、中学 2 年生、16～39 歳の「安心できる場所」についても、「自分の部屋」と「家（自分の部屋以外）」が最も多いものの、「あったらよいと思う居場所」については、「一人で過ごせる」「好きなことに打ち込める」「友達と過ごせる」場所のニーズが高いことから、自宅以外にも居心地がいい場所を求めていることがわかる。（P62～P64）

また、習い事やクラブ活動等を行っている割合は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに約 7 割となっている一方で、費用負担を感じている保護者も多く、費用がかかることで活動できない小学 5 年生、中学 2 年生も一定数いることから、居場所・体験機会の確保と費用負担が同時に課題となっている。（P28～P29、P55～P56）

6 子育て世帯の経済的負担と、学齢期まで切れ目のない支援

子育てに関する費用については、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者の約 7 割が負担を感じており、負担を感じる項目としては、「食費」が最も多くなっている。また、経済的負担が非常に大きい世帯では、小学 5 年生保護者は、「食費」に次いで、「衣料・服飾費」「学用品」の順で負担を感じており、中学 2 年生保護者は、「食費」に次いで、「習い事」「学校以外の教育費（塾・通信教材など）」の順で負担を感じている。（P27～P29）

ひとり親世帯では、養育費の取り決めをしている家庭は、小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者いずれも 50％程度であり、養育費を受け取っていない家庭が小学 5 年生保護者、中学 2 年生保護者いずれも 60％を超えている。（P30）

また、ひとり親世帯の就労状況からフルタイムの割合が小学 5 年生保護者 54.5％、中学 2 年生保護者で 69.2％となっていることも家計への影響が考えられる。（P12）

7 まちへの愛着を、定住・就労意向につなげる取組

小学 5 年生は、苫小牧市への愛着、在住希望ともに高い傾向があり、「とても好き」「まあ好き」を合わせると約 9 割で、「住みたい」「できれば住みたい」を合わせると、約 7 割となっているが、中・高・大学生世代になると、愛着は 7 割に減少し、在住希望も中学 2 年生で 45.2％、16～18 歳で 35.5％、19 歳～22 歳で 51.2％と低下する。（P84～P85）

一方で、20 代の社会人世代、30 代では、在住希望の割合が高く、23～29 歳で 66.4％、30～39 歳で 68.3％と上昇傾向となり、市内での就職希望についても、「ぜひ働きたい」「できれば働きたい」を合わせると、中学 2 年生と 16～22 歳は 33.1％であるのに対し、23～39 歳では 69.8％となっている。（P73、P86）

保護者においては「子育てしやすい街だと思うか」という設問に対し「どちらとも言えない」が最も多くなっており、住み続けたくない理由においても、「子どもの進学先がない」や「遊ぶところがない」が高い割合を占めており、子育ての観点で見ると決してポジティブな意見ばかりとはなっていない。（P87、P89）

一方、既婚者を除く 16～29 歳までの結婚希望が 70%を超えており、現在こどもがいない方のこどもを持つ意向も 23～29 歳においては 67.4%となっているため、子育てをする上での不安の解消や望まれる子育て支援策の実現が、今後の市の人口維持にとって重要となることが予想される。（P74、P78）

8 こどもの権利

国際条約である子どもの権利条約では、4 つの原則が掲げられているが、小学 5 年生、中学 2 年生、16～18 歳、保護者のいずれにおいても、「命を守られ、成長できること」への実感・意識が高い一方、「こどもにとって最もよいことを第一に考えること」「意見を自由に表明し、参加できること」「すべてのこどもは、どんな理由でも差別をされないこと」については、こどもの実感、保護者の意識がともに低い傾向にあり、こどもの実感の低さは、保護者の意識の低さより顕著になっている。（P80～P81）

9 外国籍住民との共生

本市では、外国籍市民の継続的な増加を背景に、外国人材が活躍する社会の実現や日本人との共生を目指し、すべての市民が住みやすいまちづくりに取り組んでいる。

こども・若者の孤独を感じる頻度については、日本人、外国人ともに高い傾向にあり、孤独を感じることが「よくある」「ときどきある」「たまにある」を合わせると、日本人は 48.7%、外国人は 63.6%となっているが、日本人は孤独を感じることが「あまりない」の回答が 29.2%と最も多いのに対し、外国人は「よくある」が最も多く、27.3%となっている。（P48～P49）

「日本人だけでなく外国人の子どもや若者も地域で安心して暮らし、交流できる機会が増えるとうれしい」という声もあることから、相互理解・交流の場を創出することが望まれている。また、外国人住民が日本語を理解し、話すことができるよう、日本語を学ぶことができる場があると相互理解促進に効果的であると考えられる。

苫小牧市こども計画策定に向けたアンケート調査結果報告書

（令和 8 年 11 月）

苫小牧市こども未来部こども政策課

〒053-8722 苫小牧市旭町 4 丁目 5 番 6 号

Tel：0144-32-6224